

TEC

テック バーコードプリンタ

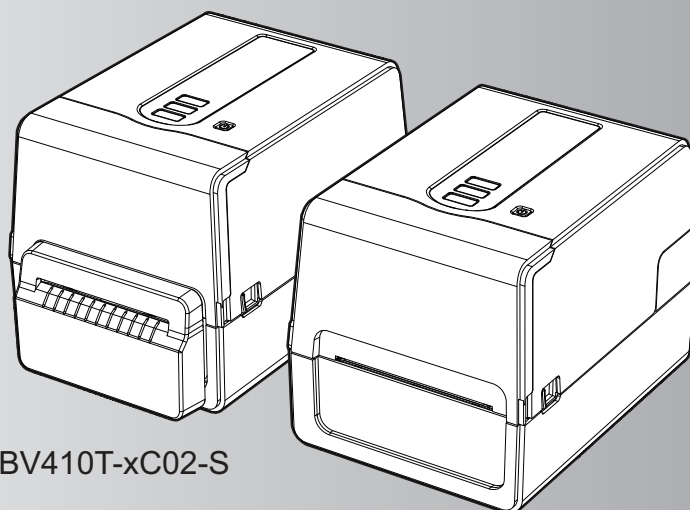
取扱説明書

BV410T-GS02-S

BV410T-TS02-S

BV410T-GC02-S

BV410T-TC02-S



BV410T-xC02-S

BV410T-xS02-S

- このたびは弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
- お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。




はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本機を最良の状態でお使いいただくために、この取扱説明書をいつもお手元に置いて有効にご活用ください。

■ 本書の読みかた

□ 本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

 警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷*1を負う可能性があること」を示しています。
 注意	「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性、または物的損害*3が発生する可能性があること」を示しています。
注意	操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。
補足	操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。
	関連事項を説明している参照先を示しています。必要に応じて参照してください。

*1 重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。

*3 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

□ 本書の対象読者について

本書は一般使用者および機器管理者向けの取扱説明書です。

□ 重要なお知らせ

- 本機（ソフトウェアを含む）をお使いになるときは、必ず本書に従ってください。
- 本書の内容の一部または全部を、弊社に無断で複写、複製、転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。本書の内容については万全を期しております。万一、ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。

□ 免責事項

- 本機（ソフトウェアを含む）について、次のいずれかに該当して発生した障害については、弊社は責任を負いません。

1. 取扱説明書記載事項に反するお取り扱い、お取り扱い上のはなはだしい不注意および誤用の場合
2. 火災、天災、地震、異常電圧およびこれに類する災害による場合
3. 弊社が認定するサービスエンジニア以外による改造、分解、移動、修理に起因する場合
4. 弊社が推奨する用紙、その他消耗品、部品以外の使用による場合

上記以外の場合においても、本製品、オプション、およびそれらに付属または内蔵のソフトウェアの使用または使用不能（故障、誤動作、ハングアップ、ウイルス感染その他の不具合を含むが、これに限定されない）から生じた、逸失利益、データの損失、その他特別な、付随的、結果的、間接的損害をはじめとする損害、および第三者からの請求等について、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合であっても、弊社は一切責任を負いません。弊社が関与しないハードウェア、ソフトウェアなどとの組み合わせによる使用不能（故障、誤動作、ハングアップ、ウイルス感染その他の不具合を含むが、これに限定されない）から生じた損害に関し、弊社は一切責任を負いません。

- 本機（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、日本国外の規格などには適合していません。本機（ソフトウェアを含む）を日本国外で使用された場合、弊社は責任を負いません。また、弊社は本機に関する日本国外での保守サービス、および技術サポートなどは行っていません。

□ 製品が使用済みとなった場合は

製品が使用済みとなった場合の廃棄方法については、弊社販売店またはサービスエンジニアにご相談ください。

□ 本文中の画面と操作手順の説明について

お使いの機種やオプション機器の装着状況、OSのバージョンやアプリケーションによっては、表示される画面が異なることがあります。

□ 無線機器に対する使用上のご注意

本機は、オプションとして無線機能を用意しています。
以下の注意事項は、本機の無線機能に対してのみ適用されます。

使用可能地域

本製品は無線装置であり、使用できる国・地域は日本国内に限定されます。日本以外の国・地域で使用するとその国・地域の法律により罰せられることがあります。

使用時の注意事項

本製品は、電波法で定められた無線局の無線設備として、技術基準適合認証を受けています。したがって、日本国内のみの使用目的において、無線局の免許は必要ありません。ただし、本製品を分解・改造すること、証明表示をはがしたりすると、法律により罰せられることがあります。

- 航空機内や病院などの使用を禁止された場所では使用しない
禁止場所が不明な場合、航空会社や医療機関に確認のうえ、指示に従ってください。誤って使用すると、運行装置や医療機器などに影響を与え、事故の原因となります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器への影響
本製品は携帯電話などと比べて非常に小さい電力を使用しており、心臓ペースメーカーや除細動器への干渉の可能性は非常に低いと考えられます。
万一、本製品の使用に際して、心臓ペースメーカーおよび除細動器への影響が生じた可能性がある場合、直ちに使用を中止し、医師にご連絡ください。
- 分解・改造・修理をしない
けがの原因となります。分解・改造は電波法違反にもなります。修理は最寄りのサービスステーションへご依頼ください。
- 電波環境の調査を行うこと
本機を使用する場合は必ず電波環境調査を行い、運用に支障が無いことをご確認ください。電波環境調査については、お買い上げの販売店へご相談ください。

機能について

本製品は、電波を利用して通信を行います。したがって、設置場所、設置方向、使用環境、通信距離などにより通信性能が低下したり、通信障害が発生したり、近くの機器に影響を与えたりすることがあります。

- 電子レンジのそばで使用しないこと
電子レンジの電波の影響で、通信性能の低下や通信エラーが発生することがあります。
- 金属製の机や台の上、金属物のそばで使用しないこと
通信性能低下の原因となります。

2.4GHz帯域使用製品について

本製品の使用周波数帯域では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局または特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して、電波干渉の事例が発生した場合は、すみやかに使用周波数を変更するか、電波の発射を停止したうえ、最寄りのサービスステーションへご連絡いただき、混信回避のための処置等（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

-
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して、電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、最寄りのサービスステーションへお問い合わせください。

5GHz帯域使用製品について

5GHz帯の電波を使用して屋外で通信しないでください。5GHz帯の無線設備を屋外で使用することは法律により禁止されています。

屋外で本機の無線LANを使用する場合は、5GHz帯を使用せずに2.4GHz帯をご使用ください。

商標について

- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Bluetooth®は、Bluetooth SIG Inc.の商標で、当社はライセンスに基づき使用しています。
- Androidは、Google LLCの商標または登録商標です。
- iPadおよびiPhoneは、米国と他国で登録されたApple Inc.の商標です。iPad AirおよびiPad miniは、Apple Inc.の商標です。iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- iOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- 本書に記載している会社名、商品名は、各社の登録商標または商標になっている場合があります。

Windowsオペレーティングシステムの正式名称について

- Windows 10の正式名称は、Microsoft Windows® 10 Operating Systemです。
- Windows 11の正式名称は、Microsoft Windows® 11 Operating Systemです。
- Windows Server 2016の正式名称は、Microsoft Windows Server® 2016 Operating Systemです。
- Windows Server 2019の正式名称は、Microsoft Windows Server® 2019 Operating Systemです。

公的規格等について

- 本機は、EU RoHS指令（2011/65/EUおよび(EU)2015/863）の特定有害物質使用制限に対応しています。

もくじ

はじめに.....	3
第1章 製品概要	
付属品の確認	10
各部の名称と働き	11
外観.....	11
印字機構部.....	12
操作パネル.....	13
電源およびインターフェース部.....	14
第2章 セットアップ	
本機をお使いになる前の準備	18
設置場所について	18
ACアダプタ/電源コードを接続する.....	19
コンピュータと接続する	21
電源をON/OFFする	31
電源をONにする	31
電源をOFFにする	32
用紙の取り付け	33
用紙の取り付け手順.....	34
カッター装着時の用紙取り付け手順	39
剥離モジュール装着時の用紙取り付け手順.....	41
ファンフォールド紙の取り付け手順	43
外置き用紙ホルダー使用時の用紙の取り付け手順.....	46
リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）	50
用紙検出センサーの位置調整	55
透過センサー（固定）の位置の確認	55
反射センサー（可動）の位置調整	55
第3章 メニューの操作	
本機のメニュー構成	58
オンラインモード	59
アイコン表示の意味.....	59
用紙発行動作を一時停止する	60
エラーの内容を確認して対処する	61
スレッシュールド設定モード	62
スレッシュールドの設定（プレ印刷用紙を使用する）.....	62
インフォメーションモード	66
用紙フィード量の表示と印刷	66
ユーザーモード	69
ユーザーモード画面とキーの機能.....	69
ユーザーモードへの移行方法	70
ユーザーモードを終了する.....	71
パラメータ設定操作.....	72
手動スレッシュールド設定	86
システムツール.....	87
発行制御設定	89
発行条件確認	91
リボン紙管内径設定.....	93

リセット操作	93
システムモードの機能	94
システムモードへの移行方法	94
自己診断	95
テスト印字	110
センサー	113
RAMクリア	119
INTERFACE	126
RFID設定	130
LCD表示設定	139
パスワード設定	141

第4章 日常のお手入れ

本機の清掃	144
カバー	144
印字ヘッド	145
用紙検出センサー	145
プラテン	146
用紙収納部	146
カッター（オプション）	147
剥離モジュール（オプション）	147

第5章 困ったときは

困ったときは	150
エラーメッセージ（BV410T）	150
正しく動作しないとき	155
用紙がつまったとき	157
リボンが途中で切れたとき	159
リボンの巻きが乱れたとき	160

第6章 付録

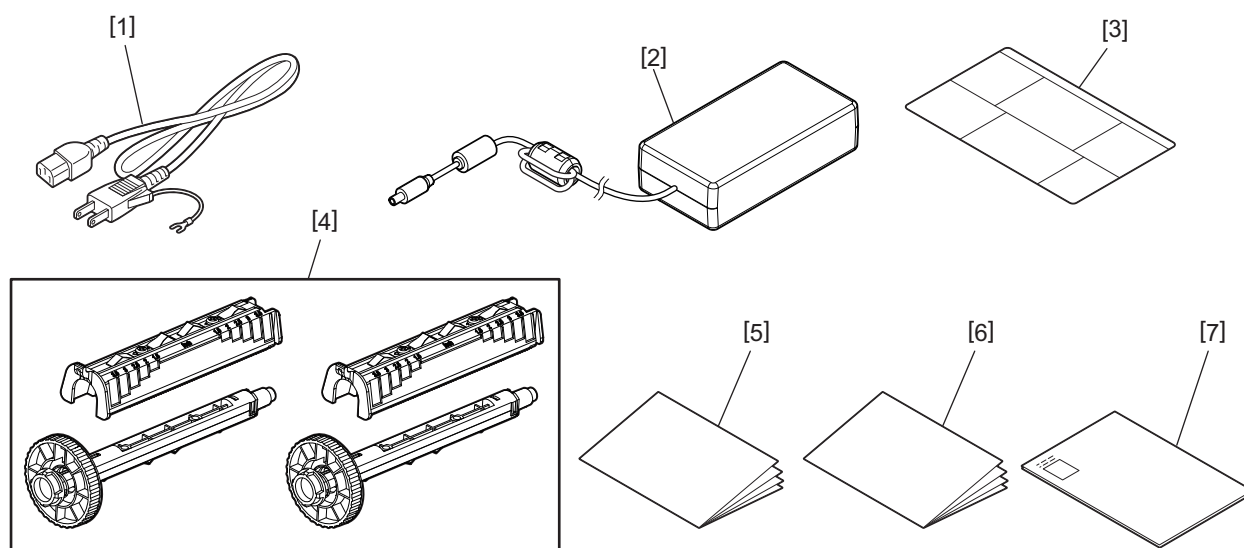
仕様	164
本機の仕様	164
用紙の仕様	166
RFIDタグ紙の仕様	168
リボンの仕様	171
保障とアフターサービス（必ずお読みください）	173
サービスステーション所在地一覧	175
消耗品の交換方法	176
用紙	176
リボン	178

製品概要

付属品の確認.....	10
各部の名称と働き	11
外観.....	11
印字機構部.....	12
操作パネル.....	13
電源およびインターフェース部.....	14

付属品の確認

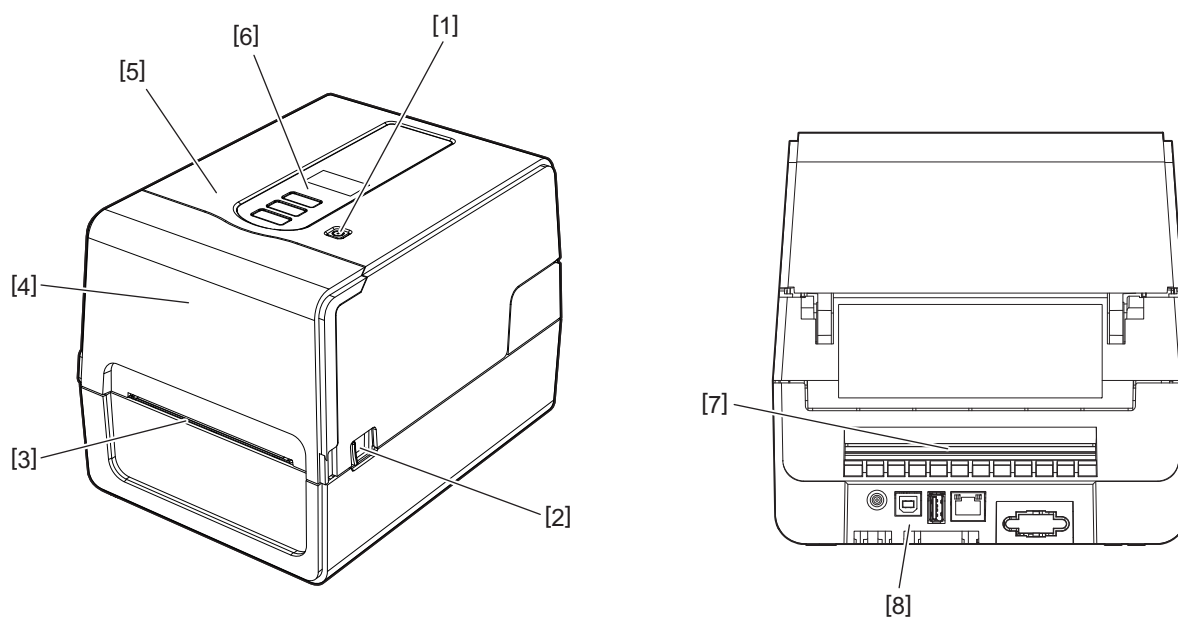
付属品がすべて揃っているか確認してください。
万一、不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店まで連絡してください。



No.	部品名称
1	電源コード (1本)
2	ACアダプタ (1個)
3	用紙セット手順説明ラベル (1枚) プリンタ内部に同梱されています。開梱後は、見やすい場所に貼ってお使いください。
4	リボンスプーラー、リボンスプーラーアタッチメント (1式)
5	安全にお使いいただくために (1式)
6	クイックセットアップガイド (1式)
7	ユーザー登録はがき (1式)

各部の名称と働き

■ 外観

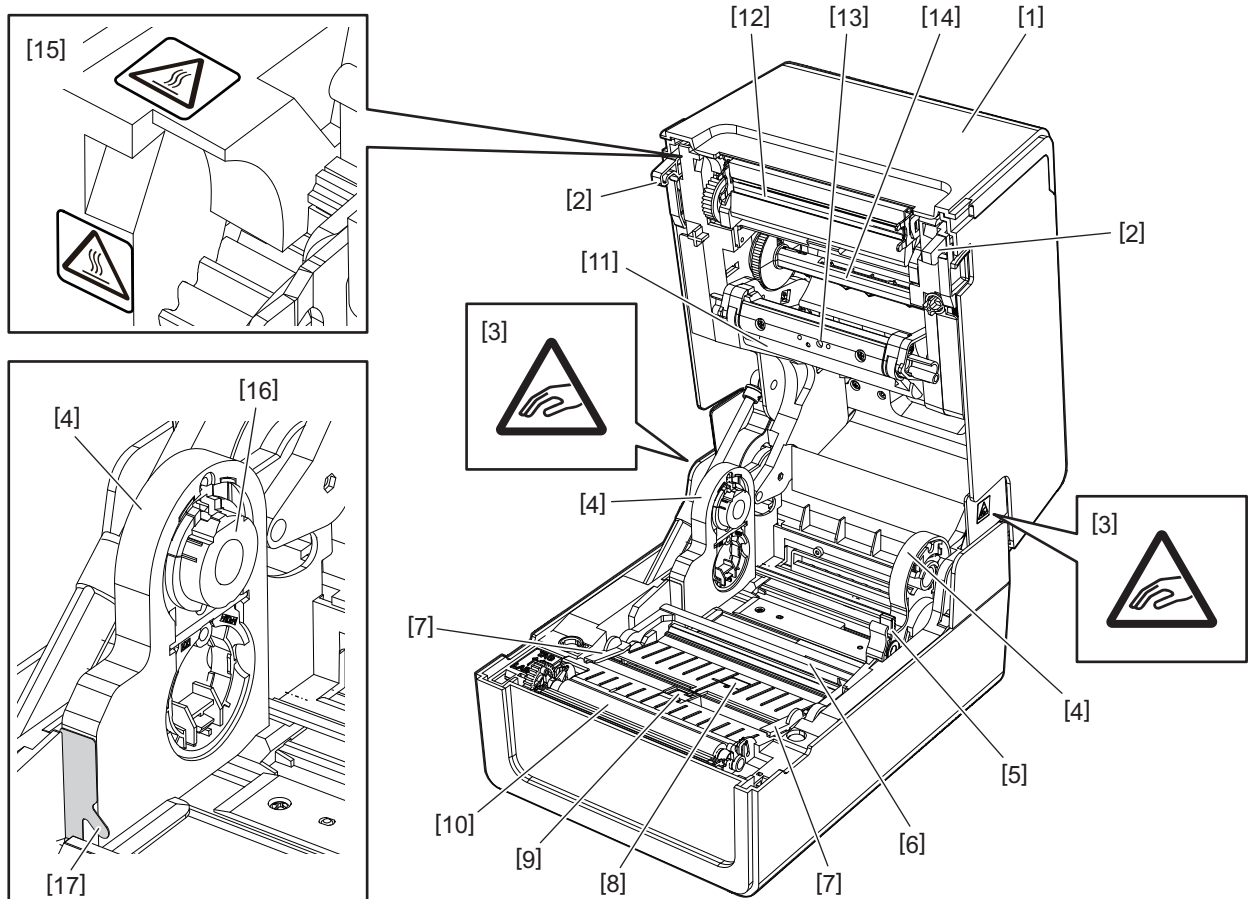


No.	部品名称
1	電源スイッチ 本機の電源をON/OFFします。
2	トップカバー開放レバー トップカバーを開けるときに押します。
3	用紙発行口 印字された用紙の発行口です。
4	リボンカバー
5	トップカバー
6	操作パネル キーを使用して本機を操作します。 📖 P.13 「操作パネル」
7	用紙挿入口 用紙を本機の外に置いて使用するときの用紙挿入口です。
8	電源およびインターフェース部 📖 P.14 「電源およびインターフェース部」

■ 印字機構部

⚠ 注意

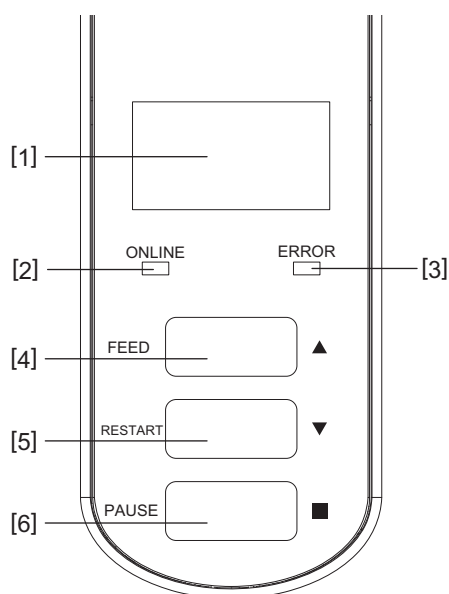
- **高温注意**
高温に注意してください。
- **手挟み注意**
カバーを閉めるときに、カバーや周辺部品による手挟みに注意してください。



No.	部品名称	No.	部品名称
1	リボンカバー	10	プラテン
2	トップカバー固定フック	11	用紙ダンパー（上）
3	手挟み注意ラベル カバーを閉めるときに、カバーや周辺部品による手挟みに注意してください。	12	印字ヘッド
4	用紙ホルダー	13	透過センサー（上）
5	ホルダー固定レバー	14	リボンスプラー
6	用紙ダンパー（下）	15	高温注意ラベル 高温に注意してください。
7	用紙ガイド	16	紙管ホルダー
8	透過センサー（下）	17	外巻き用紙フック
9	反射センサー		

■ 操作パネル

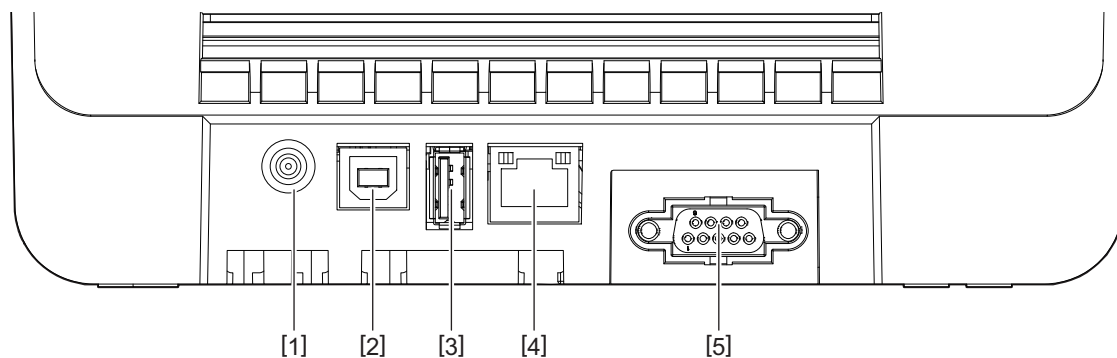
□ BV410T



No.	部品名称
1	液晶表示器（LCD）（128×64ドット） 本機の状態を英字、数字、カタカナ、漢字、記号やアイコンで表示します。
2	ONLINEランプ（青色） <ul style="list-style-type: none"> • コンピュータとの通信が可能な状態のとき点灯します。 • コンピュータとの通信を行っているとき点滅します。 • 省電力中にゆっくり点滅します。 • 電源OFF時、ERRORランプと同じタイミングで点滅します。
3	ERRORランプ（オレンジ色） <ul style="list-style-type: none"> • 何らかの不具合が本機に起こっているとき点灯します。 • 電源OFF時、ONLINEランプと同じタイミングで点滅します。
4	[FEED] キー <ul style="list-style-type: none"> • 用紙を1枚分紙送りするとき、または1枚排出するときに使います。 • 用紙の位置を合わせるときに使います。 • 各種設定に使います。 <p>注意</p> 用紙やリボンを交換した後には [FEED] キーを押して10～20 cmほど紙送りし、正しく紙送りすることを確認してください。印字シワが発生する場合は、さらに数回 [FEED] キーを押してください。
5	[RESTART] キー <ul style="list-style-type: none"> • 発行の一時停止後の再発行を行うときに使います。 • エラーを解除して再発行するときに使います。ただし、一部のエラーは [RESTART] キーで解除できません。 □ P.150 「エラーメッセージ（BV410T）」 • 各種設定に使います。 • 電源投入後の初期状態にします。

No.	部品名称
6	[PAUSE] キー <ul style="list-style-type: none"> • 発行を一時的に停止するときに使います。 • ヘルプ表示を行います。 • 各種設定に使います。

■ 電源およびインターフェース部



No.	部品名称
1	電源ジャック ACアダプタのDCプラグを接続します。
2	USBポート USBケーブルを接続するコネクタです。
3	USBホスト USBメモリを接続するコネクタです。
4	LANポート LANケーブルを接続するコネクタです。
5	シリアルインターフェースポート (オプション)

□ 使用できるUSBメモリ

USBメモリには、受信バッファの内容や動作ログ情報を保存できます。

📖 P.87 「システムツール」

市販されている各種USBメモリを使用できます。ただし、使用できるUSBメモリの詳細についてはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

使用できるUSBメモリのファイルシステム

ファイルシステム	最大容量
FAT (FAT16)	2 GB
FAT32	8 GB

本機で動作確認済みのUSBメモリ

メーカー	製品名	容量
SILICON POWER	ULTIMA-U02	32 GB、64 GB
BUFFALO	RUF3-KV	16 GB、32 GB
I/O DATA	U3-LC	256 GB、512 GB、1 TB
	U3-MAX2	16 GB、32 GB、64 GB、128 GB、256 GB
Kingston	DataTraveler	32 GB、64 GB、128 GB、256 GB

補足

USBメモリは操作の直前に挿入すれば使えます。事前に挿入しておく必要はありません。

セットアップ

本機をお使いになる前の準備	18
設置場所について	18
ACアダプタ/電源コードを接続する	19
コンピュータと接続する	21
電源をON/OFFする	31
電源をONにする	31
電源をOFFにする	32
用紙の取り付け	33
用紙の取り付け手順	34
カッター装着時の用紙取り付け手順	39
剥離モジュール装着時の用紙取り付け手順	41
ファンフォールド紙の取り付け手順	43
外置き用紙ホルダー使用時の用紙の取り付け手順	46
リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）	50
用紙検出センサーの位置調整	55
透過センサー（固定）の位置の確認	55
反射センサー（可動）の位置調整	55

本機をお使いになる前の準備

ここでは本機の設置、コンピュータとの接続、および電源コードの接続について説明します。

■ 設置場所について

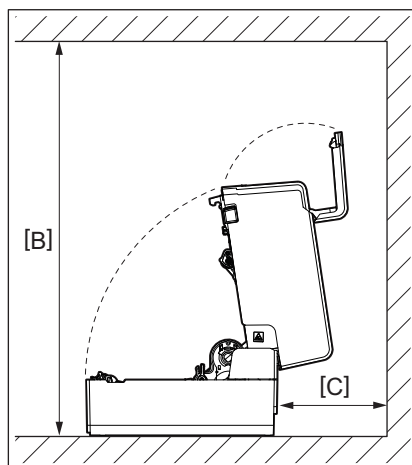
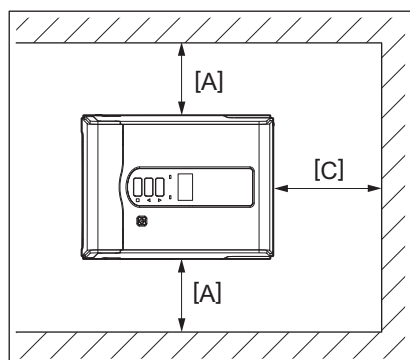
⚠ 注意

次のような場所には設置しないこと

- 直射日光が当たる場所
- 窓際
- 高温、多湿な場所
- 急激な温度変化がある場所
- 振動のある場所
- ほこりが多い場所
- 磁気や電磁波を発生する機器の近く
- 火気や水気に近い場所
- 不安定な台の上

火災・感電・けがの原因となることがあります。

操作するための十分なスペースが確保でき、風通しが良く、平坦で水平な場所に本機を設置してください。また、本機の周辺には、以下の図のような空間を確保してください。



[A]: 100 mm

[B]: 550 mm

[C]: 150 mm

■ ACアダプタ/電源コードを接続する

付属のACアダプタと電源コードは、次の手順でコンセントに接続してください。
また、電源プラグにはアース線が付いていますので、必ずアース端子に接続してください。

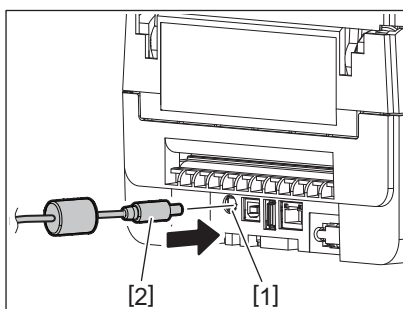
⚠ 警告

- 交流100V以外のコンセントに差し込まないこと
火災・感電の恐れがあります。
- 本機はコンセントの近くに設置し、かつ人が容易に電源プラグをコンセントから抜けるように据え付けること
- 電源コード・ACアダプタは本体付属品を使用すること
付属品以外の電源コード・ACアダプタを使用すると、火災の恐れがあります。また、付属の電源コード・ACアダプタを本機以外の機器に使用しないでください。
- たこ足配線や延長コードを使用した配線はしないこと
電源容量を超えると、火災・感電の恐れがあります。
- 電源コードは無理に曲げたり、傷つけたり、引っ張ったり、重いものを載せたり、加熱したりしないこと
電源コードを傷つけると、火災・感電の恐れがあります。万一、電源コードを傷つけたときは、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。
- アース線は必ずアース端子に接続すること
万一漏電した場合、火災・感電の恐れがあります。ただし、事故や故障の原因になることがありますので、ガス管、水道管、蛇口、避雷針などには接続しないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないこと
濡れた手で抜き差しすると、感電の恐れがあります。

⚠ 注意

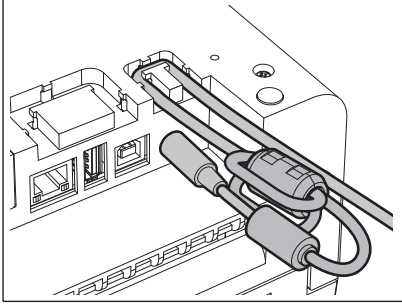
- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込むこと
確実に差し込んでいないと、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜くこと
電源コードを引っ張ると、中の芯線が切れたり露出したりして、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは年1回以上コンセントから抜き、プラグの刃と刃の周辺部分を清掃すること
ほこりがたまると、火災の原因となることがあります。
- 電源コードを抜くときは、本体の電源がOFFになっていることを確認すること
電源ONの状態では電源コードを抜くと、故障の原因となります。

1 背面の電源ジャック [1] に、ACアダプタのDCプラグ [2] を接続します。

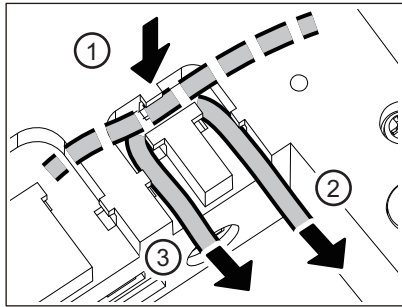


補足

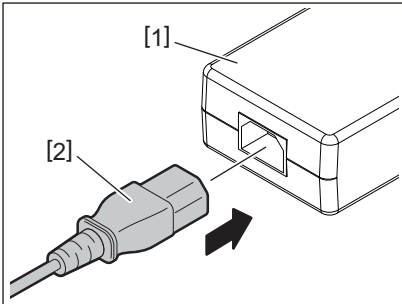
DCプラグケーブルを底面の溝に通しておくことで、ケーブル抜けを防止できます。



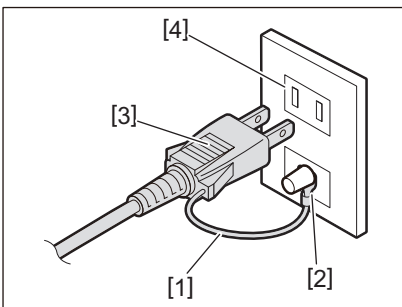
以下の図に示す順にケーブルを溝にはめ込みます。



2 ACアダプタ [1] に電源コード [2] を接続します。



3 アース線 [1] はキャップを外してからアース端子 [2] に接続し、電源プラグ [3] を根元まで確実にコンセント [4] に差し込みます。



注意

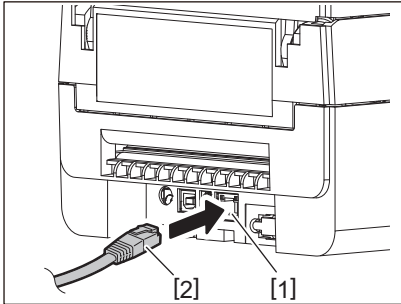
- アース線は切断しないでください。切断するとアース端子に接続できなくなり、故障の原因となります。
- 接地接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、接地接続を外す前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ コンピュータと接続する

コンピュータと接続するときは、次の手順で行ってください。
コンピュータとの通信方法により、使用する通信ケーブルが異なります。
詳細はお買い上げの販売店にご相談ください。

LANケーブルで接続する

- 1 本機後部のLANポート [1] に、LANケーブル [2] のコネクタを接続します。



補足

本機およびコンピュータの電源をOFFにする必要はありません。

- 2 LANケーブルのもう一方のコネクタを、コンピュータのLANポートに接続します。
コンピュータへの接続は、お使いのコンピュータの取扱説明書を参照してください。

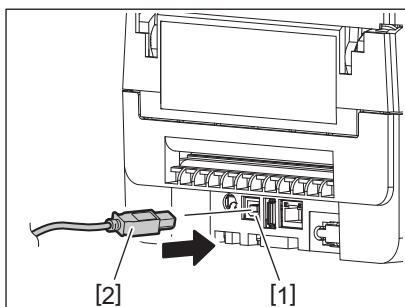
注意

- LANケーブルは、規格に合ったものをご使用ください。
 - 10BASE-T規格：カテゴリー 3以上
 - 100BASE-TX規格：カテゴリー 5以上
 - ケーブル長：セグメント長最大100mまで
- 接続するLAN環境やノイズ環境によっては、通信エラーが起こる場合があります。その場合は、シールドケーブル（STP）や接続機器のマッチングが求められることがあります。

USBケーブルで接続する

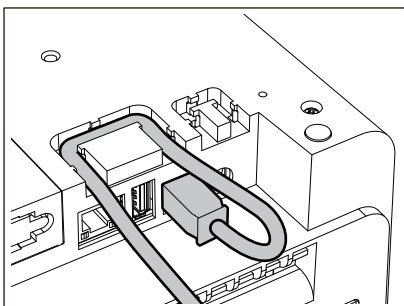
- 1 コンピュータの電源をONにし、Windowsシステムを起動しておきます。
- 2 本機の電源スイッチをONにします。

3 本機後部のUSBポート [1] に、USBケーブル [2] のコネクタを接続します。



補足

USBケーブルを底面の溝に通しておく、ケーブル抜けを防止できます。



4 USBケーブルのもう一方のコネクタを、コンピュータのUSBポートに接続します。

コンピュータへの接続は、お使いのコンピュータの取扱説明書を参照してください。

注意

USBケーブルは2.0以上の規格品で、本機側に接続するコネクタがBタイプのものをご使用ください。

□ Bluetoothで接続する

本機とホスト端末との通信にBluetoothインターフェースを使用するためには、最初に「ペアリング」と呼ばれる接続設定を行う必要があります。

本機では、用途によって2つのペアリングモードが用意されています。

ここではペアリングモードの切り替え方法とホスト端末（Android端末またはiOS端末）とのペアリング方法について説明します。

ペアリングモードは、本機を複数のAndroid端末またはiOS端末で共有して使用する「自動再接続無効モード」と、特定のiOS端末のみで使用する「自動再接続有効モード」が用意されています。

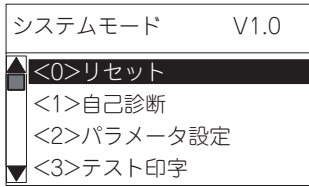
お買い上げ時は「自動再接続無効モード」に設定されております。

現在のペアリングモードは液晶表示器に表示されるCマークで確認することができます。

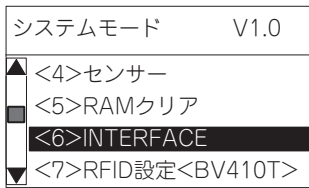
モード名	電源ON時のアイコン表示	用途	機能
自動再接続有効モード	Cマーク点灯	特定のiOS端末のみで使用します。	電源投入後に、最後に接続していたホスト端末への接続を試みます。
自動再接続無効モード	Cマーク消灯	複数のAndroid端末またはiOS端末で共有して使用します。	電源投入後にホスト端末からの接続を待ちます。ホスト端末からのペアリング操作が必要になります。

Bluetoothモードの設定

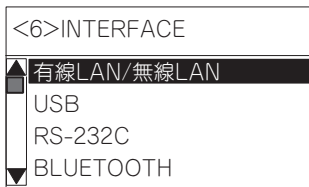
- 1 本機の電源スイッチをOFFにしておきます。
- 2 [FEED] と [PAUSE] キーを押しながら電源をONにします。
システムモードとなります。



- 3 [FEED] キーで [<6>INTERFACE] メニューを選択します。



- 4 [PAUSE] キーを押します。
 [<6>INTERFACE] 画面を表示します。



- 5 [FEED] キーで [BLUETOOTH] サブメニューを選択します。



- 6 [PAUSE] キーを押します。
 [BLUETOOTH] 設定画面を表示します。

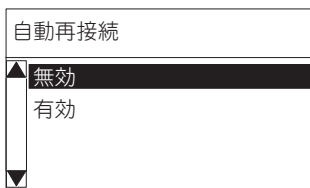


- 7 [FEED] キーで [自動再接続] を選択します。

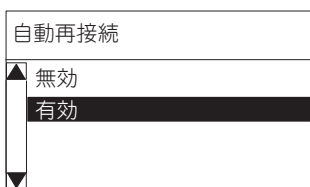


8 [PAUSE] キーを押します。

[自動再接続] 設定画面を表示します。

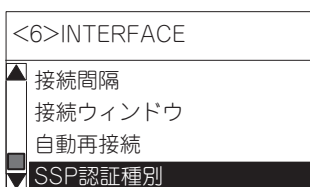


9 [FEED] または [RESTART] キーで [自動再接続] の [有効] / [無効] を選択します。



10 [PAUSE] キーを押します。

[BLUETOOTH] 設定画面に戻ります。



11 本機を再起動します。

Androidペアリング手順

本機の電源を入れた状態で、ホスト端末からペアリング設定を行います。
ペアリング設定時は、本機の自動再接続を [無効] に設定してください。

補足

ご利用のホスト端末やOSのバージョンによって一部表示される画面が異なる場合があります。詳しくは、お使いの製品の取扱説明書をご覧ください。

- 1 アプリの一覧画面で、[設定] をタップします。
- 2 設定画面で [接続] をタップします。



- 3 接続画面で [Bluetooth] をタップします。



4 Bluetooth画面で、スイッチボタンをタップして、オンに設定します。



5 Bluetoothをオンに設定すると、自動的にデバイスを検索します。



6 [使用可能デバイス] から [TOSHIBA TEC BT] をタップします。



7 ペアリング設定が開始されます。



8 [OK] をタップします。



9 本機の [PAUSE] キーを押します。

注意

[PAUSE] キーを押さないと、SSP認証エラーが発生し、ペアリングが完了しません。その場合は再度ペアリング接続を実施してください。

10 [ペアリング済みデバイス] に [TOSHIBA TEC BT] が表示されれば完了です。



注意

ペアリング接続に失敗するとSSP認証エラーが発生します。その場合は再度ペアリング接続を実施してください。

iOSペアリング手順

本機の電源を入れた状態で、ホスト端末からペアリング設定を行います。ペアリング設定時は、本機の自動再接続を [無効] に設定してください。

補足

ご利用のホスト端末によって一部表示される画面が異なる場合があります。詳しくは、お使いの製品の取扱説明書をご覧ください。

- 1 ホーム画面で [設定] をタップします。
- 2 設定画面で [Bluetooth] をタップします。
- 3 Bluetooth画面でスイッチボタンをタップして、オンに設定します。



4 Bluetoothをオンに設定すると、自動的にデバイスを検索します。



5 [TOSHIBA TEC BT] をタップします。



6 [接続済み] と表示されれば完了です。

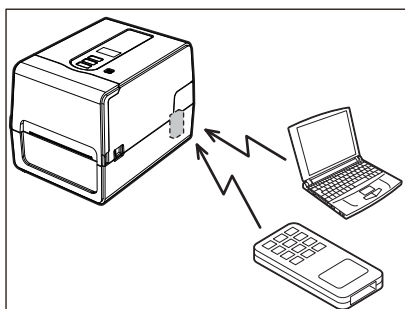


注意

ペアリング接続に失敗するとSSP認証エラーが発生します。その場合は再度ペアリング接続を実施してください。

通信方法

- 1 ホスト端末を本機の3 m以内に近づけます。



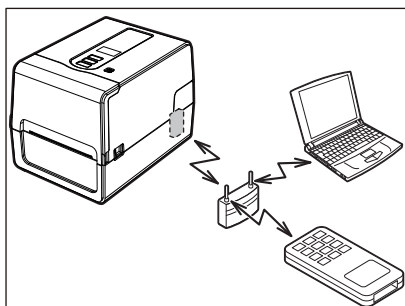
- 2 本機とホスト端末の電源をONにします。
- 3 Bluetoothの接続可能アイコンが点灯していることを確認します。
- 4 ホスト端末側から本機へデータを送信します。

無線LANで接続する

注意

- 無線通信を行う前に、以下の内容をよくお読みください。
P.4 「無線機器に対する使用上のご注意」
- 本機とホスト側の間に、障害物が無いことを確認してください。障害物が間にあると、通信不良の原因となります。

- 1 アクセスポイントのカバーエリアに本機を置きます。



- 2 本機とホスト端末の電源をONにします。
- 3 ホスト端末側から本機へデータを送信します。

補足

本機を使用する環境によっては、通信しにくい場合があります。事前に確認してください。特に金属物の近くや金属粉の多い所、金属壁で囲まれた部屋などでは通信できない場合があります。

電源をON/OFFする

本機は、電源ON時に印字ヘッドやメモリのチェックを行います。また、電源OFF時にはメモリ内のデータを消去します。

注意

電源のON/OFFは、電源スイッチで行ってください。電源プラグの抜き差しでON/OFFすると、故障の原因となります。

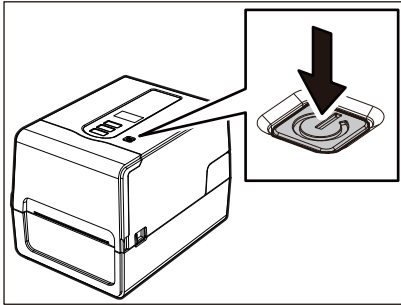
2

セットアップ

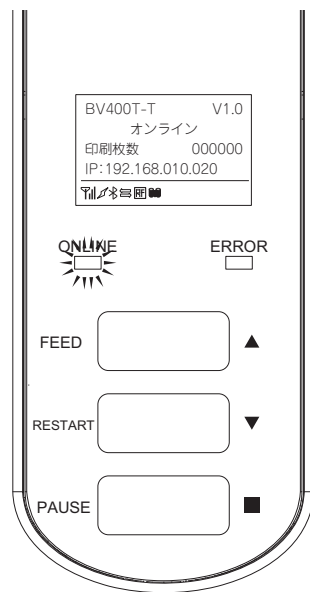
■ 電源をONにする

1 本機の電源スイッチを数秒間押します。

液晶表示器全体が光ったら離します。



液晶表示器に「オンライン」が表示されます。ONLINEランプ（青色）が約15秒点滅した後、点灯します。



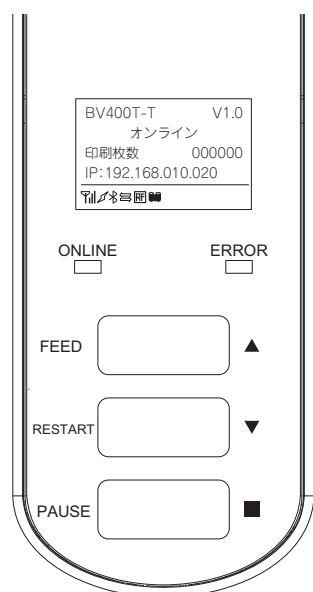
補足

電源が入らなかったり、エラーメッセージが表示されたときは、以下の参照先をご覧ください。

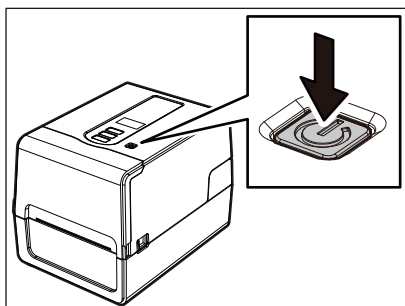
📖 P.150 「困ったときは」

■ 電源をOFFにする

- 1 液晶表示器に「オンライン」が表示された状態で、ONLINEランプ（青色）が早い点滅をしていないことを確認します。



- 2 本機の電源スイッチを数秒間押します。



- 3 液晶表示器の表示が消えます。
ONLINEランプとERRORランプが同時に点滅した後、消灯します。

注意

- 用紙発行中は電源をOFFにしないでください。紙づまりや故障の原因となります。
ただし、本機から異臭がしたり発煙しているときは、直ちに電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ONLINEランプが早く点滅しているときはコンピュータと通信を行っている恐れがあるので、電源をOFFにしないでください。接続しているコンピュータに悪い影響を与えることがあります。

用紙の取り付け

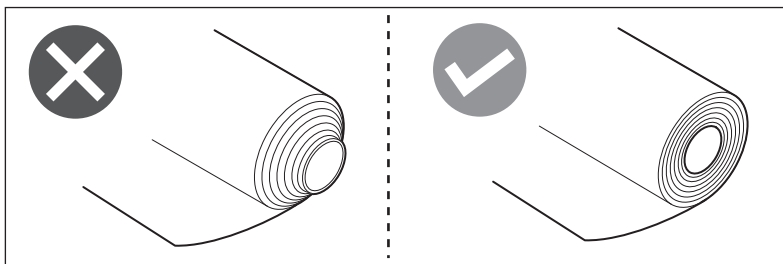
ここでは、本機に用紙（ラベル／タグ）を取り付ける手順について説明します。
用紙は当社認定の純正品をご使用ください。用紙のご用命および用紙の作成につきましては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。

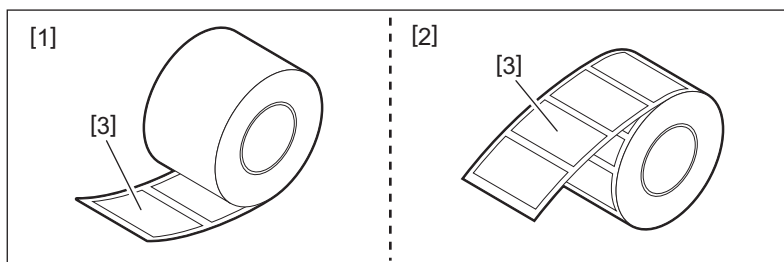
注意

- 本機にセットできる用紙のサイズは次のとおりです。
 - ロール直径：最大127 mm
 - 紙管の内径：25.4 mm、38 mmまたは42 mm
- 外径が127 mmを超えるか、紙管の内径が76.2 mmの場合は、別売りの外置き用紙ホルダーに用紙をセットしてください。
📖 P.46 「外置き用紙ホルダー使用時の用紙の取り付け手順」
- はじめて使用する用紙を取り付けるときは、システムモードの「センサー」で用紙検出センサーの感度調整を行ってください。
📖 P.115 「調整」
- プレ印刷されている用紙を取り付けるときは、スレッシュホールドの設定を行ってください。
📖 P.62 「スレッシュホールドの設定（プレ印刷用紙を使用する）」
- 下図のようにロール紙の断面を平らにしてご使用ください。



補足

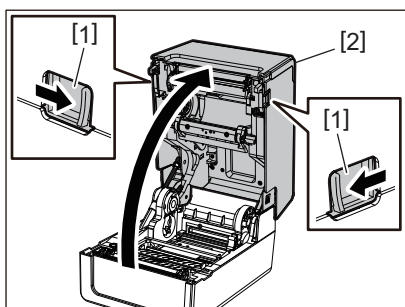
- 用紙には内巻き [1] と外巻き [2] があり、その違いは下図のとおりです。巻く方向に関係なく、印字面 [3] が上を向くように本機に取り付けます。



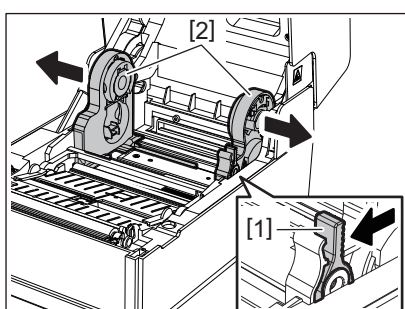
- 当社認定品以外の用紙を取り付けて印字した場合、その結果に対して当社は一切の責任を負いません。

■ 用紙の取り付け手順

- 1 左右のトップカバー開放レバー [1] を矢印の方向に引きながら、トップカバー [2] を全開にします。



- 2 ホルダー固定レバー [1] をつまみながら用紙ホルダー [2] を左右に広げます。

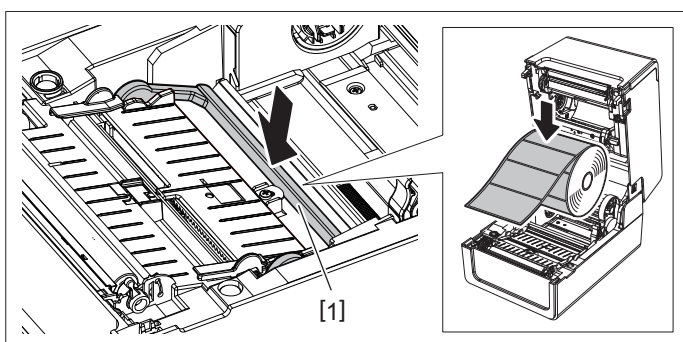


- 3 使用するロール紙の紙管内径に合わせて、紙管ホルダーの位置を切り替えます。

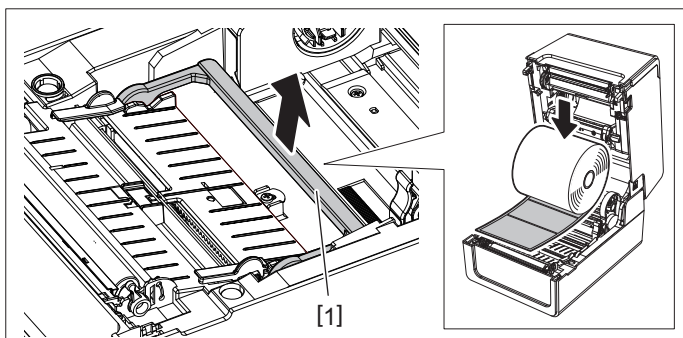
☞ P.37 「紙管ホルダーの動かし方」

- 4 用紙ダンパー（下） [1] の位置を切り替えます。

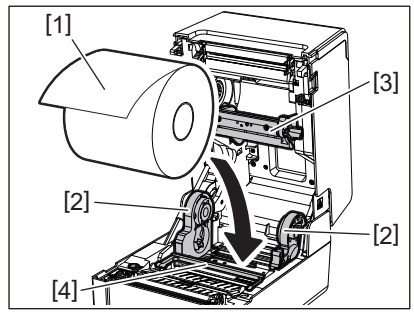
- 外巻き用紙を使用する場合：用紙ダンパー（下） [1] を「パチッ」と音がするまで押し下げて、固定（ロック）された状態にしてください。



- 内巻き用紙を使用する場合：用紙ダンパー（下） [1] を引き上げて、ロックを解除してください。



5 印字面が上になるようにロール紙 [1] を用紙ホルダー [2] の間に置きます。

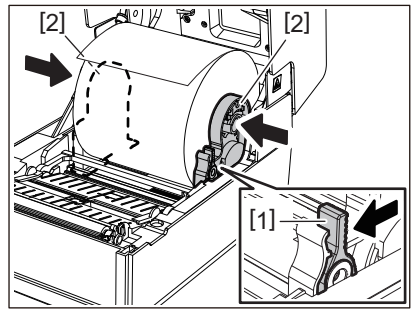


注意

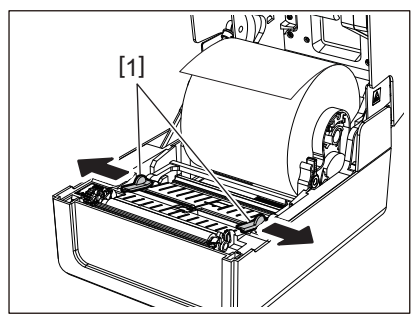
- 用紙の巻き方向に注意してセットしてください。逆にセットすると印字されません。
- 用紙の先端は、ハサミでまっすぐに切りそろえてください。ラベルの場合は、ラベルの間の台紙部を切りそろえてください。
- 用紙をセットする際に、用紙ダンパー（上）[3] と用紙ダンパー（下）[4] を破損しないように気をつけてください。

6 ホルダー固定レバー [1] をつまみながら用紙ホルダー [2] を内側にスライドさせてロール紙をしっかりと固定します。

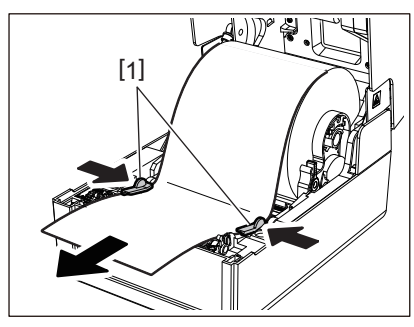
紙管ホルダーの凸部が、紙管に収まっていることを確認してください。



7 用紙ガイド [1] を左右に広げます。



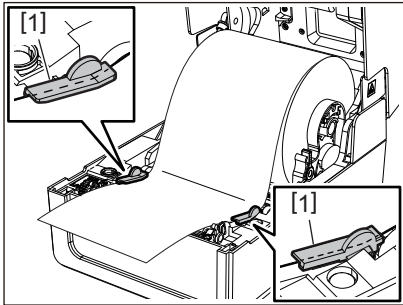
8 用紙の先端が用紙発行口より少し出る位置まで用紙を引き出してから、左右の用紙ガイド [1] に用紙を挟みます。



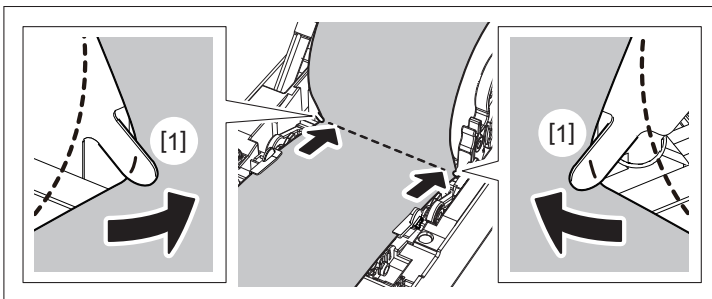
注意

用紙ガイド [1] が用紙を締め付けすぎないように注意してください。用紙を締め付けすぎると、用紙がたわみ、紙づまりや紙送り不良の原因になります。

9 用紙ガイド [1] の下に用紙が通っていることを確認します。



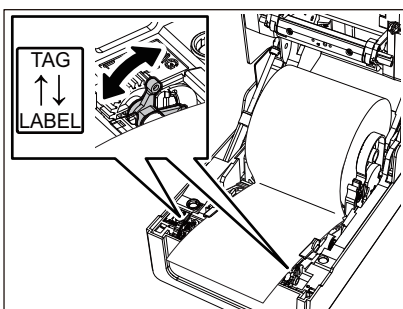
10 外巻き用紙の場合は、用紙の左右両端を指で押して、外巻き用紙フック [1] に用紙を通します。



注意

外巻き用紙フック [1] に用紙を通すときは、用紙にシワを入れたり、傷をつけたりしないように注意してください。シワや傷がある用紙を使用すると、印字不良の原因になります。

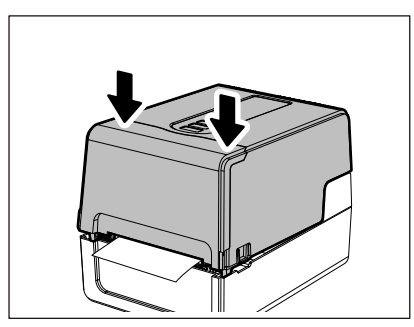
11 セットした用紙の種類に合わせて、プラテンホルダーの左右のレバーを倒します。(ラベル：手前側に倒す、タグ：奥側に倒す。)



注意

幅が50.8 mm未満のタグ紙を使用する場合は、「LABEL」側に合わせてください。

12 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。

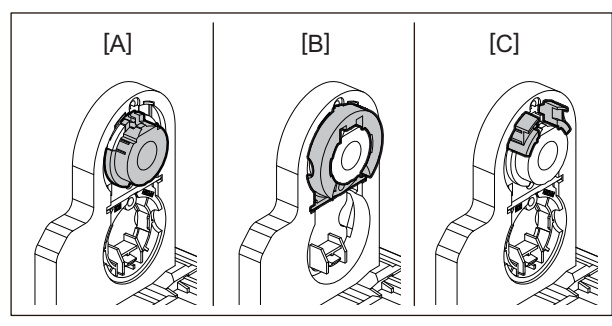


補足

反射センサーを使用する用紙をセットしたときは、反射センサーの位置を調節してください。
 □ P.55 「反射センサー（可動）の位置調整」

□ 紙管ホルダーの動かし方

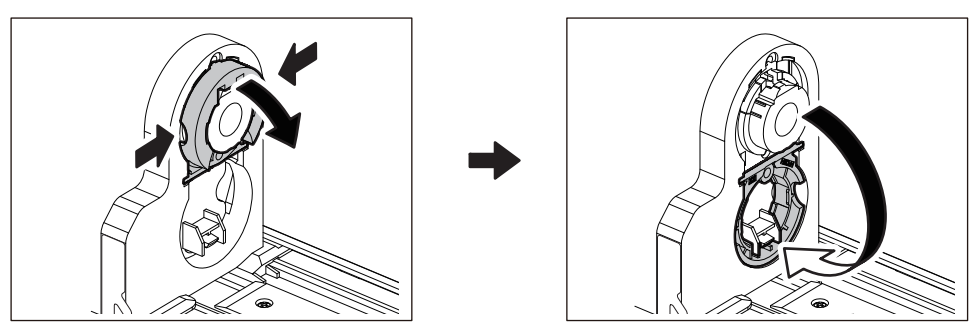
使用するロール紙の紙管内径に合わせて、紙管ホルダーを以下の図に示す位置になるように動かしてください。



- [A] Ø25.4 mm
- [B] Ø38 mm
- [C] Ø40 mm、Ø42 mm

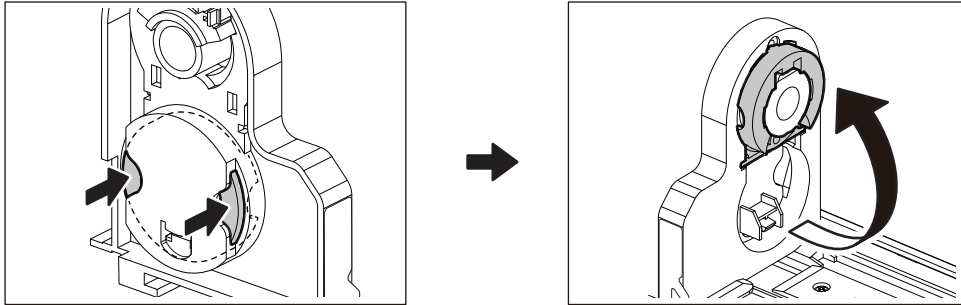
Ø25.4 mm用

Ø38 mm用紙管ホルダーの両側をつまんで手前に引き、下のくぼみに収納します。



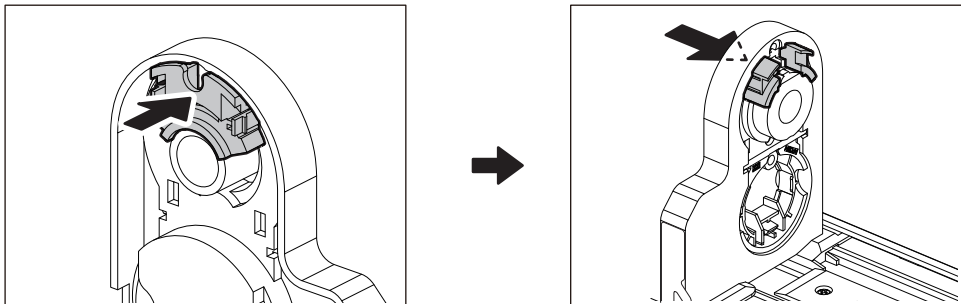
Ø38 mm用

用紙ホルダーの外側から、下のくぼみに収納されているØ38 mm用紙管ホルダーの両側を押し出します。その後、上の紙管ホルダーに被せます。

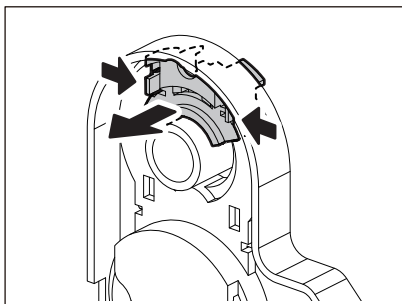


Ø40 mm、Ø42 mm 用

用紙ホルダーの外側から、Ø40 mm、Ø42 mm 用紙管ホルダーを「カチッ」と音がするまで押し出します。



Ø40 mm、Ø42 mm 用紙管ホルダーを元の位置に戻すときは、両側をつまんだ状態で押します。

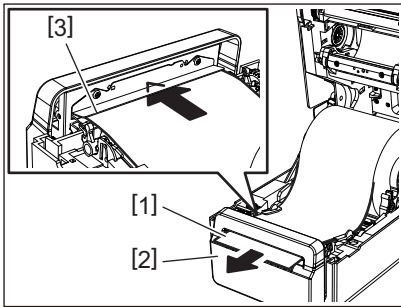


■ カッター装着時の用紙取り付け手順

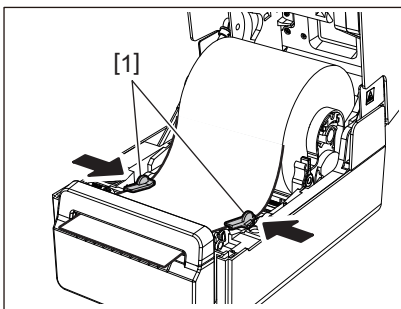
⚠ 注意

カッターの刃に直接触れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 通常用の紙取り付け手順1～7に従って用紙をセットします。
- 2 用紙の先端 [1] をカッターユニット [2] の用紙挿入口 [3] に差し込みます。



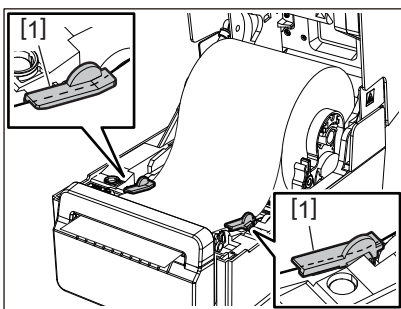
- 3 左右の用紙ガイド [1] に用紙を挟みます。



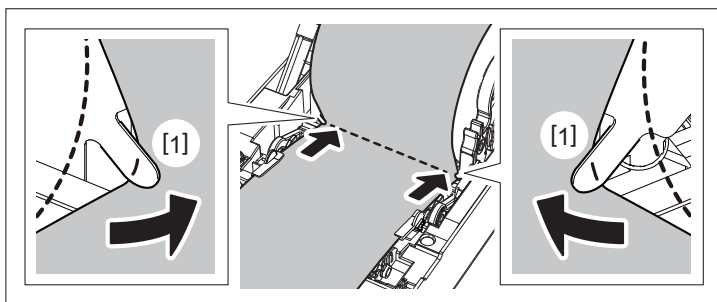
注意

用紙ガイド [1] が用紙を締め付けすぎないように注意してください。用紙を締め付けすぎると、用紙がたわみ、紙づまりや紙送り不良の原因になります。

- 4 用紙ガイド [1] の下に用紙が通っていることを確認します。



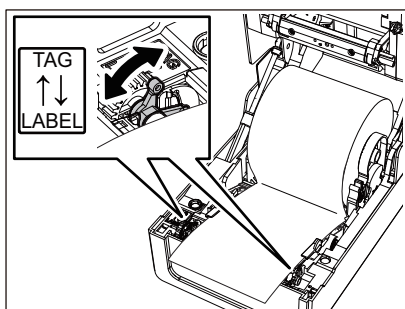
- 5 外巻き用紙の場合は、用紙の左右両端を指で押して、外巻き用紙フック [1] に用紙を通します。



注意

外巻き用紙フック [1] に用紙を通すときは、用紙にシワを入れたり、傷をつけたりしないように注意してください。シワや傷がある用紙を使用すると、印字不良の原因になります。

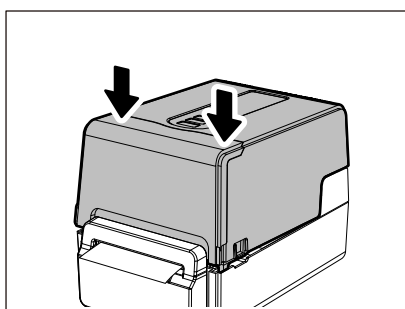
- 6 セットした用紙の種類に合わせて、プラテンホルダーの左右のレバーを倒します。(ラベル：手前側に倒す、タグ：奥側に倒す。)



注意

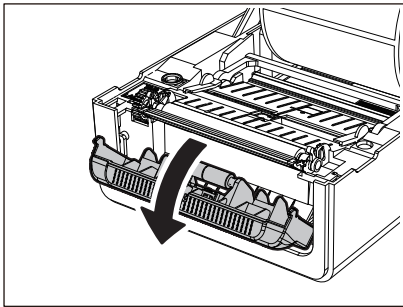
幅が50.8 mm未満のタグ紙を使用する場合は、「LABEL」側に合わせてください。

- 7 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。

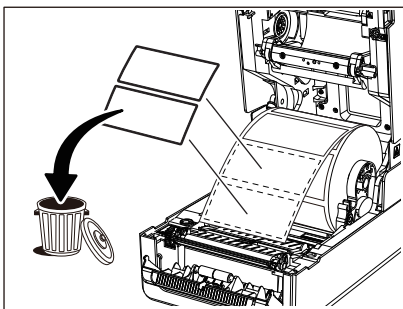


■ 剥離モジュール装着時の用紙取り付け手順

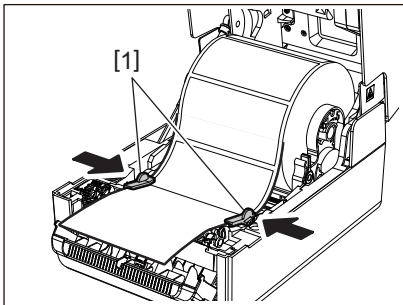
- 1 通常用の紙取り付け手順1～7に従ってラベルロールをセットします。
- 2 剥離ユニットを開きます。



- 3 用紙の先端から約200 mm分の台紙から、ラベルをはがします。



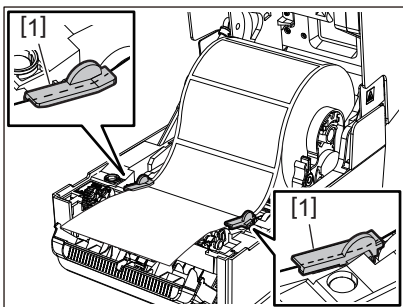
- 4 左右の用紙ガイド [1] に用紙を挟みます。



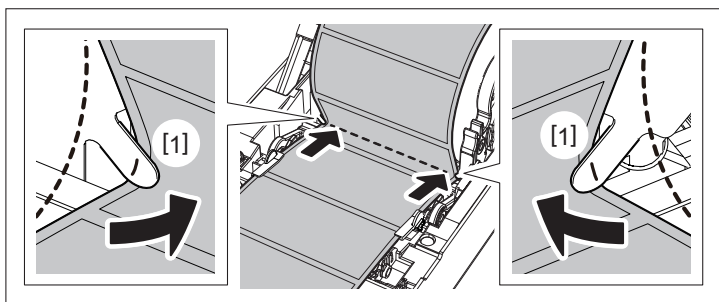
注意

用紙ガイド [1] が用紙を締め付けすぎないように注意してください。用紙を締め付けすぎると、用紙がたわみ、紙づまりや紙送り不良の原因になります。

- 5 用紙ガイド [1] の下に用紙が通っていることを確認します。



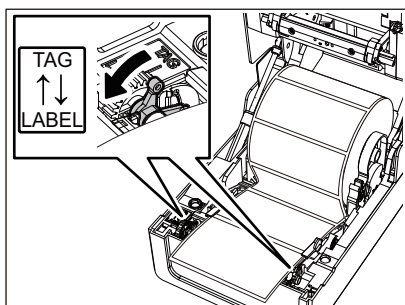
- 6 外巻き用紙の場合は、用紙の左右両端を指で押して、外巻き用紙フック [1] に用紙を通します。



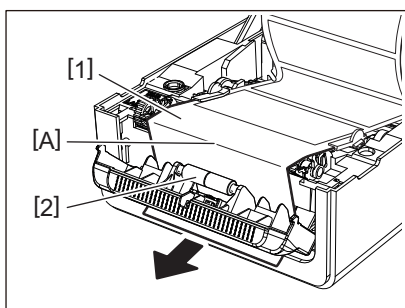
注意

外巻き用紙フック [1] に用紙を通すときは、用紙にシワを入れたり、傷をつけたりしないように注意してください。シワや傷がある用紙を使用すると、印字不良の原因になります。

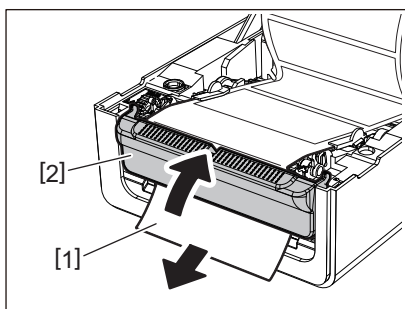
- 7 プラテンホルダーの左右のレバーを手前（「LABEL」側）に倒します。



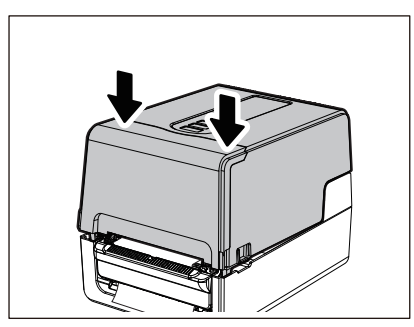
- 8 台紙 [1] を剥離フィードローラー [2] と剥離板の間に通します。



- 9 上図のA部に弛みがないことを確認し、下図のように台紙 [1] を軽く引っ張りながら剥離ユニット [2] を閉めます。

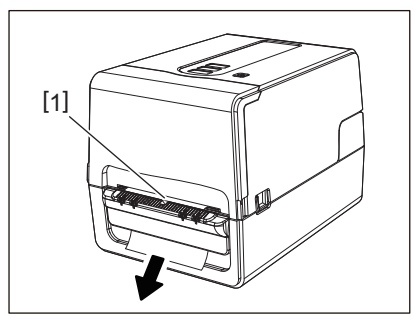


10 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押しing 確実に閉めます。



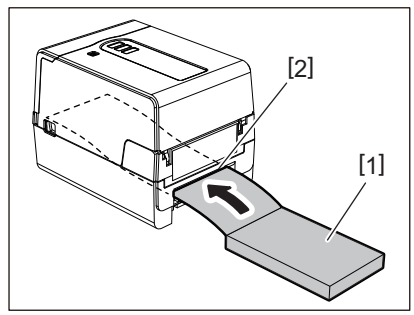
注意

台紙 [1] に弛みがある場合は、下から台紙を引っ張って弛みを取ってください。



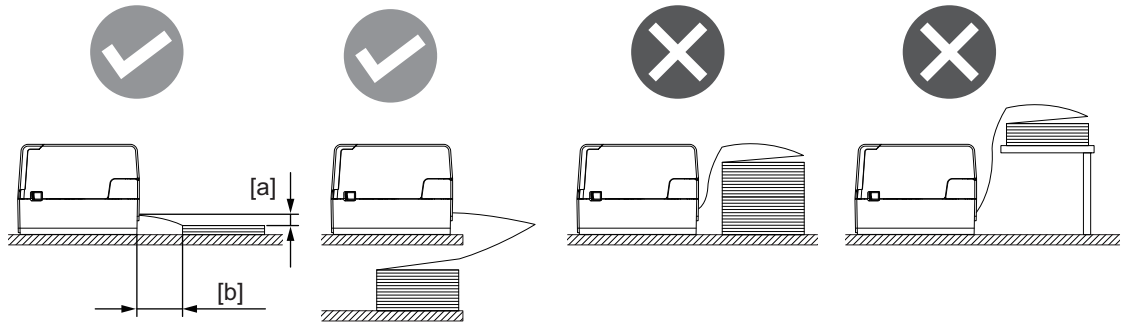
■ ファンフォールド紙の取り付け手順

1 本機背面にファンフォールド紙 [1] を置き、用紙の先端を用紙挿入口 [2] に差し込みます。



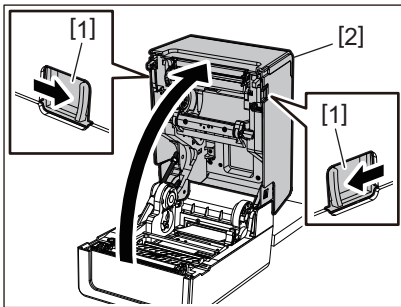
注意

- ファンフォールド紙は印字面を上にして置いてください。
- ファンフォールド紙は用紙挿入口と平行に置いてください。斜めに置くと紙送り不良・紙づまりの原因となります。
- ファンフォールド紙の上面が、本機用の紙挿入口より10 mm以上低い位置 [a] に来るように置いてください。
- 本機とファンフォールド紙を同じ高さの台に置く場合は、ファンフォールド紙と本機の用紙挿入口の間 [b] を100 mm以上空けてください。



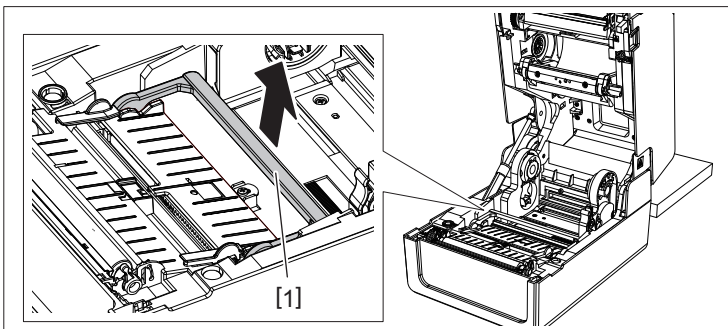
- 通信ケーブルや電源コードなどが、ファンフォールド紙に干渉しないようにしてください。
- 用紙送りエラーが発生する場合は、用紙をプリンタから離してください。

2 左右のトップカバー開放レバー [1] を矢印の方向に引きながら、トップカバー [2] を全開にします。

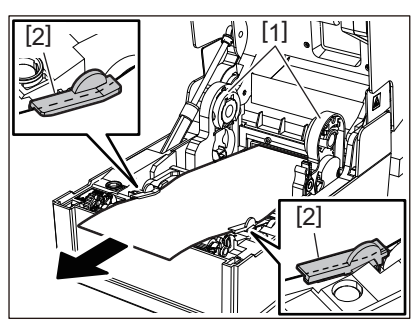


注意

用紙ダンパー（下） [1] を引き上げて、ロックが解除された状態で使用してください。



- 3 用紙ホルダー [1] と用紙ガイド [2] を用紙幅に合わせて左右に広げます。用紙ホルダー [1] と用紙ガイド [2] それぞれの間にファンフォールド紙を通して用紙排出口まで引き出します。

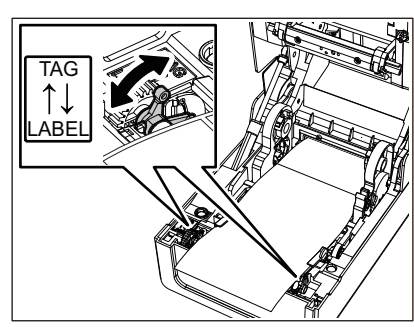


- 4 用紙ホルダーと用紙ガイドを用紙幅に合わせて、用紙とのすき間が空かないように調整します。

注意

用紙ガイドが用紙を締め付けすぎないように注意してください。用紙を締め付けすぎると、用紙がたわみ、紙づまりや紙送り不良の原因になります。

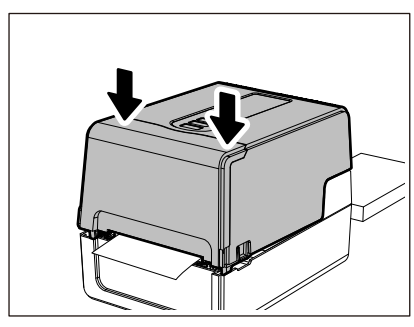
- 5 セットした用紙の種類に合わせて、プラテンホルダーの左右のレバーを倒します。(ラベル：手前側に倒す、タグ：奥側に倒す。)



注意

幅が50.8 mm未満のタグ紙を使用する場合は、「LABEL」側に合わせてください。

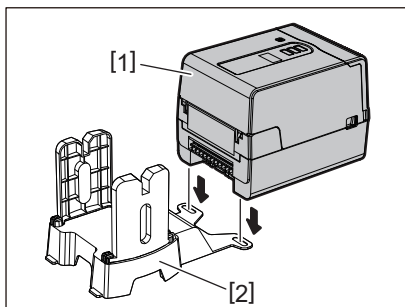
- 6 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。



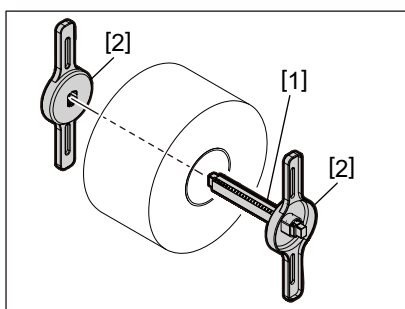
■ 外置き用紙ホルダー使用時の用紙の取り付け手順

外径が127 mmを超えるか、紙管の内径が76.2 mmの場合は、別売りの外置き用紙ホルダーに用紙をセットしてください。

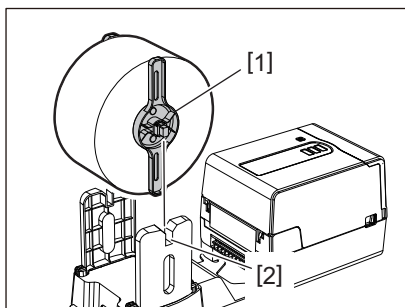
- 1 本機背面側 [1] の脚に外置き用紙ホルダースタンド [2] を取り付けます。



- 2 用紙シャフト [1] をロール紙の紙管に挿入し、用紙ホルダー [2] の穴に差し込みます。



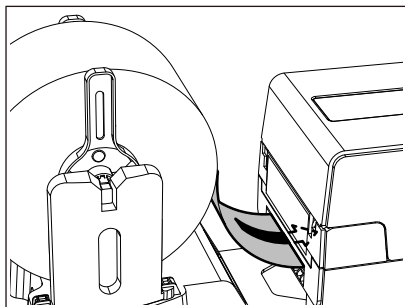
- 3 用紙ホルダー [1] を外置き用紙ホルダースタンドの溝 [2] に挿入します。



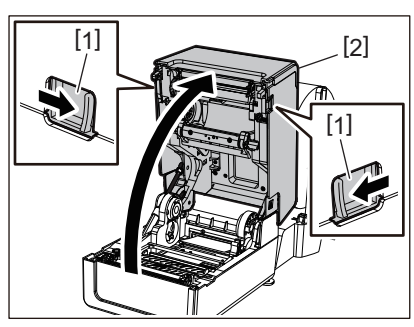
注意

ロール紙が用紙シャフトの中央に来るように、ロール紙の位置を調整してください。

- 4 用紙の先端を用紙挿入口に差し込みます。

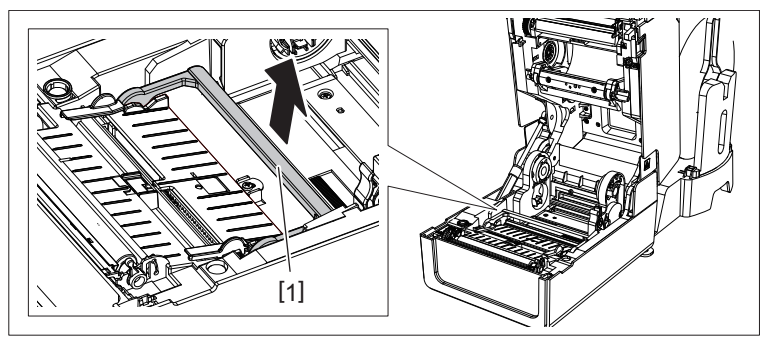


5 左右のトップカバー開放レバー [1] を矢印の方向に引きながら、トップカバー [2] を全開にします。

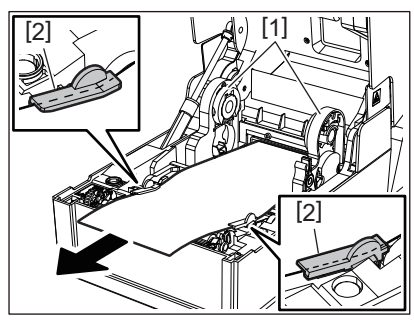


注意

用紙ダンパー（下） [1] を引き上げて、ロックが解除された状態で使用してください。



6 用紙ホルダー [1] と用紙ガイド [2] を用紙幅に合わせて左右に広げます。用紙ホルダー [1] と用紙ガイド [2] それぞれの間に用紙を通して用紙排出口まで引き出します。

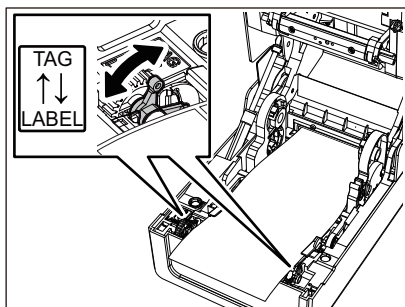


7 用紙ホルダーと用紙ガイドを用紙幅に合わせて、用紙とのすき間が空かないように調整します。

注意

用紙ガイドが用紙を締め付けすぎないように注意してください。用紙を締め付けすぎると、用紙がたわみ、紙づまりや紙送り不良の原因になります。

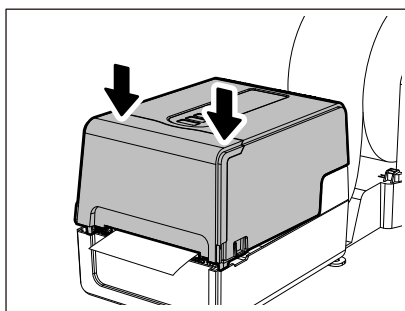
- 8 セットした用紙の種類に合わせて、プラテンホルダーの左右のレバーを倒します。(ラベル：手前側に倒す、タグ：奥側に倒す。)



注意

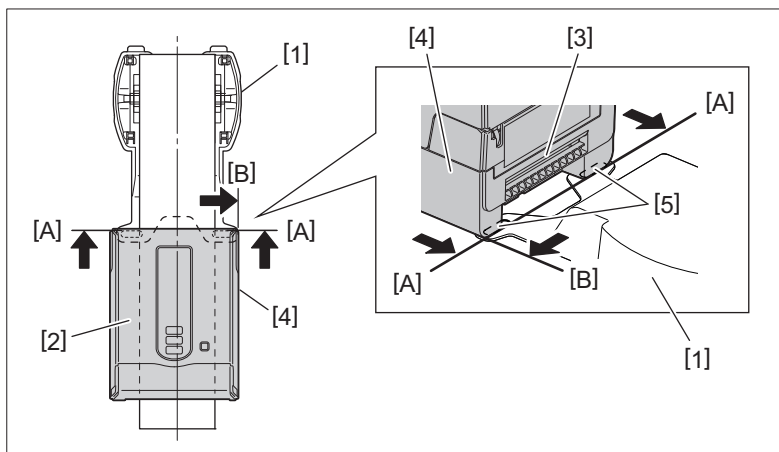
幅が50.8 mm未満のタグ紙を使用する場合は、「LABEL」側に合わせてください。

- 9 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。



- 10 外置き用紙ホルダー [1] に対して、本機 [2] の設置場所を調整します。

本機用の紙挿入口 [3] は、本機背面の右側面 [4] 寄りに配置されています。下図の正しい位置にプリンタを設置してください。本機の背面を外置き用紙ホルダーのくぼみ [5] (位置 [A]) に合わせます。本機の右側面 [4] を位置 [B] に合わせます。



注意

- 外置き用紙ホルダー [1] の左右センターに合わせて本機 [2] を設置すると、印字品質に影響が出る場合があります。
- トップカバーを開閉したときや用紙を交換した際は、本機が正しい位置に設置されていることを確認してから印字してください。位置がずれた状態で印刷すると、印字品質に影響が出る場合があります。
- 大口径の用紙を使用して印刷すると、用紙が少なくなるにつれて印字位置がずれてしまう場合があります。必要に応じて、パラメータ設定メニューの [フィード量微調] で印字位置を調整してください。
📖 P.72 「パラメータ設定操作」

リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）

本機は、熱転写・感熱の2種類の印字方式に対応しています。

熱転写方式とは、印字ヘッドの熱でリボンのインクを溶かし、用紙に定着させる印字方式です。

感熱方式とは、発色剤を含んだ用紙に印字ヘッドで熱を加え、発色させる印字方式です。

ここでは、本機にリボンを取り付ける手順について説明します。

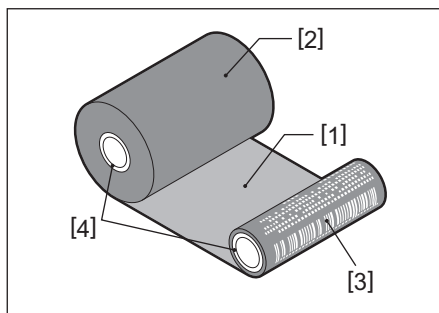
リボンは当社認定の純正品をご使用ください。リボンのご用命につきましては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないことやけどの原因となることがあります。

注意

- 感熱方式で印字するときは、リボンを取り付けしないでください。リボンを取り付けて印字した場合、印字ヘッドが破損したり、印字ヘッドに溶けたリボンが付着し、印字ヘッドの交換（有償）が必要になります。
- リボンには裏側 [1] と表側（インク面）があります。注意して取り付けてください。逆に取り付けて印字すると、印字できないだけでなく、印字ヘッドの交換（有償）が必要になります。
- 途中まで使用したリボンの未使用側/使用済み側の見分け方は、下図を参照してください。新しいリボンの場合は、径の太い方が未使用側です。



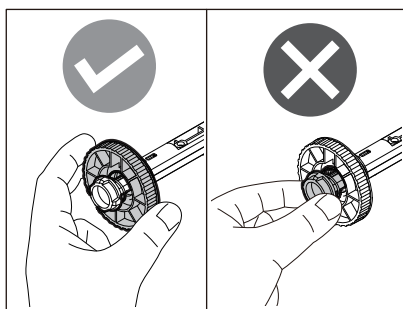
1.裏側

2.リボン（未使用側）

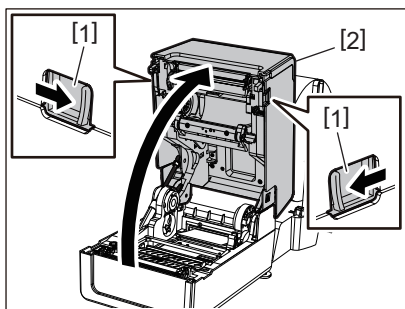
3.リボン（使用済み側）

4.紙管

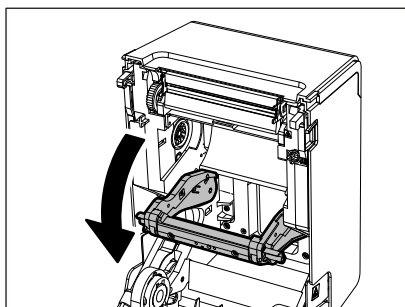
- リボンスプーラーを持つときは、緑色の部分を持ってください。先端の黒い突起部分を持って扱うと故障の原因となります。



- 1 左右のトップカバー開放レバー [1] を矢印の方向に引きながら、トップカバー [2] を全開にします。

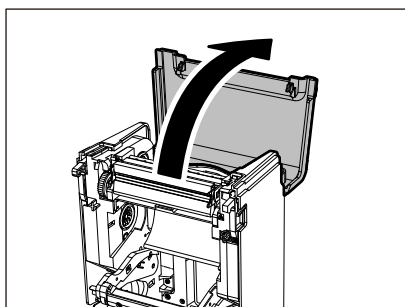


- 2 用紙ダンパー（上）を押し下げます。

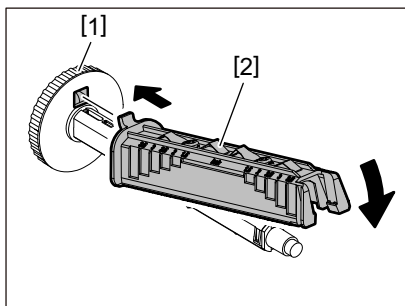
**注意**

用紙ダンパー（上）は軽く押し下げてください。用紙ダンパー（上）を強く握ったり引っ張ったりすると、故障の原因となります。

- 3 リボンカバーを開きます。

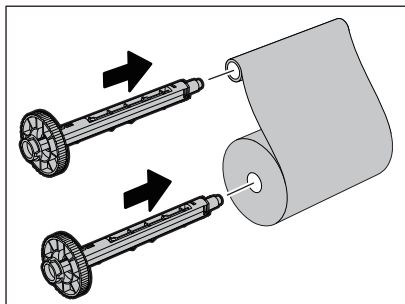


- 4 リボン紙管内径が25.4 mmの場合は、リボンスプーラー [1] にリボンスプーラーアタッチメント [2] を取り付けます。

**注意**

- リボン紙管内径には、25.4 mmのものと12.7 mmのものがあります。リボン紙管内径が12.7 mmの場合は、リボンスプーラーアタッチメントを使用しません。
- 剥離モジュールを使用する場合は、紙管内径が25.4 mmのリボンを使用してください。

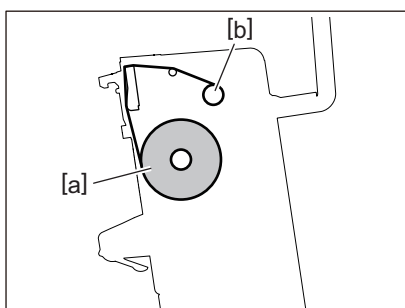
5 リボンスプーラーをリボンの紙管に挿し込みます。



注意

- 供給側のロールの紙管と巻き取り側のロールの紙管の両方に、リボンスプーラーを挿し込みます。
- お使いになるリボンの幅がリボンの紙管の幅と同じ場合には、リボンがリボンスプーラーの中央に来るようにセットしてください。

6 リボンを下図のようになるように取り付けていきます。

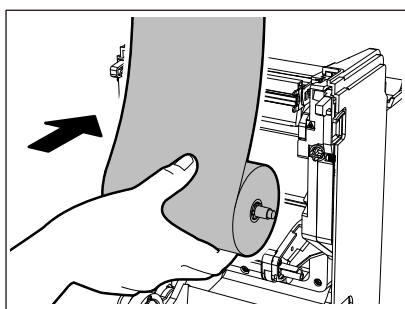


- [a] 供給側
- [b] 巻き取り側

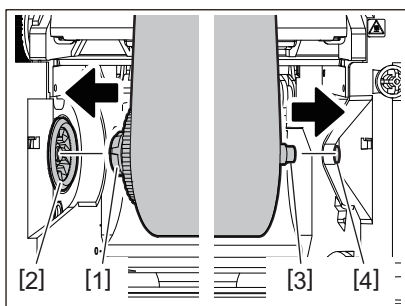
注意

リボンの表裏に注意してください。

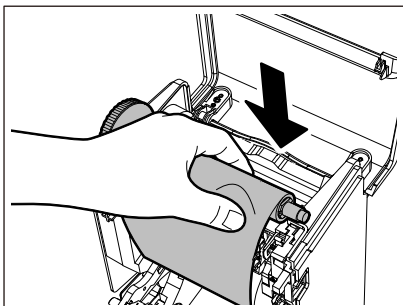
7 リボンの供給側のロールをガイドに取り付けます。



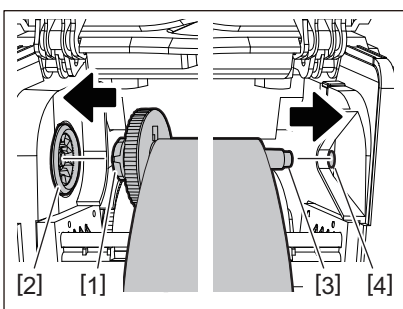
1. ロールに取り付けたリボンスプーラーの左側 [1] を、ガイドホイール [2] に合わせます。
2. リボンスプーラーの右側 [3] を、ガイド穴 [4] に挿入します。



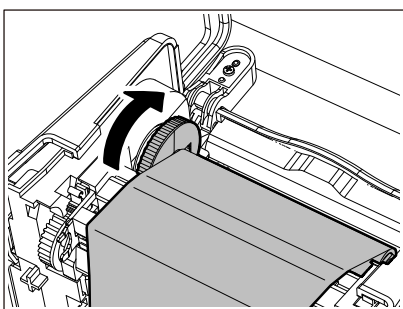
8 リボンの巻き取り側のロールをガイドに取り付けます。



1. ロールに取り付けたリボンスプラーの左側 [1] を、ガイドホイール [2] に合わせます。
2. リボンスプラーの右側 [3] を、ガイド穴 [4] に挿入します。

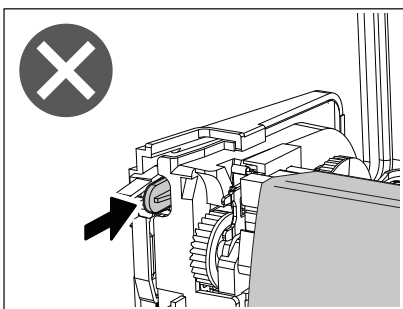


9 リボンスプラーを上方向に回して、リボンの弛みを取ります。

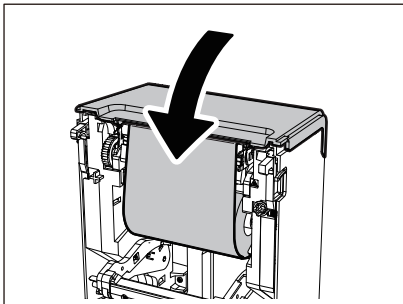


注意

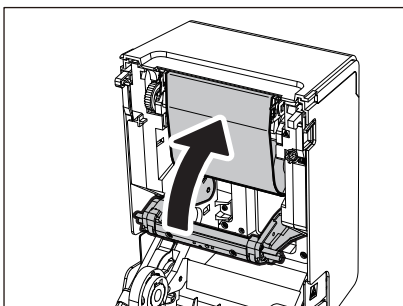
- リボンの弛みは印字品質低下の原因となります。リボンの弛みが取れた状態から、リボンスプラーをさらに2周分回して、リボンの弛みを確実に取ってください。
- リボン取り付け時に手指で触れた部分の印字品質は劣る場合があるので、手指で触れた部分が印字ヘッド通過位置を越えるまでリボンスプラーを回してください。
- 下図のレバーを押すと、リボンスプラーの逆回転防止ロックが解除されるため、リボンが弛みます。リボン巻き取り後に誤ってレバーを押さないようにご注意ください。



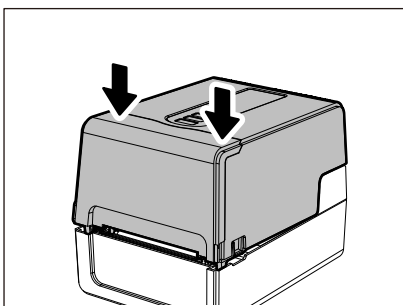
10 リボンカバーを「カチッ」と音がするまで閉めます。



11 用紙ダンパー（上）を上げます。



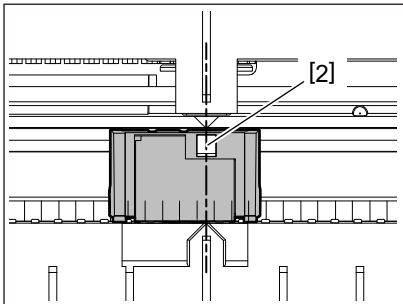
12 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押しing 確実に閉めます。



13 [**<7>**リボン紙管内径設定] を行います。

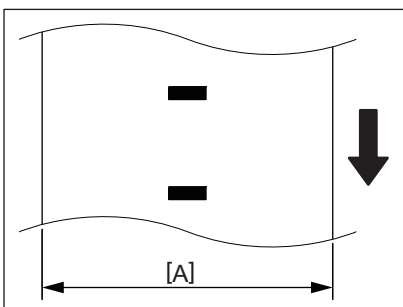
📖 P.93 「リボン紙管内径設定」

3 黒マークの中心線上に、反射センサー [2] の中心を合わせてください。



補 足

反射センサーは、用紙の端から端まで移動可能です。



[A]: 反射センサー可動範囲

メニューの操作

本機のメニュー構成	58
オンラインモード	59
アイコン表示の意味	59
用紙発行動作を一時停止する	60
エラーの内容を確認して対処する	61
スレッシュOLD設定モード	62
スレッシュOLDの設定（プレ印刷用紙を使用する）	62
インフォメーションモード	66
用紙フィード量の表示と印刷	66
ユーザーモード	69
ユーザーモード画面とキーの機能	69
ユーザーモードへの移行方法	70
ユーザーモードを終了する	71
パラメータ設定操作	72
手動スレッシュOLD設定	86
システムツール	87
発行制御設定	89
発行条件確認	91
リボン紙管内径設定	93
リセット操作	93
システムモードの機能	94
システムモードへの移行方法	94
自己診断	95
テスト印字	110
センサー	113
RAMクリア	119
INTERFACE	126
RFID設定	130
LCD表示設定	139
パスワード設定	141

本機のメニュー構成

本機の操作画面には、以下の5つのモードがあります。ここでは各モードの内容と操作について説明します。

オンラインモード	コンピュータと接続してラベルやタグを発行するモードです。 ☞ P.59 「オンラインモード」
スレッシュールド設定モード	通常用の紙検出センサーのしきい値（スレッシュールド）ではラベル位置を正しく検出できないプレ印刷ラベルを使用する場合に、プレ印刷ラベル用のスレッシュールド設定を行うためのモードです。 ☞ P.62 「スレッシュールド設定モード」
インフォメーションモード	用紙フィードや発行動作の終了時にカウントされたフィード量をLCDに表示、または印刷するモードです。 ☞ P.66 「インフォメーションモード」
ユーザーモード	パラメータ設定、微調値設定、LAN/WLAN切替、自動用紙測定、ダンプ印刷機能など、よく使う設定項目の確認・調整のほか、受信バッファのダンプリスト出力やプリンタログの保存操作などを行うモードです。 ☞ P.69 「ユーザーモード」
システムモード	本機の自己診断、各種パラメータ設定、各種微調値設定、テスト印字、センサー調整、RAMクリア、インターフェース設定などを行うモードです。 ☞ P.94 「システムモードの機能」

オンラインモード

ラベルやタグを発行するモードです。



1. 機種名・ファームウェアバージョン
2. メッセージ
3. 印刷枚数
4. IPアドレス
5. アイコン表示

- **[FEED]** : 1枚紙送りを行います。
- **[PAUSE]** : 用紙発行動作をポーズ（一時停止）します。

[FEED] キーについて

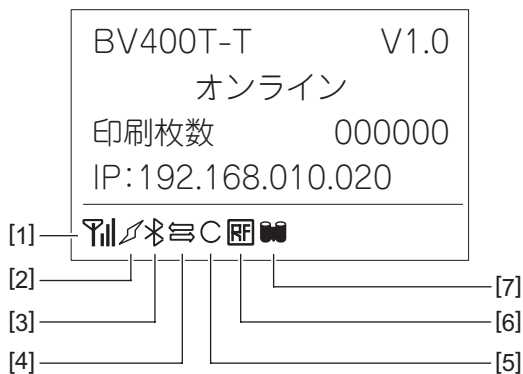
- 用紙を1枚排出する場合にも使用します。また、用紙が所定の位置からずれた場合は、所定の位置に用紙を合わせるために使用します。位置がずれたままで印字を行うと正しい位置に印字できないので、1~2枚紙送りして正しい位置に合わせてから印字してください。
- イメージバッファ内にある内容を1枚発行します（パラメータ設定による）。発行中にホストからクリアコマンドや描画コマンドを送らないでください。これらのコマンドを送ると印字内容が崩れます。また、イメージバッファに描画中に [FEED] キーによる発行を行うと、印字内容が崩れてしまう場合があります。








補 足

- [FEED] キーは最後に発行した条件でフィードさせるので、前回と異なる用紙をセットした場合はコンピュータ側の用紙設定等が必要です。
- 剥離発行時は、用紙発行口にラベルがあっても紙送りを行います。
- 頭出し機能を有効に設定している場合、条件により頭出し動作を行います。
 P.74 「頭出し」

■ アイコン表示の意味

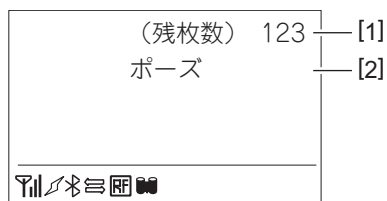
オンラインモードでは、画面の最下行に下記のアイコンが表示されます。



	名称	アイコン	機能/用途
[1]	無線LANアイコン		無線LANモジュール搭載時に表示します。 グラフが少ないほど受信電波が弱いことを示します。 0本：圏外 1本：電波強度 弱 2本：電波強度 中 3本：電波強度 強
[2]	リンクアイコン		無線LANモジュール搭載時、通信中に表示します。 消灯：リンク無し 点灯：リンク接続 点滅：ローミング中
[3]	Bluetooth接続アイコン		Bluetoothの接続状態を表示します。 消灯：未接続 点灯：接続可能 点灯：接続中
[4]	データ受信アイコン		印刷ジョブの有無を示し、ジョブがあるときに表示します。 点灯：印刷ジョブ有り
[5]	Bluetoothモードアイコン		Bluetoothの自動再接続モード中に表示します。 消灯：自動再接続モード中でない 点灯：自動再接続モード中
[6]	RFIDアイコン		RFIDモジュール搭載時、RFIDモジュールとの通信状態を表示します。 点灯：モジュールタイプが設定されていて、通信可能 点滅：通信中
[7]	リボンニアエンドアイコン		リボンが終わりに近づいてきたとき（リボンニアエンド）に表示します。 点滅：リボンニアエンド状態




■ 用紙発行動作を一時停止する

オンラインモードで [PAUSE] キーを押すと、ポーズ（一時停止）状態になります。




1. 残枚数
2. メッセージ

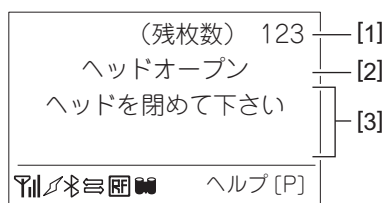
- [RESTART]：オンラインモードに戻ります。残枚数があれば印刷を再開します。

- **[PAUSE] (3秒以上押したままにする)**：スレッシュホールド設定モードに移行します。
 P.62 「スレッシュホールド設定モード」
- **[FEED] (3秒以上押したままにする)**：インフォメーションモードに移行します。
 P.66 「インフォメーションモード」
- **[RESTART] (3秒以上押したままにする)**：ユーザーモードに移行します。
 P.69 「ユーザーモード」


■ エラーの内容を確認して対処する

用紙やリボンを使い切ったときやその他のエラーが発生したときに、エラー内容を画面に表示します。エラーに対処してからオンラインモードに復帰してください。

 P.150 「エラーメッセージ (BV410T)」

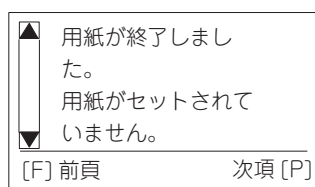
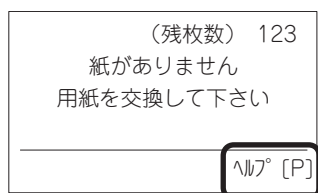


1. 残枚数
2. エラーメッセージ
3. エラー概要

- **[RESTART]**：エラーを解除してから押すと、オンラインモードに復帰します。
- **[PAUSE]**：ヘルプ画面を表示します。
 P.61 「ヘルプを参照する」

□ ヘルプを参照する

オンラインモードでエラーが発生すると、画面右下に「ヘルプ [P]」と表示されます。この状態で **[PAUSE]** キーを押すとヘルプ画面が表示されます。ヘルプ画面では、エラーの原因や対処方法、復帰方法を参照できます。



- **[FEED]**：ヘルプの前ページに移動します。
- **[PAUSE]**：ヘルプの次ページに移動します。ヘルプの最終ページで押すと、ヘルプを終了します。
- **[RESTART]**：ヘルプを終了し、リスタートします。

スレッシュリョルド設定モード

■ スレッシュリョルドの設定（プレ印刷用紙を使用する）

プリンタが印刷を行う際、用紙検出センサーを用いて印字エリアとラベルのすき間（ギャップ）または黒マーク部の電圧値を検出し、その差を認識することで印字位置を一定に保っています。

しかし、プレ印刷された用紙を使用する場合、プレ印刷に使用されているインクの種類によっては印刷箇所との電圧差を誤検知してしまうため、印字位置が正しく検出されないことがあります。

このような場合、使用するプレ印刷用紙ごと、および使用するセンサー種別ごとにスレッシュリョルド（しきい値）を設定し、メモリに記憶しておく必要があります。

印字エリアとギャップまたは黒マークとの電圧差の中間値がスレッシュリョルドとなるように微調整し、その値を境界として用紙検出センサーに印字エリアとギャップまたは黒マークを認識させます。

本機では透過センサーと反射センサーそれぞれに対し、スレッシュリョルド設定値と微調値を各5セットずつ登録することができます。

ここでは、スレッシュリョルドの設定操作について説明します。

□ 操作例

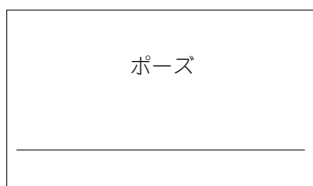
1 【オンラインモード】 画面を表示します。

📖 P.31 「電源をONにする」



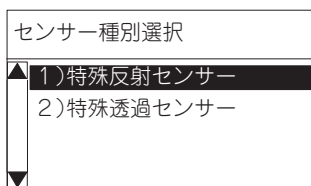
2 【PAUSE】 キーを押します。

ポーズ状態になります。



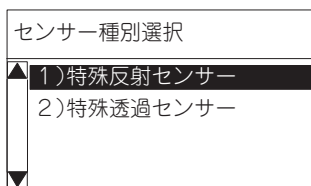
3 【PAUSE】 キーを3秒以上押したままにします。

センサー種別選択画面が表示されます。



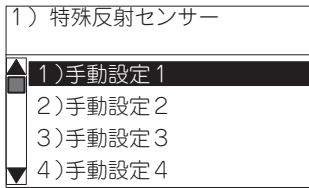
4 【FEED】 または 【RESTART】 キーを使って、スレッシュリョルド（しきい値）を設定するセンサーを選択し、【PAUSE】 キーを押します。

例) 【特殊反射センサー】 を選択したとき



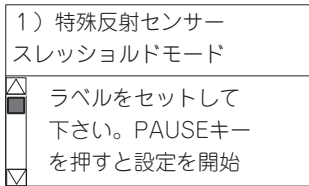
5 [FEED] / [RESTART] キーを使って、スレッシュホールドの登録番号 (1~5) を選択し、[PAUSE] キーを押します。

例) 特殊反射センサーのスレッシュホールドを [手動設定1] に保存するとき



6 プレ印刷された用紙をセットします。反射センサーの位置を黒マークに合わせてください。

☞ P.55 「反射センサー (可動) の位置調整」

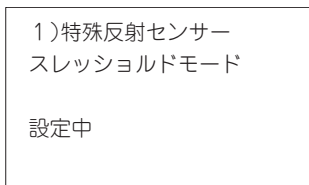


補 足

[FEED] / [RESTART] キーで画面がスクロールします。

7 [PAUSE] キーを押したままにします。

[PAUSE] キーが離されるまで紙送りします。



注 意

スレッシュホールド設定時は、必ず1.5~2枚以上の紙送りをしてください。紙送り量が少ないと、正しく設定されないことがあります。

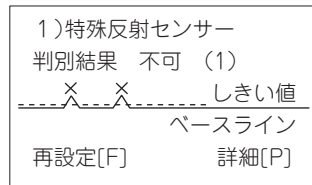
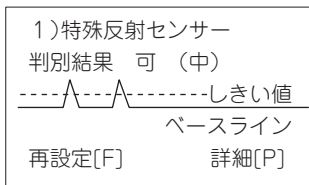
8 [PAUSE] キーを離します。

スレッシュホールド設定の判別結果が表示されます。

☞ P.64 「スレッシュホールド設定判別結果表示例」

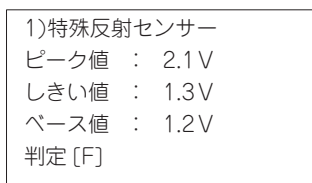
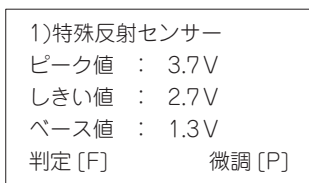
例：判断結果 可 (中)

例：判断結果 不可 (1)



9 [PAUSE] キーを押すと詳細画面が表示されます。

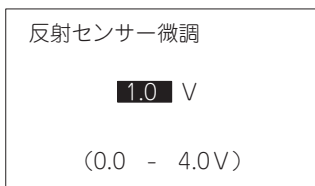
センサーが検出した電圧のピーク値、スレッシュホールド (しきい値)、ベース値が表示されます。



[FEED] キーを押すと、センサー種別選択画面に戻ります。

[RESTART] キーを押すと、スレッシュホールド設定を終了します。

10 [PAUSE] キーを押すと微調値設定画面が表示されます。

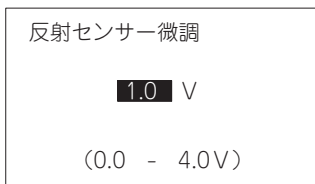


[FEED] キーを押すと前の画面に戻ります。

11 [FEED] / [RESTART] キーでスレッシュホールド（しきい値）の微調値を設定します。

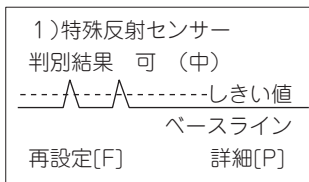
ピーク値 - 微調値 = しきい値 となります。

しきい値がピーク値とベース値の中間値となるように設定してください。



12 [PAUSE] キーを押します。

微調後の判別結果が表示されます。




[RESTART] キーを押すとスレッシュホールド設定を終了します。

[FEED] キーを押すとセンサー微調設定画面に戻ります。

[PAUSE] キーを押すと詳細画面に戻ります。

□ スレッシュホールド設定判別結果表示例

表示例	表示内容
	判別結果：可（中） 用紙検出センサーによる検出可能。 しきい値は中間付近です。
	判別結果：可（高） しきい値はピーク値付近にあるため、ピーク値と用紙レベルの差異が無い場合には用紙検出センサーによる検出ができない場合があります。 反射センサー / 透過センサー微調値設定によりしきい値を中間値付近に調整することで確実な検出ができるようになります。
	判別結果：可（低） しきい値はベース値付近にあるため、ベース値と用紙レベルの差異が無い場合には用紙検出センサーによる検出ができない場合があります。 反射センサー / 透過センサー微調値設定によりしきい値を中間値付近に調整することで確実な検出ができるようになります。
	判別結果：不可（1） 用紙のギャップまたは黒マークを用紙検出センサーで読み取れません。 センサー調整が必要です。 P.113 「センサー」
	判別結果：不可（1） ベース値がしきい値よりも高いため、用紙のギャップまたは黒マークを用紙検出センサーで読み取れません。センサー調整が必要です。 P.113 「センサー」

表示例	表示内容
	判別結果：不可 (2) 用紙のギャップまたは黒マークを用紙検出センサーで読み取れません。

補 足

- ポーズ状態で3秒以内に [PAUSE] キーを離すとスレッシュヨルド設定モードに移行しません。
- スレッシュヨルド設定時は、必ず1.5~2枚以上の紙送りをしてください。紙送り量が少ないと、正しく設定されないことがあります。その場合は、再度設定しなおしてください。
- トップカバーが開いた状態ではスレッシュヨルド設定モードに移行しません。トップカバーを確実に閉めてください。
- スレッシュヨルド設定を行っても位置補正が正しく行われない場合、センサーの調整が不十分であることが考えられます。システムモードにてセンサーを再調整した後、スレッシュヨルドを設定してください。(ラベルの台紙が厚い場合など、センサーの再調整が必要となります。)
 □ P.113 「センサー」
- 発行コマンドとフィードコマンドのセンサー種別で [3：透過センサー (プレ印刷ラベル使用時)] または [4：反射センサー (手動スレッシュヨルド値使用)] が選択されていること、あるいはプリンタドライバの透過センサー (手動スレッシュヨルド値使用) または反射センサー (手動スレッシュヨルド値使用) が選択されていることを確認してください。
- スレッシュヨルド設定中は、用紙切れ等のエラー検知を行いません。
- スレッシュヨルド設定時の用紙搬送速度は、直前に発行した際の印字速度になります。
- スレッシュヨルド設定画面で [FEED] キーと [PAUSE] キーを同時に押すと、ポーズ画面に移行します。
- スレッシュヨルド手動設定1~5に設定されているか否かの確認はできません。
- 用紙測定が有効の場合、手動スレッシュヨルド設定は無効になります。用紙測定設定を有効から無効に変更した際は、手動スレッシュヨルドの設定を行ってください。

インフォメーションモード

■ 用紙フィード量の表示と印刷

用紙フィードや発行動作の終了時にカウントされたフィード量をLCDに表示、または印刷します。

□ 操作例

1 【オンラインモード】 画面を表示します。

📖 P.31 「電源をONにする」

BV400T-T	V1.0
オンライン	
印刷枚数	000000
IP:192.168.010.020	

2 【PAUSE】 キーを押します。

ポーズ状態になります

ポーズ

3 【FEED】 キーを3秒以上押したままにします。

インフォメーションモード画面が表示されます。

BCP COUNTER
477984cm
188182.5inch
PUSH PAUSE OR RESTART

4 【PAUSE】 キーを押すと、印刷を開始します。

【RESTART】 キーを押すとオンラインモードに戻ります。

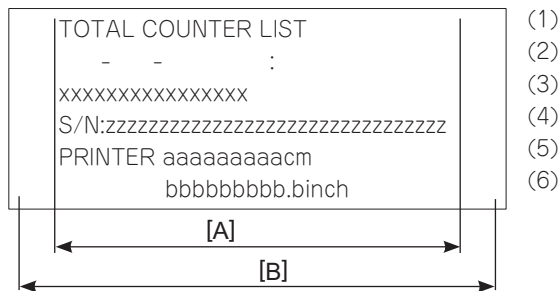
BV400T-T	V1.0
オンライン	
印刷枚数	000000
IP:192.168.010.020	

補足

- フィード量の有効範囲は以下のとおりです。範囲を超えた場合は最大値が維持されます。
cm単位：0 ~ 320000000
inch単位：0.0 ~ 125984251.9
- インフォメーションモードでカウントされるフィード量には以下の内容は加算されません。
バックフィード、剥離正転、プレ剥離、自動正転、オフライン状態での印字（自己診断印字、メンテナンスカウンタ印字、テスト印字、ダンプ印字）、インフォメーションモードの印字、手動スレッシュホールドフィード、自動用紙測定
- インフォメーションモードでカウントされるフィード量には、コマンドで指定された用紙ピッチが加算されるので、実測の用紙ピッチとの間に差異があると誤差が大きくなります。
- インフォメーションモード中はプリンタにコマンドを送信しないでください。
- インフォメーションモードで印刷を実施すると、高速リセットを行います。高速リセットにより、発行枚数はゼロとなり、イメージバッファの内容がクリアされます。
- 用紙測定機能を有効にしている場合は、高速リセット後に用紙測定が実施されます。また、セーブデータ自動呼出し機能が有効の場合、高速リセット後にセーブデータ呼出しが実施されます。
- インフォメーションモードの印刷は、前の発行条件で行われます。ただし、ミラー印字指定、タグローテーション、有効印字幅およびX方向微調は無効になります。
- フィードや描画を伴うコマンドを受信しているときにインフォメーションモードに移行すると、印字を実施しても印字動作を行わずオンラインモードに戻ります。また、このとき高速リセットは行いません。

□ 印字例

BV410T-T: 最大幅74 mm、印字範囲センター寄せ



[A] : 最大74 mm
[B] : 有効印字幅

行	説明	印字内容または範囲	
(1)	タイトル	TOTAL COUNTER LIST	
(2)	日時	MM : 月	01 ~ 12
		dd : 日	01 ~ 31
		yyyy : 年	2000 ~ 2099
		hh : 時	00 ~ 23
		mm : 分	00 ~ 59
(3)	機種	印字ヘッド解像度 203 dpi	BV410T-G
		印字ヘッド解像度 300 dpi	BV410T-T
(4)	シリアルナンバー	11桁~32桁の半角英数 (A~Z, a~z, 0~9, スペース、ハイフン)	
(5)	インフォメーションモードフィード量 (単位 : cm)	0 ~ 320000000	
(6)	インフォメーションモードフィード量 (単位 : inch)	0 ~ 125984251.9	

補 足

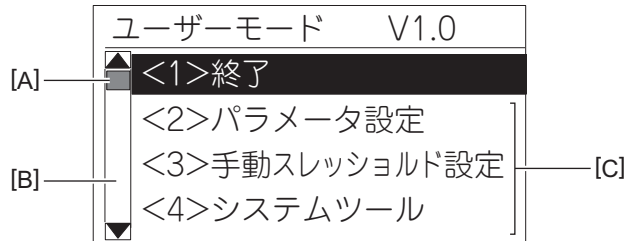
- リアルタイムクロックは非対応のため、日時は空白となります。(印字例を参照)
- プリンタにシリアルナンバーを一度も登録していない場合、有線LANのMACアドレスが区切り文字無しで印字されます。ただし、有線LANのMACアドレスが取得できない場合は、空白となります。空白の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ユーザーモード

ユーザーモードでは、パラメータ設定、微調値設定、LAN/WLAN切替、自動用紙測定、ダンプ印刷機能など、よく使う設定項目の確認・調整のほか、受信バッファのダンプリスト出力やプリンタログの保存操作などを行います。

■ ユーザーモード画面とキーの機能

スクロール画面例



- [A] : ノブ（スクロール行が5行以上存在するときに表示されます。）
- [B] : スクロールバー
- [C] : スクロール行

設定画面例



キー	表示内容
[FEED] + [RESTART]	設定を保存せず、上位画面を表示します。
[PAUSE]	次の画面を表示します。 選択画面の場合は、設定を保存し、上位画面を表示します。
[RESTART]	カーソルを下に移動します。カーソルが一番下にある場合は、一番上に移動します。 値を増加させます。最大値に達すると、最小値に戻ります。
[FEED]	カーソルを上を移動します。カーソルが一番上にある場合は、一番下に移動します。 値を減少させます。最小値に達すると、最大値に戻ります。

■ ユーザーモードへの移行方法

1 [ONLINEモード] 画面を表示します。

☞ P.31 「電源をONにする」

BV400T-T	V1.0
オンライン	
印刷枚数	000000
IP:192.168.010.020	

2 [PAUSE] キーを押します。

ポーズ状態になります。

ポーズ

3 [RESTART] キーを3秒以上押したままにします。

ユーザーモード画面が表示されます。

ユーザーモード	V1.0
<1>終了	
<2>パラメータ設定	
<3>手動スレッシュールド設定	
<4>システムツール	

4 [FEED] / [RESTART] キーを使ってメニューを選択し、[PAUSE] キーを押して決定します。

□ ユーザーモードメニュー一覧

No.	メニュー	概要
1	終了	プリンタをオンライン状態に戻します。(リセットは実施しません。)
2	パラメータ設定	プリンタの各機能ごとのパラメータを設定します。
3	手動スレッシュールド設定	用紙検出センサーのスレッシュールド値(しきい値)を設定します。
4	システムツール	ホストから送信されたデータを印刷、またはUSBメモリに保存します。
5	発行制御設定	発行制御項目(センサー種類、印字速度、印字方向など)を設定します。
6	発行条件確認	センサー種類、印字速度、印字方向などの発行条件に関する設定値を表示します。
7	リボン紙管内径設定	リボン紙管の内径を設定します。
8	リセット	プリンタを再起動します。

補足

設定変更が本機に反映されるタイミングは、一部を除き電源ON時またはリセット後になります。

■ ユーザーモードを終了する

プリンタをユーザーモードからオンラインモードに戻します。このとき、設定変更を反映するためにリセットが必要なパラメータが変更されている場合、終了操作と同時にリセットが行われます。

1 ユーザーモードの【終了】を選択し、【PAUSE】キーを押します。

ユーザーモード	V1.0
▲<1>終了	
<2>パラメータ設定	
<3>手動スレッシュールド設定	
▼<4>システムツール	

ポーズ画面になります。

ポーズ

補足

リセットが行われる場合、ポーズ画面は表示されずオンラインモードに戻ります。

2 【RESTART】キーを押します。

【RESTART】キーを押すとオンラインモードに戻ります。

BV400T-T	V1.0
オンライン	
印刷枚数	000000
IP:192.168.010.020	

補足

エラー発生画面からユーザーモードに遷移していた場合、遷移前のエラー画面に戻ります。

■ パラメータ設定操作

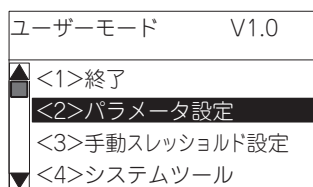
システムモードで設定した各種機能のパラメータの内容を変更できます。ここでは、各種機能のパラメータの設定および変更操作について説明します。

□ パラメータ設定メニュー一覧

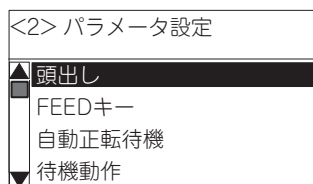
メニュー	機能
パラメータ設定	頭出し
	FEEDキー
	自動正転待機
	待機動作
	プレ剥離処理
	バックフィード
	自動断線チェック
	リボンニアエンド
	用紙/リボン終了
	用紙測定
	省電力移行時間
	文字コード
	0の字体
	制御CODE
	剥離待ちSTATUS
	漢字特殊コード
	ユーロコード
	MaxiCode仕様
	カットモード
	ラベル複数枚取り設定
	走行距離警告
	総走行距離警告
	フィード量微調
	カット位置微調
	バックフィード量微調
	X方向座標微調
	X方向微調方法
	ヘッド印加制御
	濃度微調（熱転写）
	濃度微調（感熱）

□ パラメータ設定操作手順

1 ユーザーモードの [パラメータ設定] を選択し、[PAUSE] キーを押します。



2 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



パラメータ設定



各機能のパラメータの初期値には下線が付いています。

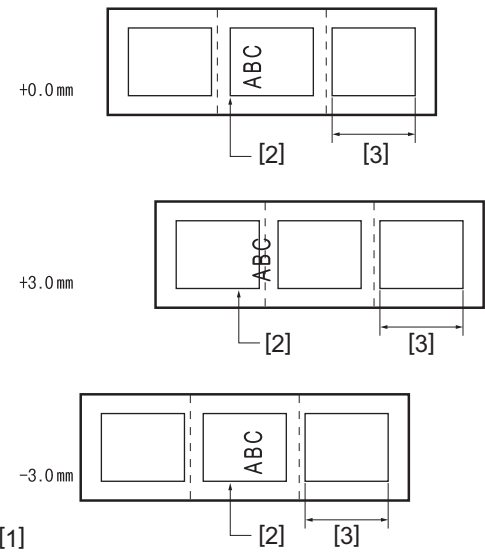
機能名称	パラメータ設定
頭出し	<p>電源ON、バッチ系リセット、またはトップカバーを閉めた後に [FEED] キーで用紙をホームポジションまでフィード（頭出し）する際、用紙を無駄に排出させないための機能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>無効</u>： 頭出し機能無し（[FEED] キーによる通常フィードと同じ） • <u>標準</u>： 電源ON後、バッチ系リセット後、またはトップカバーを閉めた後に [FEED] キーを押すと、プリンタは用紙をフィードしながらギャップ/黒マークを検出する。そこからさらに印字ヘッド～センサー間と同じ距離だけフィードし、ホームポジションで停止させる。 • <u>節約</u>： バッチ系リセットコマンド送信後、またはトップカバーを閉めた後に [FEED] キーを押すと、プリンタは用紙をフィードしながらギャップ/黒マークを検出し、そこから印字ヘッドに一番近い用紙をホームポジションで停止させる。 • <u>節約+逆転</u>： 以下の条件を満たした場合、[節約] の動作後、用紙1枚分のバックフィードを行う。 条件： <ul style="list-style-type: none"> • 用紙ピッチが20 mm以上、100 mm以下の設定 • 前回の発行モードが連続発行 <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本機能は、[センサーあり] を指定しているときのみ有効です。 • センサーがギャップ/黒マークを検出できなかった場合、エラーとなります。
[FEED] キー	<p>[FEED] キーの機能を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>フィード</u>： 1枚紙送り • <u>再印刷</u>： イメージバッファの内容を1枚印字
自動正転待機	<p>カット発行時、印字待機中にプラテン上で用紙先端がカールして用紙送りに支障が出るのを防ぐため、用紙の停止位置を少し前に出す機能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>しない</u>： 正転待機無し • <u>する</u>： 正転待機あり <p>[自動正転待機位置]： 待機させる位置をフィード量で調整します。 -5.0 ~ +5.0 (mm) (初期値：+0.0 (mm))</p> <ul style="list-style-type: none"> • + (プラス) の場合、フィード量が多くなります。 • - (マイナス) の場合、フィード量が少なくなります。 <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • 待機状態は、電源OFF/ON、リセット、トップカバー開閉を行っても保持されます。 • カッター装着時の初期値は [する] になります。
待機動作	<ul style="list-style-type: none"> • <u>モード1</u>： 16.2 mmフィードした位置で待機する • <u>モード2</u>： 予約（選択した場合、モード1と同じ動作になります）

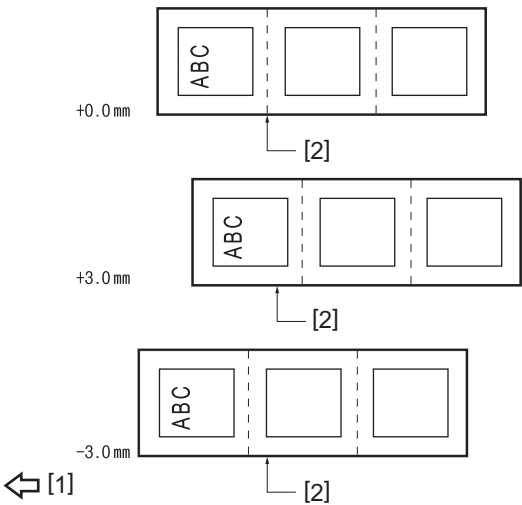
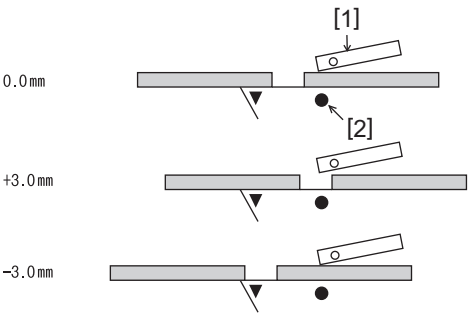
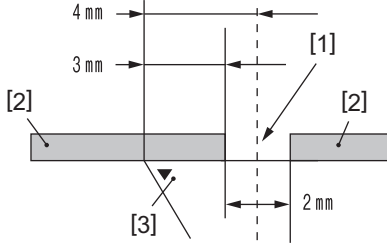
機能名称	パラメータ設定
プレ剥離処理	<p>この項目に [する] を選択すると、印字前にラベル先端部の剥離を行います。ラベルの材質、粘着度、印字スピード等が要因でラベルがはがれにくいときに使います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • しない： プレ剥離しない • する： プレ剥離する <p>注意 プレ剥離動作の速度は2 ipsとなります。</p>
バックフィード	<p>バックフィードの速度を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準： 3 ips • 低速： 2 ips
自動断線チェック	<p>このパラメータを [有効] にすると電源ON時に印字ヘッドの断線チェックを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効： 自動断線チェック無し • 有効： 自動断線チェックあり
リボンニアエンド	<p>このパラメータを [30 m] にすると、リボンニアエンド（リボンが終わりに近づいてきたこと）を検出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効： リボンニアエンド検出無し • 30 m： リボンニアエンド検出あり（30 m） <p>補足 プリンタのリボンニアエンドの検出には多少の誤差が生じます。検出結果はあくまで参考用として捉えてください。 ☞ P.83 「用紙/リボン終了:各タイプ指定時のプリンタ動作」</p>
用紙/リボン終了	<ul style="list-style-type: none"> • 即時停止： ラベルエンド検出時、直ちに停止 • 印字後停止： ラベルエンド検出時、可能な限り印字を行い停止 <p>補足 [即時停止] と [印字後停止] について、詳細は以下を参照してください。 ☞ P.83 「用紙/リボン終了:各タイプ指定時のプリンタ動作」</p>
用紙測定	<p>このパラメータが [有効] の場合、電源投入時およびトップカバー開閉時に自動的に用紙をフィードして黒マークまたはギャップを探し、センサーレスショルド、用紙ピッチを算出して印字開始位置で停止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効： 自動用紙測定無し • 有効 透過： 透過センサーを使用して自動用紙測定 • 有効 反射： 反射センサーを使用して自動用紙測定 • 有効 両方： 両センサーを使用して自動用紙測定 • 有効 透過+逆転： 透過センサー使用、バックフィードあり* • 有効 反射+逆転： 反射センサー使用、バックフィードあり* • 有効 両方+逆転： 両センサー使用、バックフィードあり* <p>補足 * 用紙測定について、詳細は以下を参照してください。 ☞ P.83 「用紙測定：各タイプ指定時のプリンタ動作」</p>

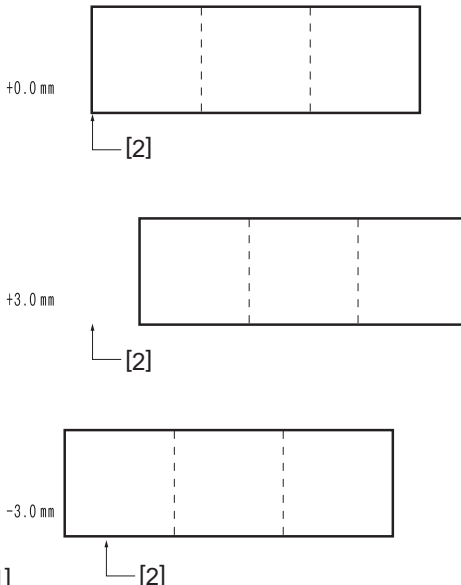
機能名称	パラメータ設定
省電力移行時間	<p>プリンタが待機状態から省電力モードに移行するまでの時間を設定します。 1～240（分）（初期値：15（分））</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 省電力状態になると、LCDのバックライトが消えて「省電力中」と表示されます。 省電力状態を解除するには、印字動作、キーを押す、本機の動作を伴うコマンドの送信、またはトップカバー開閉による用紙測定を行ってください。
文字コード	<ul style="list-style-type: none"> • PC-850 • PC-852 • PC-857 • PC-8 • PC-851 • PC-855 • PC1250 • PC1251 • PC1252 • PC1253 • PC1254 • PC1257 • LATIN9 • Arabic • PC-866 • UTF-8
0の字体	<ul style="list-style-type: none"> • 0(スラッシュ無し) • 0(スラッシュあり) <p>注意</p> <p>下記フォントはスラッシュあり0をサポートしていないため、設定してもスラッシュ無し0となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビットマップ OCR-A、OCR-B、GOTHIC725ブラック、漢字、中国語 • アウトラインフォント 価格フォント1、価格フォント2、価格フォント3、DUTCH801ボールド、BRUSH738レギュラー、GOTHIC725ブラック、TrueTypeFont

機能名称	パラメータ設定
制御CODE	<ul style="list-style-type: none"> • 自動判別 : 自動切り替え • {, I, } : {, I, }モード • ESC, LF, NUL : ESC, LF, NULモード • 手動設定 : コード指定 (MANUALモード) [手動設定] : コード1～3をそれぞれ16進数で設定してください。 [FEED] / [RESTART] キーで値を設定し、[PAUSE] キーでフィールドを移動します。 <ul style="list-style-type: none"> • CODE1 : 00 ～ FF (初期値 : 1Bh) • CODE2 : 00 ～ FF (初期値 : 0Ah) • CODE3 : 00 ～ FF (初期値 : 00h) • IBM HOST : IBM HOST • IBM HOST:US : IBM HOST:US <p style="margin-top: 10px;">注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM HOSTを選択した場合 制御コードは [(A2H), I(7CH),] (A3H)となります。 • IBM HOST:USを選択した場合 制御コードは(83H), I(7CH), (84H)となります。 • IBM HOSTあるいはIBM HOST:USを選択した場合 <ul style="list-style-type: none"> - 制御コード(00H～1FH)は解析後捨てられます。 - AS/400 PAGESコマンドは捨てられます。ただし、水平方向移動コマンドで指定された移動量分 (右移動のみ) についてはスペースに置き換えられます。
剥離待ちSTATUS	<ul style="list-style-type: none"> • 無効 : 剥離台にラベルがかかっている状態のとき*にステータス要求コマンドを受信した場合、(00H)を返送する • 有効 : 剥離台にラベルがかかっている状態のとき*にステータス要求コマンドを受信した場合、剥離待ちステータス(05H)を返送する <p style="margin-top: 10px;">補足</p> <p>* : オンラインモード、フィード終了後、すべての印字終了後</p>
漢字特殊コード	<ul style="list-style-type: none"> • TYPE1 : Windowsコード対応 • TYPE2 : オリジナルコード対応 <p style="margin-top: 10px;">補足</p> <p>TYPE1とTYPE2のコードについて、詳細は以下を参照してください。 P.84 「漢字特殊コード：各タイプ指定時の印字文字とコードの対応表」</p>
ユーロコード	<p>20 ～ FF (初期値 : B0h)</p> <p style="margin-top: 10px;">補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 16進数で表示されます。 • [FEED] / [RESTART] キーで値を設定します。

機能名称	パラメータ設定
MaxiCode仕様	<ul style="list-style-type: none"> • TYPE1 : 既存バージョンとの互換仕様 • TYPE2 : 特殊仕様 <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • この項目の設定内容により、コマンドで指定するモードと実際に処理されるモードの関係が異なります。また、一部データの送り方も異なります。 • TYPE1とTYPE2について、詳細は以下を参照してください。  P.85 「MaxiCode仕様: 各タイプ指定時のモード指定」
カットモード	<ul style="list-style-type: none"> • TYPE1 : 標準モード（高速化あり） • TYPE2 : 従来モード <p>補足</p> <p>TYPE1とTYPE2について、詳細は以下を参照してください。  P.85 「カットモード: 各タイプ指定時の動作」</p>
ラベル複数枚取り設定	<p>この項目が「有効」の場合、複数枚のラベルを1枚とみなして発行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効 : ラベル複数枚取り機能無し（従来の動作） • 有効 : ラベル複数枚取り機能あり <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「センサー無し」を指定している場合、この機能は無効になります。 • この機能を有効にする場合は、自動用紙測定機能を無効にしてください。 • 最大8枚まで複数枚取りが可能です。 • 「FEED」キーを押した場合は、ラベル1枚分のフィードを行います。
ラベル走行距離警告設定	<p>ラベル走行距離がこのパラメータの設定値を超えた場合、ERRORランプを点灯させて印字ヘッドの交換時期であることを知らせます。 1 ~ 3200 (km) (初期値: 3200 km)</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在のラベル走行距離は、カウンタ/パラメータ印字の「FEED」の値で確認できます。 • この警告は、その他のエラー、各モードの状態に関係なく通知されます。
総走行距離警告設定	<p>総ラベル走行距離がこのパラメータの設定値を超えた場合、ONLINEランプを点滅させて本機の交換時期であることを知らせます。 1 ~ 3200 (km) (初期値: 3200 km)</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在の総ラベル走行距離は、カウンタ/パラメータ印字の「TOTAL FEED」の値で確認できます。 • この警告は、その他のエラー、各モードの状態に関係なく通知されます。

機能名称	パラメータ設定
フィード量微調	<p data-bbox="478 228 1228 291">フィード量を調整することで印字開始位置を微調整します。 -50.0 mm ~ +50.0 mm (0.1 mm単位) (初期値: +0.0 mm)</p>  <p data-bbox="478 817 662 974">⇐ [1] 1.用紙送り方向 2.印字開始位置 3.ラベル1枚</p> <p data-bbox="478 996 566 1030">補 足</p> <ul data-bbox="478 1041 1412 1153" style="list-style-type: none">• フィード量微調値は、この項目で設定する値とコマンドで設定する値との合計となります。このときの最大値は±50.0 mmです。• 用紙ピッチ以上のフィード量を設定しないでください。

機能名称	パラメータ設定
カット（または剥離）位置微調 位置微調	<p>パラメータ設定</p> <p>カット（または剥離）位置を微調整します。 -50.0 mm ~ +50.0 mm (0.1 mm単位) (初期値：+0.0 mm)</p> <p>カット位置微調：</p>  <p>1. 用紙送り方向 2. カット位置</p> <p>剥離位置微調：</p>  <p>1. 印字ヘッド 2. プラテン</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • カット（または剥離）位置微調値は、この項目で設定する値とコマンドで設定する値との合計となります。このときの最大値は±50.0 mmです。 • 剥離発行時の印字停止位置は、ラベル間ギャップの中心から剥離台先端までの距離が4 mmになるように停止します。これは、ラベル間ギャップ2 mmを想定して設計しているためです。 • ラベル間ギャップが大きい場合など、停止位置が適切でないときは、剥離位置微調で印字停止位置を変更してください。  <p>1. ギャップ 2. ラベル 3. 剥離</p>

機能名称	パラメータ設定
バックフィード量微調	<p>正転後のバックフィードで用紙がホームポジションに戻らない場合、バックフィード量を調整することで印字開始位置を微調整します。 -9.9 mm ~ +9.9 mm (0.1 mm単位) (初期値: +0.0 mm)</p>  <p>1.用紙送り方向 2.印字開始位置 (バックフィード後のホームポジション)</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> バックフィード量微調値は、この項目で設定する値とコマンドで設定する値との合計となります。このときの最大値は±9.9 mmです。 バックフィード動作では、条件によっては正転した距離と同じ距離だけバックフィードしても元の位置まで戻らない場合があります。 用紙検出センサーを使用して発行する場合、印字ヘッド～用紙検出センサー間の距離 (19.9 mm) とほぼ同じサイズのラベルピッチ (またはタグピッチ) の用紙を使用してバックフィードを伴う動作 (カット発行、剥離発行、自動正転待機) をする場合、バックフィードしても元の位置まで戻らないことによるエラーが発生することがあります。このようなときは、プラス方向 (バックフィード量を多くする) のバックフィード量微調を設定し、エラーが発生しないようにしてください。

機能名称	パラメータ設定
X方向座標微調	<p>X方向（横方向）のオフセット位置を微調整します。 -99.9 mm ~ +99.9 mm（0.1 mm単位）（初期値：+0.0 mm）</p> <div data-bbox="480 315 892 629" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> </div> <p>補 足</p> <ul style="list-style-type: none"> • X方向座標微調は、有効印字幅の範囲で行ってください。 座標0よりもマイナス方向に微調を行った場合の動作は、[X方向微調方法]の設定によって異なります。 • X方向座標微調値は、自己診断結果印字およびテスト印字では無効となります。 • X方向座標微調値は、この項目で設定する値とコマンドで設定する値との合計となります。このときの最大値は±99.9 mmです。
X方向微調方法	<ul style="list-style-type: none"> • TYPE1 : X座標0に到達した印刷フィールドは、微調を行ってもそれ以上マイナス方向には移動しない • TYPE2 : X座標0よりもさらにマイナス方向の微調が可能 <p>補 足</p> <p>TYPE2を選択した場合、印字が途中で切れる恐れがあります。</p>
ヘッド印加制御	<p>使用する用紙に最適な印字を行うための設定です。設定と異なる用紙を使用した場合、印字かすれ等が生じる恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 熱転写 : 熱転写用サプライ <ul style="list-style-type: none"> • 熱転写 <ul style="list-style-type: none"> - 標準 - 予約1 ~ 予約9 • 感熱 : 感熱用サプライ <ul style="list-style-type: none"> • 感熱 <ul style="list-style-type: none"> - 標準 - 予約1 ~ 予約9
濃度微調（熱転写）	<p>熱転写方式の印字濃度を微調整します。 -10 step ~ +10 step（1 step単位）（初期値：+0 step）</p> <p>補 足</p> <ul style="list-style-type: none"> • プラス方向に設定すると印字が濃くなり、マイナス方向に設定すると印字が薄くなります。 • 濃度微調値（熱転写）は、この項目で設定する値とコマンドで設定する値との合計となります。このときの最大値は±10です。なお、印字ヘッドの定格を超える場合は自動補正されます。 • シリアルバーコードを重視する場合はマイナス方向へ、横罫線を重視する場合はプラス方向へ調整してください。また、印字が欠ける場合はプラス方向へ調整してください。

機能名称	パラメータ設定
濃度微調（感熱）	<p>感熱方式の印字濃度を微調整します。 -10 step ~ +10 step（1 step単位）（初期値：+0 step）</p> <p>補 足</p> <ul style="list-style-type: none"> • プラス方向に設定すると印字が濃くなり、マイナス方向に設定すると印字が薄くなります。 • 濃度微調値（感熱）は、この項目で設定する値とコマンドで設定する値との合計となります。このときの最大値は±10です。なお、印字ヘッドの定格を超える場合は自動補正されます。 • シリアルバーコードを重視する場合はマイナス方向へ、横罫線を重視する場合はプラス方向へ調整してください。また、印字が欠ける場合はプラス方向へ調整してください。

パラメータ設定メニュー補足

• 用紙/リボン終了:各タイプ指定時のプリンタ動作

- 即時停止：
ラベルエンド検出時は、即座にエラー停止します。
新しい用紙をセットし[RESTART]キーを押すと、フィード後、エラーラベルの再発行から再開します。
- 印字後停止：
ラベルエンドを検出した場合、発行中のラベルを最後まで印字し、ホームポジションでエラー停止して「紙がありません」と表示します。残枚数表示は、未発行のラベル枚数を表示します。最終枚目でラベルエンドとなった場合は、残枚数は表示しません。
新しい用紙をセットし[RESTART]キーを押すと、フィード後、次のラベルから発行します。
最終枚目でラベルエンドとなった場合は、フィードのみを行います。また、ステータス応答ありに設定されている場合は、フィード終了ステータスの送信に続き、発行終了ステータスを送信します。

• 用紙測定：各タイプ指定時のプリンタ動作

- 反射センサーが[有効]の場合、反射センサー入力値から最も入力値が低い部分を見つけて黒マークとみなし、反射センサースレッシュールド微調値を加えて黒マークのスレッシュールドとします。
- 透過センサーが[有効]の場合、透過センサー入力値から最も入力値が高い部分を見つけてギャップとみなし、透過センサースレッシュールド微調値を引いてギャップのスレッシュールドとします。
- 両方が[有効]の場合、透過センサー入力値の最も高い部分と、反射センサー入力値の最も低い部分をギャップとみなし、各センサースレッシュールド微調値をそれぞれの入力値から引いた値をギャップのスレッシュールドとします。
- [逆転]指定がある場合、自動用紙測定実行後、以下の条件を満たしていれば用紙ピッチ分、バックフィードを行います。
動作条件：
用紙ピッチが20 mm以上、100 mm以下の設定である。前回の発行が、連続発行でカット指定無しの場合に機能する。（電源OFF/ON、キー操作やコマンドによるリセットが行われても、その前の発行モードおよびカット間隔は有効となる。）
- 黒マークとラベル間ギャップの両方がある用紙は、[有効 両方] および [有効 両方+逆転] の設定を使用できません。パラメータを、[有効 反射] または [有効 反射+逆転] のいずれかで使用してください。
- 動作開始から160.0 mmまでセンサー入力値をサンプリングし、スレッシュールドを決定します。すでに2個以上の黒マークまたはギャップが存在しているときは、用紙長も算出して実測黒マークまたはギャップの終端1 mm前で停止します。
- 上記の動作条件下で 2 個目の黒マークまたはギャップを認識できない場合は、検出動作を延長して黒マークまたはギャップを探しますが、最大500.0 mmまで延長して見つけられないときは、紙送りエラーとして停止します。
- 自動用紙測定動作が可能な用紙ピッチは、10.0 mm ~ 150.0 mmまでです。
- カッターモジュールを装着している場合で、前回の発行がカット発行のときは、停止後に用紙をカットします。
- 自動用紙測定動作中は、剥離または特殊剥離発行が有効でも剥離位置には停止しません。
- 自動用紙測定動作中に用紙切れが発生した場合は、エラー停止します。エラーを解除し、トップカバーを閉めると、動作を再開します。
- 自動用紙測定時の搬送速度は、2 ipsです。

- 自動用紙測定中はトップカバーを開けないでください。トップカバーを開けた場合、その後の動作は保証されません。もしトップカバーを開けた場合は、電源OFF/ONしてください。

• 漢字特殊コード：各タイプ指定時の印字文字とコードの対応表

印字文字	TYPE1	TYPE2
①	2D21	2C44
②	2D22	2C45
③	2D23	2C46
④	2D24	2C47
⑤	2D25	2C48
⑥	2D26	2C49
⑦	2D27	2C4A
⑧	2D28	2C4B
⑨	2D29	2C4C
⑩	2D2A	2C4D
I	2D35	2231
II	2D36	2232
III	2D37	2233
IV	2D38	2234
V	2D39	2235
VI	2D3A	2236
VII	2D3B	2237
VIII	2D3C	2238
IX	2D3D	2239
X	2D3E	2C34
mm	2D50	2C66
cm	2D51	2C67
km	2D52	2C69
mg	2D53	2243
kg	2D54	2244
cc	2D55	2C70
m ²	2D56	2C6B
”	2D60	2A22
No	2D62	2249
TEL	2D64	2248
(株)	2D6A	222F
(代)	2D6C	2246
∫	2D72	2841

• **MaxiCode仕様: 各タイプ指定時のモード指定**

MaxiCodeをコマンドで発行する場合に、モード指定パラメータの内容によって切り替えが行われます。

* モード2と3の変換はデータコマンドのカントリーコードを見て、“840”ならモード2に、“840”以外ならモード3に設定します。

設定値	TYPE1：互換仕様	TYPE2：特殊仕様
0	モード2	モード2または3*
1	モード4	モード4
2	モード2	モード2
3	モード3	モード3
4	モード4	モード4
5	モード2	モード2または3*
6	モード6	モード6
7	モード2	モード2または3*
8	モード2	モード2または3*
9	モード2	モード2または3*
省略時	モード2	モード2または3*

• **カットモード: 各タイプ指定時の動作**

- TYPE1：標準モード（高速化あり）に設定した場合、カット動作と用紙フィードを同時に行ったり、カット後のバックフィードを5 ipsで行うことで高速化させます。
- カットモード設定とバックフィード速度設定の組み合わせによる動作は以下のとおりです。

システムモード設定		バックフィード速度				
バックフィード速度	カットモード	カット発行		剥離発行	逆転コマンド	正転待機からの逆転
		バックフィード速度	動作タイミング			
2 ips	標準モード	5 ips	高速化	2 ips		
3 ips				3 ips		
2 ips	従来モード	2 ips	従来動作	2 ips		
3 ips				3 ips		

• **各種の微調値設定に関する補足事項**

- 微調値を設定するときに [FEED] キーと [RESTART] キーを同時に押すと、上位画面に戻ります。ラベルエンド検出時は、即座にエラー停止します。
- 微調値を設定するとき、[FEED] キーまたは [RESTART] キーを 0.5 秒以上押し続けた場合は、そのキーを連続して押したときと同じ動作をします。
- 微調値の変更は、設定後に [PAUSE] キーを押すことで有効となり、メモリに登録されます。
- キー操作による各微調値は、コンピュータからのコマンドの各微調値に加算され、本機を制御します。ただし、各微調値の最大値は以下のとおりです。
 フィード量微調値：±50.0 mm
 カット（または剥離）位置微調値：±50.0 mm
 バックフィード量微調値：±9.9 mm
 印字濃度微調値：-10 step ~ +10 step
 X方向座標微調値：±99.9 mm
 反射センサスレッシュヨルド微調値：0.0 ~ 4.0 V
 透過センサスレッシュヨルド微調値：0.0 ~ 4.0 V

■ 手動スレッシュールド設定

プレ印刷された用紙を使用する場合、または用紙検出センサーの設定を行っても印字位置が正しく検出されない場合、スレッシュールドを微調整することで修正します。

補足

操作方法は、以下の項目を参照してください。

☞ P.62 「スレッシュールド設定モード」

□ スレッシュールド設定設定メニュー一覧

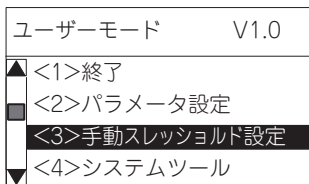
メニュー	サブメニュー
手動スレッシュールド設定	特殊反射センサー
	特殊透過センサー

□ 手動スレッシュールド設定操作例

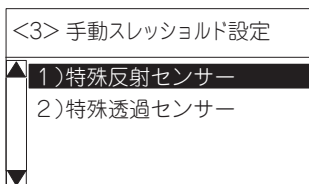
1 [ユーザーモード] 画面を表示します。

☞ P.70 「ユーザーモードへの移行方法」

2 [手動スレッシュールド設定] を選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 サブメニューを選択します。



4 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

以降の操作手順は、以下の項目を参照してください。

☞ P.62 「スレッシュールド設定モード」

■ システムツール

受信バッファのダンプリスト出力操作と動作ログ情報をUSBメモリへ保存する操作について説明します。

□ システムツールメニュー一覧

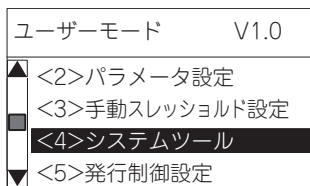
メニュー	サブメニュー	パラメータ
システムツール	ダンプリスト	USB
		LAN/WLAN
		BLUETOOTH
		RS-232C
		RFID
		BASIC1
	BASIC2	
	ログ	USBメモリへ保存

□ システムツール操作例

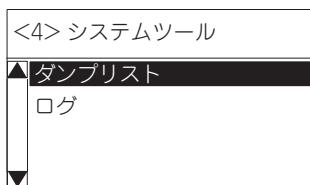
1 [ユーザーモード] 画面を表示します。

☞ P.70 「ユーザーモードへの移行方法」

2 [システムツール] を選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



パラメータ設定

各項目のパラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
ダンプリスト	<p>1. ダンプリストを出力するインターフェースを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • USB : USB受信バッファ • LAN/WLAN : LAN/WLANインターフェース受信バッファ • BLUETOOTH : Bluetoothインターフェース受信バッファ • RS-232C : RS-232C受信バッファ • RFID : RFID受信バッファ • BASIC1 : ベーシックインタプリタ インターフェース→インタプリタ間バッファ • BASIC2 : ベーシックインタプリタ インタプリタ→プリンタ間バッファ <p>2. インターフェースを選択したら、ダンプ出力先を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • USBメモリ : 受信バッファの内容をUSBメモリに保存します。 • 印刷 : 受信バッファの内容を印刷します。 <ul style="list-style-type: none"> • 一時停止有り : 166行分(約50 cm) 印字後、「印刷中」と表示して、いったん停止します。 [RESTART] キーを押すと印刷を中止して前の画面に戻ります。[PAUSE] キーを押すと、再印刷します。 • ノンストップ : バッファデータを1ページごと、すべて印刷します。
ログ	<ul style="list-style-type: none"> • USBメモリへ保存 : ログデータをUSBメモリに保存します。 <ul style="list-style-type: none"> • ROM/RAM情報 : プリンタのメモリ情報 • ログ情報 : プリンタのメモリ情報およびセンサーログ <p>USBメモリに保存する情報を選択した後に以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キャンセル : 操作を取り消して [システムツール] 画面に戻ります。 • 実行 : USBメモリへのログデータの書込みを行います。 <p>注意</p> <p>現行保存できるログデータはプリンタのメモリ情報 (ROMとRAM)、センサーログおよび動作ログです。その時点のメモリ情報を保存しますので、電源をOFFするとメモリ内容は変わってしまいます。特にRAMの内容は消えてしまいますので注意してください。</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログデータはテキストファイル形式で保存されます。 • ログ書込み中は、LCDに「WRITING・・・」と表示され、ONLINEランプが点滅します。

■ 発行制御設定

使用するセンサー、発行モード、印字速度等の発行条件を設定します。

□ 発行制御設定メニュー一覧

メニュー	サブメニュー
発行制御設定	センサー
	モード
	印字速度
	リボン
	印字方向
	自動ステータス

□ 発行制御設定操作例

1 [ユーザーモード] 画面を表示します。

P.70 「ユーザーモードへの移行方法」

2 [発行制御設定] を選択し、[PAUSE] キーを押します。

ユーザーモード	V1.0
▲	<3>手動スレッシュホールド設定
	<4>システムツール
	<5>発行制御設定
▼	<6>発行条件確認

3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

<5>	発行制御設定
▲	センサー 透過
	モード 連続
	印字速度 7ips
▼	リボン 有(セーブ無)

パラメータ設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
センサー	<ul style="list-style-type: none"> • <u>コマンド優先</u> コマンドの指定が優先されます。 • 無 • 反射 • 透過 • 透過（手動1～5） • 反射（手動1～5） <p>補 足 用紙測定パラメータが [有効] に設定されている場合、この設定は無効となります。</p>
モード	<ul style="list-style-type: none"> • <u>コマンド優先</u> コマンドの指定が優先されます。 • 連続 • カット(1) 初期値：1 • 剥離 • ライナレス(1)* 初期値：1 • パーシャル(1) 初期値：1
印字速度	<ul style="list-style-type: none"> • <u>コマンド優先</u> コマンドの指定が優先されます。 • 2 ips • 3 ips • 4 ips • 5 ips • 6 ips (203 dpiのみ) • 7 ips (203 dpiのみ) <p>補 足 熱転写方式で印刷する場合、2 ipsを選択すると3 ipsで動作します。</p>
リボン	<ul style="list-style-type: none"> • <u>コマンド優先</u> コマンドの指定が優先されます。 • 無 • 有
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> • <u>コマンド優先</u> コマンドの指定が優先されます。 • 尻出 • 頭出 • 尻出（ミラー） • 頭出（ミラー）
自動ステータス	<ul style="list-style-type: none"> • <u>コマンド優先</u> コマンドの指定が優先されます。 • 送信無し • 送信有り

*本機では使用しません。

■ 発行条件確認

現在本機に設定されている発行条件を表示します。

□ 発行条件確認メニュー一覧

メニュー	サブメニュー
発行条件確認	センサー
	モード
	印字速度
	リボン
	印字方向
	用紙ピッチ
	有効印字長
	印字幅
	用紙幅

□ 発行条件確認操作例

1 [ユーザーモード] 画面を表示します。

P.70 「ユーザーモードへの移行方法」

2 [発行条件確認] を選択し、[PAUSE] キーを押します。

現在の設定が表示されます。

ユーザーモード	V1.0
▲	<4>システムツール
	<5>発行制御設定
	<6>発行条件確認
▼	<7>リボン紙管内径設定

3 [FEED] / [RESTART] キーを使って、確認したい項目を表示します。

<6>	発行条件確認
▲	センサー 透過
	モード 連続
	印字速度 7ips
▼	リボン 有(セーブ無)

4 確認が終わったら、[PAUSE] キーを押して上位画面に戻ります。

ユーザーモード	V1.0
▲	<4>システムツール
	<5>発行制御設定
	<6>発行条件確認
▼	<7>リボン紙管内径設定

発行条件項目

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
センサー	<ul style="list-style-type: none"> • 無 • 反射 • 透過 • 透過（手動1～5） • 反射（手動1～5）
モード	<ul style="list-style-type: none"> • 連続 • カット(yyy) yyy：カット間隔（1～100） • 剥離 • ライナレス(yyy)* • パーシャル(yyy)
印字速度	<ul style="list-style-type: none"> • 2 ips • 3 ips • 4 ips • 5 ips • 6 ips (203 dpiのみ) • 7 ips (203 dpiのみ)
リボン	<ul style="list-style-type: none"> • 無 • 有
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> • 尻出 • 頭出 • 尻出（ミラー） • 頭出（ミラー）
用紙ピッチ	10.0～999.9 mm
有効印字長	10.0～997.9 mm
印字幅	10.0～108.0 mm (203 dpi) 10.0～105.7 mm (300 dpi)
用紙幅	30.0～112.0 mm

*本機では使用しません。

■ リボン紙管内径設定

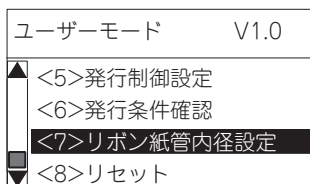
本機に取り付けているリボン紙管の内径を設定します。

□ リボン紙管内径設定メニュー

メニュー	パラメータ
リボン紙管内径設定	<ul style="list-style-type: none"> • 12.7 mm (0.5 inch) • 25.4 mm (1.0 inch)

□ リボン紙管内径設定操作

- 1 [ユーザーモード] 画面を表示します。
☞ P.70 「ユーザーモードへの移行方法」
- 2 [リボン紙管内径設定] を選択し、[PAUSE] キーを押します。

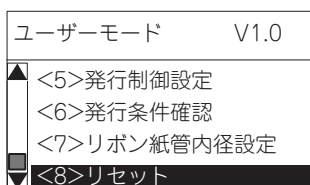


- 3 リボン紙管の内径を選択し、[PAUSE] キーを押します。

■ リセット操作

間違えて発行指示を行った場合など、本機に転送したデータをクリアして初期状態にするに行います。

- 1 [ユーザーモード] 画面を表示します。
☞ P.70 「ユーザーモードへの移行方法」
- 2 [リセット] を選択し、[PAUSE] キーを押します。



電源投入後の初期状態になります。



補足

セーブデータ呼出しコマンドの [電源投入時の自動呼出し] パラメータが [呼出しあり] に設定されている場合、このリセット操作により解除されます。

システムモードの機能

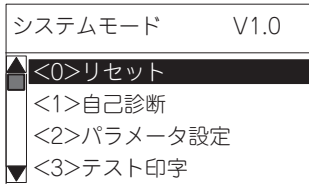
システムモードの機能には、「自己診断」、各種「パラメータ設定」、「テスト印字」、「センサー調整」、「RAMクリア」、「インターフェース設定」、「RFID設定」などがあります。

■ システムモードへの移行方法

本機の電源をOFFにしてから、以下の操作でシステムモードへ移行します。

☞ P.32 「電源をOFFにする」

- 1 [FEED] と [PAUSE] キーを押しながら電源ONにします。
- 2 電源スイッチを離してから、[FEED] と [PAUSE] キーを離します。
システムモードになります。



- 3 [FEED] / [RESTART] キーを使ってメニューを選択し、[PAUSE] キーを押して決定します。

□ システムモードメニュー一覧

No.	メニュー	概要
0	リセット	プリンタを再起動します。 ユーザーモードの「リセット」を参照してください。 ☞ P.93 「リセット操作」
1	自己診断	本機の自己診断結果印字、メンテナンスカウンタ・パラメータ設定値印字、印字ヘッド断線チェック、BDアドレス印字を行います。
2	パラメータ設定	プリンタの各機能のパラメータを設定します。 ☞ P.72 「パラメータ設定操作」
3	テスト印字	斜線、キャラクター、バーコード等のテスト印字を行います。
4	センサー	外気温度とヘッド温度の表示および各用紙検出センサーの調整を行います。
5	RAMクリア	メンテナンスカウンタおよびパラメータを初期値に戻します。
6	INTERFACE	ネットワーク、Bluetooth、USB、RS-232C等のインターフェースに関するパラメータ設定を行います。
7	RFID設定	RFIDのパラメータ設定を行います。
10	工場出荷調整用	(出荷工程で行う調整メニューのため、操作例は記載していません。)
11	BASIC設定	BASICプログラムをプリンタにダウンロードして使用する際の機能を設定します。(本機では使用しませんので記載していません。)
12	XML	XML機能を設定します。本機では使用しませんので記載していません。
13	LCD表示設定	LCDの表示言語や表示項目の設定、コントラスト調整を行います。
14	パスワード設定	システムモードとユーザーモードにアクセスするためのシステムパスワードを設定します。

補足

設定変更が本機に反映されるタイミングは、一部を除き電源投入時またはリセット後になります。

■ 自己診断

自己診断を行い、現在のメンテナンスカウンタ、パラメータ設定値、ファームウェアバージョン、メモリサイズ、センサー状態、オプションの装着有無等を印字します。
また、印字ヘッドの断線チェックや、BDアドレスのQRコードでの表示・印字をします。

□ 自己診断メニュー一覧

メニュー	サブメニュー		パラメータ
システムツール	カウンタ/パラメータ	印字方式	熱転写
			感熱
			表示
	自動自己診断	印字方式	熱転写
			感熱
			表示
ヘッド断線チェック	ヘッド断線チェック		
BDアドレス	BDアドレス		

□ 自己診断操作例

1 [システムモード] 画面を表示します。

📖 P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [自己診断] を選択し、[PAUSE] キーを押します。

システムモード	V1.0
▲	<0>リセット
■	<1>自己診断
	<2>パラメータ設定
▼	<3>テスト印字

3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。


<1> 自己診断	V1.0
▲	カウンタ/パラメータ
	自動自己診断
	ヘッド断線チェック
▼	BDアドレス

□ [カウンタ/パラメータ] 印字設定

補 足

以下の印字条件で印刷します。

- 印字方式：ユーザー設定による
- センサー種類：無し
- 印字速度：4 ips
- 発行枚数：1枚
- 発行モード：ユーザー設定による

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
印字方式	<p>メンテナンスカウンタ/パラメータ印字の印字方式を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 熱転写 熱転写方式で印字します。 • 感熱 感熱方式で印字します。 • 表示 印刷せずに画面表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> • カット有無 上記「印字方式」で「熱転写」または「感熱」を選択すると表示されます。メンテナンスカウンタ/パラメータ印字をカット発行で行うか否かを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • しない • する <p>[PAUSE] キーを押すと印字を開始します。</p> <p>補 足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 印刷中は、「印刷中」と表示されます。 • 印刷が正常終了すると、[カウンタ/パラメータ] 画面に戻ります。 • 印刷中にエラーが発生した場合は、エラーメッセージを表示して発行を停止します。このとき、ERRORランプが点灯し、ONLINEランプは消灯します。なお、エラー復帰後に自動再発行は行われません。
	<ul style="list-style-type: none"> • 表示 上記「印字方式」で「表示」を選択後、表示させたい項目を選び、[PAUSE] キーを押してください。 <ul style="list-style-type: none"> • カウンタ：<<COUNTER>> • 調整値 (PC)：<<ADJUST>> • 保存エリア：<<STORAGE AREA>> • USBシリアル番号：<<USB>> • 無線LAN認証方式：<<LAN/WLAN>> • RFIDタグ：<<RFID>> <p>補 足</p> <p>各表示項目の内容は、以下の参照先をご覧ください。  P.98 「メンテナンスカウンタ・各種パラメータの印字・表示項目」</p>

メンテナンスカウンタ・各種パラメータの印字・表示項目

<<COUNTER>>

(1)	TOTAL FEED	総ラベル走行距離（クリアできません）
(2)	FEED	ラベル走行距離
(3)～(6)	FEED1～FEED4	ラベル走行距離の履歴
(7)	PRINT	印字距離
(8)～(11)	PRINT1～PRINT4	印字距離の履歴
(12)	CUT	カット回数
(13)	232C ERR	RS-232Cハードエラー発生回数
(14)	SYSTEM ERR	システムエラー発生回数
(15)	POWER FAIL	瞬時停電発生回数

<<ADJUST>>

	[PC]（コンピュータでの設定値）と [KEY]（キー操作での設定値）	
(16)	FEED	フィード量微調
(17)	CUT	カット位置（または剥離位置）微調
(18)	BACK	バックフィード量微調
(19)	TONE(T)	印字濃度微調（転写）
(20)	TONE(D)	印字濃度微調（直接発色）
(21)	X ADJ.	X方向座標微調 X方向微調方法
(22)	THRESHOLD(R)	反射センサー手動スレッシュホールド微調1～5
(23)	THRESHOLD(T)	透過センサー手動スレッシュホールド微調1～5

<<PARAMETER SETTINGS>>

(24)	MEDIA LOAD	頭出し
(25)	MOVE TO TEAROFF	発行後の正転待機切替、停止位置微調値、および待機モード
(26)	PRE PEEL OFF	プレ剥離動作設定
(27)	BACK FEED SPEED	バックフィード速度設定
(28)	CALIBRATION	自動用紙測定（オートキャリブレーション）設定
(29)	CODE PAGE	文字コードの切替および“0”のスラッシュ有無
(30)	CTRL CODE	コマンド制御コード種別
(31)	PEEL OFF STATUS	剥離待ちステータス
(32)	USB I/F STATUS	USB経由ステータス
(33)	FEED KEY	[FEED] キー機能
(34)	KANJI CODE	漢字特殊コード設定
(35)	EURO CODE	EUROフォントコード設定
(36)	AUTO HEAD CHK	自動断線チェック設定
(37)	WEB PRINTER	WEBプリンタ機能設定
(38)	RIBBON NEAR END	リボンニアエンド検出設定
(39)	PAPER/RBN END	ラベルエンド処理設定

(40)	MAXICODE SPEC.	MaxiCode仕様設定
(41)	XML	XML仕様設定
(42)	ENERGY TYPE(T)	印加制御 熱転写方式
(43)	ENERGY TYPE(D)	印加制御 感熱方式
(44)	POWER SAVE TIME	省電力移行時間
(45)	BASIC	ベーシックインタプリタ設定
(46)	BASIC TRACE	ベーシックインタプリタトレース設定
(47)	CUT MODE	カットモード
(48)	MULTI LABEL	ラベル複数枚取り設定
(49)	FEED LENGTH	走行距離警告設定
(50)	TOTAL LENGTH	総走行距離警告設定
(51)	ISSUE CTRL	発行制御設定
	SENSOR	センサー
(52)	MODE	モード
(53)	SPEED	印字速度
(54)	RIBBON	リボン
(55)	ROTATION	印字方向
(56)	STATUS	自動ステータス応答

<<PANEL>>

(57)	LANGUAGE	LCDメッセージ言語
(58)	MODEL NAME	機種名表示
(59)	PRINTED COUNTER	印刷枚数表示
(60)	IP ADDRESS	IPアドレス表示
(61)	CONTRAST	LCDコントラスト
(62)	SYSTEM PASSWORD	システムモードパスワード

<<STORAGE AREA>>

(63)	TTF AREA	TrueTypeFont登録エリアサイズ
(64)	EXT CHR AREA	外字登録エリアサイズ
(65)	BASIC AREA	ベーシックプログラムファイル保存エリアサイズ
(66)	PC SAVE AREA	PCコマンド保存エリアサイズ
(67)	OTF SAVE AREA SPACE	OTF保存エリア空きサイズ

<<USB>>

(68)	SERIAL NUMBER	USBシリアル番号有効/無効およびUSBシリアル番号
------	---------------	----------------------------

<<RS-232C>>

(69)	BAUD RATE	通信速度
(70)	DATA LENGTH	データ長
(71)	STOP BIT	ストップビット長

(72)	PARITY	パリティ
(73)	CONTROL	伝送制御方式

<<LAN/WLAN>>

(74)	LAN/WLAN	LAN切替
(75)	SNMP	SNMP
(76)	IP ADDRESS	プリンタIPアドレス
(77)	v6L	リンクローカルアドレス
(78)	v6G	グローバルアドレス
(79)	SUBNET MASK	サブネットマスク
(80)	GATEWAY ADDRESS	ゲートウェイIPアドレス
(81)	SOCKET PORT	ソケット通信有無およびソケットポート番号
(82)	DHCP	DHCP設定
(83)	DHCP CLIENT ID	DHCP ID (16進数表示)
(84)	DHCP HOST NAME	DHCPホスト名 (アスキー表示)
(85)	LPR	LPR
(86)	BAND SELECT	無線LAN：帯域設定
(87)	CONNECTION MODE	無線LAN：接続設定
(88)	ESS ID	無線LAN：ESS ID
(89)	ENCRYPTION *	無線LAN：暗号化
(90)	WPA MODE *	無線LAN：WPA設定
(91)	AUTHENTICATION *	無線LAN：認証方式
(92)	802.1X SUPPLICANT *	無線LAN：認証方式
(93)	DEFAULT KEY *	無線LAN：送信時に使用する暗号化キー
(94)	COUNTRY/REGION CODE *	無線LAN：使用国／地域設定
(95)	AP MODE CHANNEL *	無線LAN：AP MODE用のチャンネル設定

* 設定ツールによる設定項目

<<BLUETOOTH>>

(96)	BLUETOOTH	Bluetooth動作設定
(97)	DEVICE NICKNAME	デバイスニックネーム
(98)	BD ADDRESS	BDアドレス
(99)	FACTORY TEST	デバイスニックネームを区別するための設定
(100)	INQUIRY	インクワイリースキャン時間
(101)	SECURITY	Bluetoothペアリング時のセキュリティレベル
(102)	SCAN INTERVAL	インクワイリースキャンの接続間隔
(103)	SCAN WINDOW	ページスキャンウィンドウ設定
(104)	AUTO CONNECT	Bluetooth自動再接続設定
(105)	SSP AUTH	SSP認証種別および認証コード確認設定

<<RFID>> [BV410T]

(106)	MODULE TYPE	RFIDモジュールタイプ設定
(107)	TAG TYPE	RFIDタグタイプ設定
(108)	RF CHANNEL	RFIDチャンネル設定
(109)	RETRY POSITION	RFID調整リトライ設定
(110)	RETRY LABELS	RFID発行リトライ枚数設定
(111)	READ RETRY	RFID読取りリトライ回数設定および読取りリトライ時間設定
(112)	WRITE RETRY	RFID書込みリトライ回数設定および書込みリトライ時間設定
(113)	POWER LEVEL	RFID無線出力レベル
(114)	Q VALUE	RFIDモジュールQ値設定
(115)	AGC THRESHOLD	RFID AGCスレッシュホールド設定
(116)	WRITE AGC	RFID書込みAGCしきい値設定
(117)	RETRY MIN AGC	RFID書込みAGCしきい値リトライ下限値設定
(118)	TAG CHECK	RFIDエラータグ検出設定、保護パスワード設定、およびオートアンロック機能設定
(119)	MULTI WRITE	マルチワード書込み設定
(120)	CALIB. MODE	RFIDキャリブレーションモードで設定された値の有効/無効設定
(121)	ENCODE POSITION	RFIDキャリブレーションで検出したPOSITION値
(122)	SUCCEEDED TAGS	RFID書込み成功ラベル発行回数
(123)	VOID PRINT TAGS	RFID書込み失敗ラベル発行回数

□ [自動自己診断] 印字設定

補 足

以下の印字条件で印刷します。

- 印字方式：ユーザー設定による
- センサー種類：無し
- 印字速度：4 ips
- 発行枚数：1枚
- 発行モード：ユーザー設定による

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
印字方式	自己診断の印字方式を設定します。
	<ul style="list-style-type: none">• 熱転写 熱転写方式で印字します。• 感熱 感熱方式で印字します。• 表示 印刷せずに画面表示します。
	<ul style="list-style-type: none">• カット有無 上記「印字方式」で「熱転写」または「感熱」を選択すると表示されます。 自己診断結果をカット発行で行うか否かを設定します。<ul style="list-style-type: none">• しない• する <p>[PAUSE] キーを押すと印字を開始します。</p> <h3>補 足</h3> <ul style="list-style-type: none">• 印刷中は、「印刷中」と表示されます。• 印刷が正常終了すると、[自動自己診断] 画面に戻ります。• 印刷中にエラーが発生した場合は、エラーメッセージを表示して発行を停止します。このとき、ERRORランプが点灯し、ONLINEランプは消灯します。なお、エラー復帰後に自動再発行は行われません。

自動自己診断印字例

*印字内容は説明のための例であり、実際の印字内容と異なることがあります。

```

(1) PROGRAM BV410T-T
    PRINTER S/N 2318D120024
(2)   MAIN 15NOV2018 V1.0B:F100
(3)   BOOT 20APR2018 V1.0 :8E00
(4)   XML  22MAY2018 V1.0 :6700
(5)   WLAN 05JUL2016 V1.0A :4300
(6) FONT  ANKCG   :AE00
(7)      KANJI   :9F00
(8)      CHINESE :4D00
(9) FROM  128MB
(10) SDRAM 128MB
(11) SENSOR1 00000000,00000111
(12) SENSOR2 [H]23 ° C [A]22 ° C
(13)          [R]4.2V [T]2.5V
(14) PE LV.  [R]1.8V [T]2.5V
    M THRE.
(15) THRESHOLD(R)                1.0V
          0.9V 1.1V 1.2V 1.3V
(16) THRESHOLD(T)                1.4V
          1.2V 1.3V 1.5V 1.6V
(17) HEAD  [RANK]1    300DPI
(18) LAN MAC 11-22-33-44-55-66
(19) EX.232C
(20) SIO    NG(0111) NG
(21) BLUETOOTH OK sppi_v2.12
(22) MFi    OK
(23) iAP Serial 2318T120023
(24) RFID[BV410T] OK Z#20A:A0 0(US )R00 0
(25) WLAN    OK Ver1.1.3
(26) MAC     00-11-22-33-44-55
(27) USB MEMORY NG
(28) BASIC M NONE
(29) BASIC S NONE
(30) OTF
      CJK.TTF          010827E0
  
```

補足

文字コード切替の設定内容により、「°C」の「°」（度）の文字が正しく印字されないことがあります。

自動自己診断印字項目

(1)	<p>PROGRAM <u>BV400T-T</u> ← [1] PRINTER S/N <u>2318D120024</u> ← [2]</p> <p>1.モデル名 2.プリンタシリアル番号</p>
(2)	<p><u>MAIN</u> <u>15NOV2018</u> <u>V1.0B:F100</u></p> <p>[1] [2] [3] [4]</p> <p>1.メインプログラム 2.作成日（日－月－年） 3.バージョン 4.チェックサム</p>
(3)	<p><u>BOOT</u> <u>20APR2018</u> <u>V1.0:8E00</u></p> <p>[1] [2] [3] [4]</p> <p>1.ブートプログラム 2.作成日（日－月－年） 3.バージョン 4.チェックサム</p>
(4)	<p><u>XML</u> <u>22MAY2018</u> <u>V1.0:6700</u></p> <p>[1] [2] [3] [4]</p> <p>1.XMLプログラム 2.作成日（日－月－年） 3.バージョン 4.チェックサム</p>
(5)	<p><u>WLAN</u> <u>05JUL2016</u> <u>V1.0A:4300</u></p> <p>[1] [2] [3] [4]</p> <p>1.WLANプログラム 2.作成日（日－月－年） 3.バージョン 4.チェックサム</p>
(6)	<p>FONT <u>ANKCG</u> : <u>AE00</u></p> <p>[1] [2]</p> <p>1.1バイトコードフォント 2.チェックサム</p>
(7)	<p><u>KANJI</u> : <u>9F00</u></p> <p>[1] [2]</p> <p>1.ゴシック体・明朝体ビットマップ漢字 2.チェックサム</p>
(8)	<p><u>CHINESE</u> : <u>4D00</u></p> <p>[1] [2]</p> <p>1.中国語ビットマップ漢字 2.チェックサム</p>

(17)	<p>HEAD <u>[RANK]1</u> <u>300DPI</u></p> <p style="margin-left: 100px;"> </p> <p style="margin-left: 100px;">[1] [2]</p> <p>1.印字ヘッド抵抗ランク (0/1) 2.装着されている印字ヘッド解像度</p>
(18)	<p>LAN MAC <u>11-22-33-44-55-66</u></p> <p style="margin-left: 100px;"> </p> <p style="margin-left: 100px;">[1]</p> <p>1.有線LAN MACアドレス</p>
(19)	<p><u>EX.232C</u> <u>NG</u></p> <p style="margin-left: 40px;"> </p> <p style="margin-left: 40px;">[1] [2]</p> <p>1.内部シリアルインターフェース 2.OK：データ正常 NG：データ異常、またはループバック治具未装着</p>
(20)	<p><u>SIO</u> <u>NG(0111)</u> <u>NG</u></p> <p style="margin-left: 20px;"> </p> <p style="margin-left: 20px;">[1] [2] [3] [4]</p> <p>1.外部シリアルインターフェース 2.OK：データ正常 NG：データ異常、またはループバック治具未接続 3.ビット構成 (x3x2x1x0) x0：1固定 x1：1固定 x2：1固定 x3：オプションボード有無 (0: RS-232Cボード未接続、 1: RS-232Cボード接続) 4.DIN (OK：データ正常、 NG：データ異常、 またはループバック治具未接続)</p>
(21)	<p><u>BLUETOOTH</u> <u>OK</u> <u>sppi v2.12</u></p> <p style="margin-left: 40px;"> </p> <p style="margin-left: 40px;">[1] [2] [3]</p> <p>1.Bluetooth 2.OK：正常 NG：異常 -：未装着 3.Bluetoothモジュールのファームウェアバージョン (Bluetoothモジュールからバージョンを取得できない場合は"--"となる)</p>
(22)	<p><u>MFi</u> <u>OK</u></p> <p style="margin-left: 40px;"> </p> <p style="margin-left: 40px;">[1] [2]</p> <p>1.MFi用チップ (CPチップ) 2.OK：正常 NG：異常</p>
(23)	<p><u>iAP Serial</u> <u>2318T120023</u></p> <p style="margin-left: 40px;"> </p> <p style="margin-left: 40px;">[1] [2]</p> <p>1.iAP Serial Number 2.モジュール登録済みのiAPシリアル番号</p>

<p>(24)</p>	<p>RFID [BV410T] OK Z#20A: A0 0 (US) R00</p> <p style="text-align: center;"> [1] [2] [3] [4] [5] [6] </p> <p>1.RFIDモジュール 2.モジュールチェック結果 OK：正常 モジュールチェック結果 NG：異常 3.モジュールファームウェアバージョン 4.チップリビジョン 5.モジュール使用国設定 6.モジュールリビジョン (U4シリーズ)</p>
<p>(25)</p>	<p>WLAN OK Ver1.1.3</p> <p style="text-align: center;"> [1] [2] [3] </p> <p>1.無線LAN 2.OK：無線LAN装着 NG：無線LAN非装着または無線LANが無効に設定されている 3.無線LANボード上のプログラムバージョン</p>
<p>(26)</p>	<p>MAC 00-11-22-33-44-55</p> <p style="text-align: center;"> [1] </p> <p>1.無線LAN MACアドレス (無線LAN装着時のみ印字)</p>
<p>(27)</p>	<p>USB MEMORY NG</p> <p style="text-align: center;"> [1] [2] </p> <p>1.USBメモリ 2.OK：ライト/リードチェック正常 NG：ライト/リードチェック異常、またはUSBメモリ非挿入</p>
<p>(28)</p>	<p>BASIC M NONE</p> <p style="text-align: center;"> [1] [2] </p> <p>1.BASICメインプログラム 2.NONE：プログラム無し バージョン：プログラム有り</p>
<p>(29)</p>	<p>BASIC S NONE</p> <p style="text-align: center;"> [1] [2] </p> <p>1.BASICシステムプログラム 2.NONE：プログラム無し バージョン：プログラム有り</p>
<p>(30)</p>	<p>OTF</p> <p style="text-align: center;"> CJK.TTF 010827E0 </p> <p style="text-align: center;"> [1] [2] </p> <p>1.OTFファイル名 2.ファイルサイズ (16進表記、単位：Byte)</p>

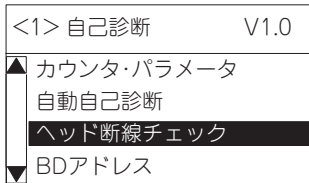
□ ヘッド断線チェック

印字ヘッドの断線チェックを実行します。

1 【自己診断】画面を表示します。

📖 P.95 「自己診断操作例」

2 【ヘッド断線チェック】を選択し、[PAUSE] キーを押します。

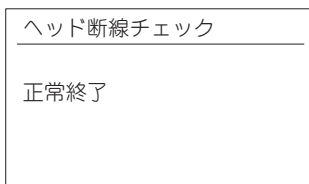


ヘッド断線チェックを開始します。

3 結果を確認します。

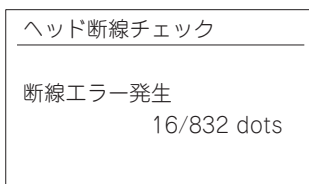
• 正常終了時

画面に「正常終了」と表示されます。



• 断線エラー検出時

断線ドット数/全ドット数が表示されます。



4 確認が終わったら、[PAUSE] キーを押して上位画面に戻ります。

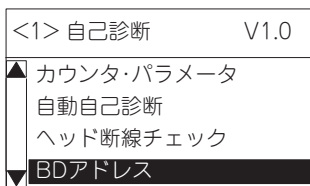
□ BDアドレス

BDアドレスのQRコードとCODE128を印刷します。

1 【自己診断】画面を表示します。

📖 P.95 「自己診断操作例」

2 [BDアドレス] を選択し、[PAUSE] キーを押します。

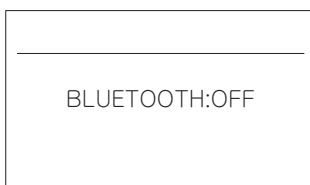


BDアドレスがQRコードで表示されます。



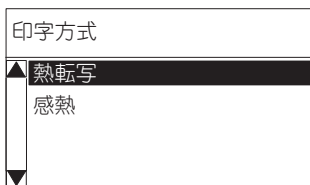
補 足

Bluetooth機能がOFFの場合、またはBDアドレスの取得に失敗した場合は、QRコードは表示されません。
[PAUSE] キーを押すと上位画面に戻ります。



3 [PAUSE] キーを押します。

4 印字方式を選択し、[PAUSE] キーを押します。



5 カット発行の有無を選択し、[PAUSE] キーを押します。



BDアドレスのQRコードとCODE128が印刷されます。



[自己診断] 画面に戻ります。

■ テスト印字

斜線、文字、バーコード等のテスト印字パターンを印字します。
また、テスト印字用の印字条件を設定できます。

□ テスト印字メニュー一覧

メニュー	サブメニュー	パラメータ
テスト印字	印字条件設定	発行枚数
		印刷速度
		センサー
		印字方式
		発行タイプ
		ラベルピッチ
		紙送り
	斜線1ドット印字	
	斜線3ドット印字	
	キャラクター印字	
	バーコード印字	
	白紙印字（何も印字せずフィードします）	
	工場出荷テスト（このメニューは選択しないでください）	
	自動印刷（透過）（このメニューは選択しないでください）	
自動印刷（反射）（このメニューは選択しないでください）		

□ テスト印字操作例

1 [システムモード] 画面を表示します。

☞ P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [テスト印字] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

システムモード	V1.0
▲	<1>自己診断
	<2>パラメータ設定
	<3>テスト印字
▼	<4>センサー

3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

	<3> テスト印字
▲	印字条件設定
	斜線1ドット印字
	斜線3ドット印字
▼	キャラクター印字

□ 印字条件設定

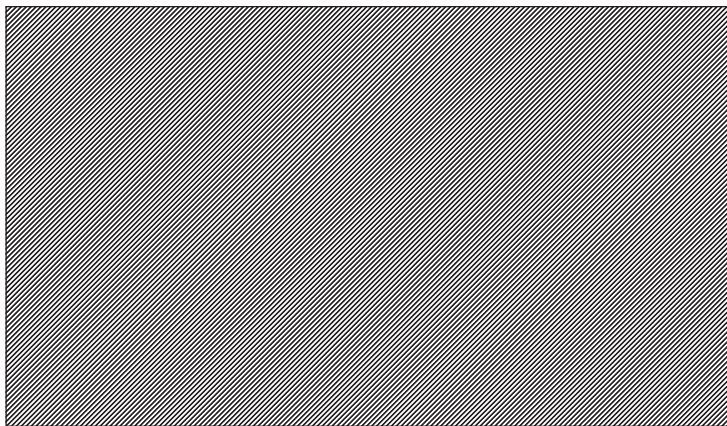
各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
発行枚数	<ul style="list-style-type: none"> • <u>1枚</u> • 3枚 • 5枚 • 10枚 • 50枚 • 100枚 • 500枚 • 1000枚 • 5000枚
印刷速度	<ul style="list-style-type: none"> • 2 ips • 3 ips • <u>4 ips</u> • 5 ips • 6 ips (203 dpiのみ) • 7 ips (203 dpiのみ)
センサー	<ul style="list-style-type: none"> • 無し： 位置検出無し • <u>透過</u>： 透過センサー • 反射： 反射センサー • 透過 (手動1 ~ 5)： 透過センサー手動設定スレッシュホールド • 反射 (手動1 ~ 5)： 反射センサー手動設定スレッシュホールド
印字方式	<ul style="list-style-type: none"> • 熱転写： 熱転写 • <u>感熱</u>： 直接発色
発行タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • <u>連続</u> • カット • 剥離 • ライナレスカット • パーシャルカット <p>補 足 ご使用の機種または取り付けられたオプションにより、選択できる発行タイプは異なります。</p>
ラベルピッチ	5 mm ~ 999 mm (1 mm単位) (初期値：76 mm)
紙送り	<ul style="list-style-type: none"> • しない • <u>する</u>

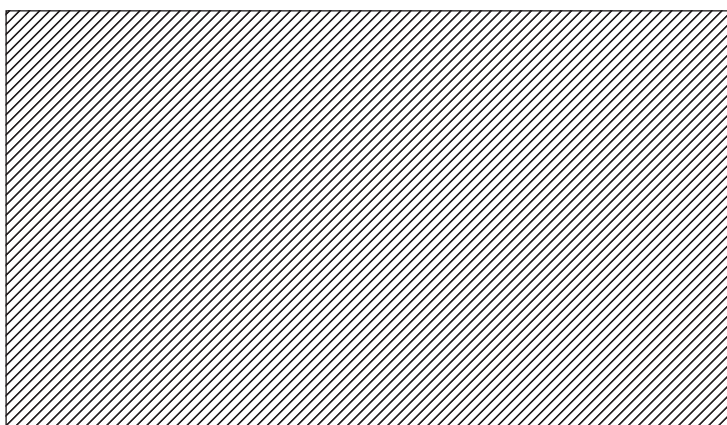
補足

- 電源投入時の各パラメータの初期値
 - 発行枚数：1枚
 - センサー指定：透過センサー
 - 印字方式：感熱方式
 - 発行タイプ：連続発行
 - ラベルピッチ：76 mm
 - 紙送り：する
- X方向座標微調を除く各種微調パラメータは、テスト印字でも有効です。
- テスト印字中にエラーが発生した場合は、エラーメッセージを表示して発行を停止します。
- エラーは [PAUSE] キーを押すことで解除され、テスト印字メニューの表示に戻りますが、エラー復帰後の自動再発行は行いません。
- イメージバッファ長より大きなラベルサイズは指定できません。イメージバッファ長より大きな値を指定した場合は、イメージバッファ長分を印字して停止するか、エラーが発生して停止します。
- 透過センサーを指定した場合、ラベル間ギャップは3 mmとして印字します。

斜線1ドット印字例



斜線3ドット印字例



キャラクター印字例



バーコード印字例



■ センサー

外気温度やヘッド温度を表示します。また、センサーで検知した用紙（または黒マーク）の電圧表示や設定、スレッシュホールド設定モードで設定したスレッシュホールド（しきい値）を微調整します。

□ センサーメニュー一覧

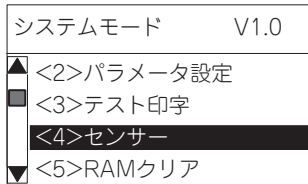
メニュー	サブメニュー	パラメータ
センサー	温度センサー表示	外気温度
		ヘッド温度
	調整	反射センサー
		透過センサー
		紙無しレベル
	スレッシュホールドレベル	反射センサー
透過センサー		

□ センサー設定操作例

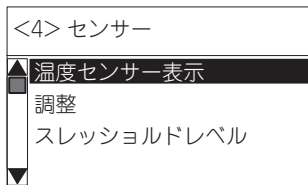
1 [システムモード] 画面を表示します。

☞ P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [センサー] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



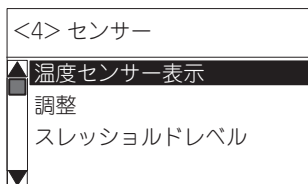
□ 温度センサー表示

印字ヘッド温度と外気温度を表示します。

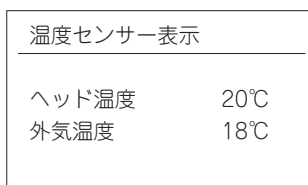
1 [センサー] メニューを表示します。

☞ P.114 「センサー設定操作例」

2 [温度センサー表示] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



印字ヘッド温度と外気温度が表示されます。



温度範囲

ヘッド温度：-20℃ ~ 100℃

外気温度：-20℃ ~ 100℃

□ 調整

現在センサーが検知している電圧を表示します。

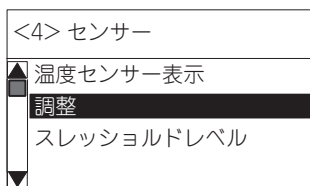
また、印字エリア検出時の電圧を反射センサーに、ギャップ部検出時の電圧を透過センサーに、用紙切れ検出時の電圧を両センサーに、それぞれ設定します。

反射センサーの調整

1 【センサー】メニューを表示します。

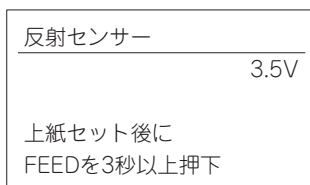
📖 P.114 「センサー設定操作例」

2 【調整】メニューを選択し、【PAUSE】キーを押します。



3 【反射センサー】メニューを選択し、【PAUSE】キーを押します。

反射センサーで検知した用紙または黒マークの電圧を表示します。



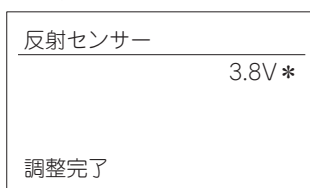
4 タグ紙を反射センサーの上にセットします。

注意

黒マークがセンサーにかからないようにセットしてください。

5 【FEED】キーを3秒以上押したままにします。

調整が完了すると「調整完了」と調整後の電圧値を表示します。電圧値の右側にアスタリスクを表示します。



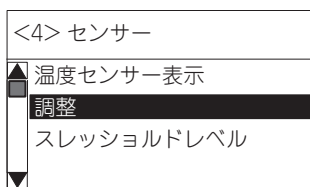
設定範囲：0.0 V ～ 5.0 V

透過センサーの調整

1 【センサー】メニューを表示します。

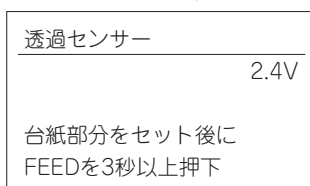
📖 P.114 「センサー設定操作例」

2 【調整】メニューを選択し、【PAUSE】キーを押します。



3 【透過センサー】メニューを選択し、【PAUSE】キーを押します。

透過センサーで検知した用紙またはギャップの電圧を表示します。

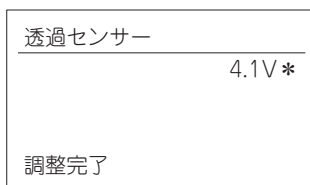


4 ラベル紙からラベルをはがした台紙を透過センサーの上にセットします。

5 【FEED】キーを3秒以上押したままにします。

調整が完了すると「調整完了」と調整後の電圧値を表示します。

電圧値の右側にアスタリスクを表示します。



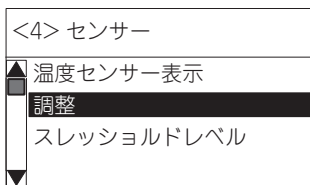
設定範囲：0.0 V ~ 5.0 V

紙無しレベルの調整

1 [センサー] メニューを表示します。

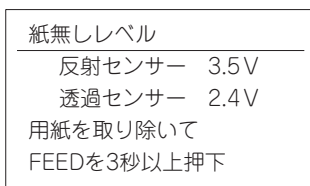
📖 P.114 「センサー設定操作例」

2 [調整] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 [紙無しレベル] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

反射センサーと透過センサーで検知した紙無し（ペーパーエンド）状態の電圧を表示します。

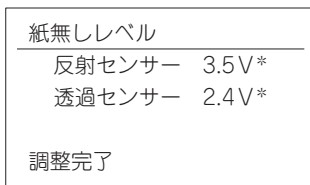


4 センサー上から用紙を取り除き、ペーパーエンドの状態にします。

5 [FEED] キーを3秒以上押したままにします。

調整が完了すると「調整完了」と調整後の電圧値を表示します。

電圧値の右側にアスタリスクを表示します。



反射センサー設定範囲：0.0V～5.0V

透過センサー設定範囲：0.0V～5.0V

注意

- センサー調整中は、各センサーの状態を0.2秒ごとに監視して表示します。したがって、センサーの状態が変化すると表示も変わります。
- 外気温が検出不能な場合、外気温センサー A/D値は「[A] --℃」と表示します。
- センサー故障等により調整が失敗したときは「センサーエラー」と表示し、ERRORランプが点灯します。上位画面に移動するとERRORランプは消灯します。

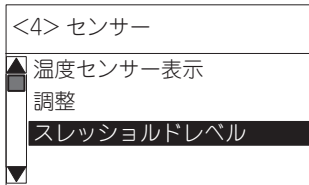
□ スレッシュホールドレベル

スレッシュホールド設定モードで設定したスレッシュホールド（しきい値）を微調整します。

1 [センサー] メニューを表示します。

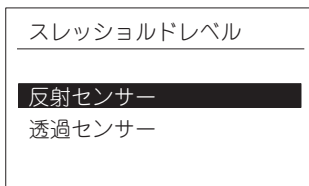
📖 P.114 「センサー設定操作例」

2 [スレッシュホールドレベル] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



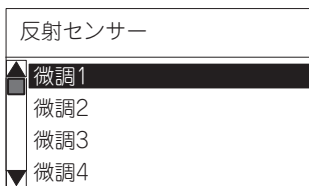
3 スレッシュホールドを微調整するセンサーを選択し、[PAUSE] キーを押します。

[反射センサー] を選択した画面で説明しています。

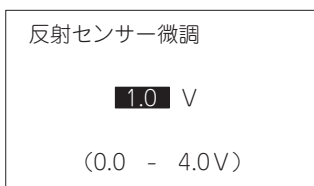


4 スレッシュホールド登録番号を選択し、[PAUSE] キーを押します。

[微調1] ~ [微調5] から選択します。



5 [FEED] / [RESTART] キーでスレッシュホールドの微調値を上下し、[PAUSE] キーを押します。



反射センサー設定範囲：0.0 V ~ 4.0 V

透過センサー設定範囲：0.0 V ~ 4.0 V

補 足

- スレッシュホールドの設定については、以下の参照先をご覧ください。
📖 P.62 「スレッシュホールド設定モード」
- ピーク値 - 微調値 = しきい値 となります。しきい値がピーク値とベース値の中間値となるように設定してください。
- スレッシュホールドの微調値を0.0 Vに設定した場合、初期値に補正されます。
反射センサー初期値：1.0 V
透過センサー初期値：1.4 V

■ RAMクリア

メンテナンスカウンタやパラメータ設定を初期値に戻します。
メンテナンスカウンタは、クリアする項目を選ぶことができます。

□ RAMクリアメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	パラメータ	
RAMクリア	クリアしない		
	カウンタクリア	全カウンタ	
		ラベル走行距離	
		印字距離	
		カット数	
		その他	
	パラメータクリア	QMタイプ	
		JAタイプ	
		CNタイプ	
		QQタイプ	

□ RAMクリア操作例

- 1 **【システムモード】画面を表示します。**
☞ P.94 「システムモードへの移行方法」
- 2 **【RAMクリア】メニューを選択し、【PAUSE】キーを押します。**



- 3 **サブメニューを選択し、【PAUSE】キーを押します。**



補足

RAMクリア操作では、総ラベル走行距離、センサー調整値、IPアドレス設定内容、およびフラッシュメモリの内容は初期化しません。

□ カウンタクリア

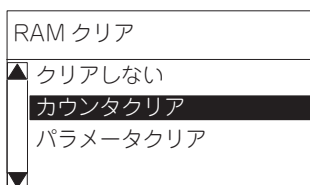
メンテナンスカウンタの各情報をクリアします。

また、クリアする対象を [全カウンタ]、[ラベル走行距離]、[印字距離]、[カット回数]、[その他] から選択できます。

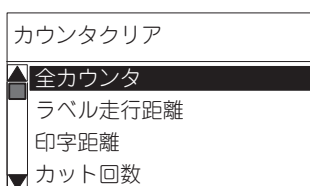
1 [RAMクリア] メニューを表示します。

📖 P.119 「RAMクリア操作例」

2 [カウンタクリア] サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 クリアする対処を選択します。



- 全カウンタ
- ラベル走行距離
- 印字距離
- カット回数
- その他

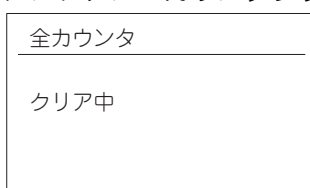
補 足

クリア後の初期値については、以下の項目を参照してください。

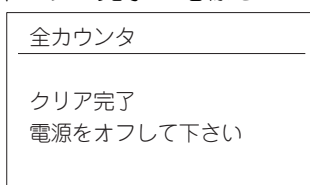
📖 P.122 「パラメータクリア後の初期値」

4 [PAUSE] キーを押します。

メンテナンスカウンタクリアを開始します。



「クリア完了 電源をオフして下さい」と表示されます。



5 プリンタの電源をOFFにします。

📖 P.32 「電源をOFFにする」

メンテナンスカウンタクリア項目およびクリア後の初期値

項目	初期値	全カウンタ	ラベル走行距離	印字距離	カット回数	その他
ラベル走行距離 (FEED)	0 km	○	○			
印字距離 (PRINT)	0 km	○		○		
カット回数 (CUT)	0回	○			○	
RS-232Cハードエラー発生回数 (232C ERR)	0回	○				○
システムエラー発生回数 (SYSTEM ERR)	0回	○				○
瞬時停電発生回数 (POWER FAIL)	0回	○				○

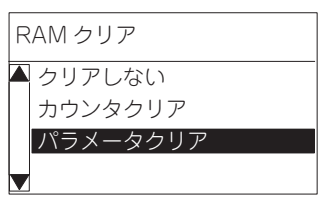
□ パラメータクリア

プリンタに設定している各パラメータを、選択した仕向け地の初期値にします。

1 [RAMクリア] メニューを表示します。

📖 P.119 「RAMクリア操作例」

2 [パラメータクリア] サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 [JAタイプ] を選択します。

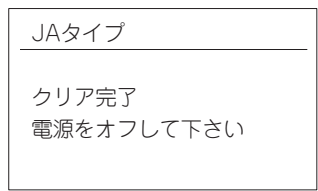


注意

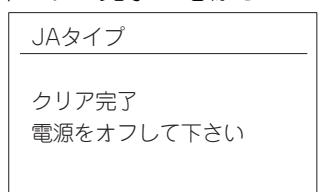
JAタイプ（日本向け）以外は選択しないでください。
 JA以外の仕向け地を選択してRAMクリアを実行すると、JAタイプとして使用できなくなります。

4 [PAUSE] キーを押します。

パラメータクリアを開始します。



「クリア完了 電源をオフして下さい」と表示されます。



5 プリンタの電源をOFFにします。

📖 P.32 「電源をOFFにする」

注意

RAMクリア後、メンテナンスカウンタ印字を行うと右上に仕向け地が印字されます。JAタイプであることを確認してください。

パラメータクリア後の初期値

項目	初期値
微調値設定	
フィード量微調	[PC] +0.0 mm [KEY] +0.0 mm
カット位置（または剥離位置）微調	[PC] +0.0 mm [KEY] +0.0 mm
バックフィード量微調	[PC] +0.0 mm [KEY] +0.0 mm
印字濃度微調（転写）	[PC] +0 step [KEY] +0 step
印字濃度微調（直接発色）	[PC] +0 step [KEY] +0 step
X方向座標微調	+0.0 mm
X方向微調方法	TYPE1
反射センサー手動スレッシュホールド微調1～5	1.0 V
透過センサー手動スレッシュホールド微調1～5	1.4 V
パラメータ設定	
頭出し	無効
自動正転待機	する
自動正転待機位置	+0.0 mm
待機動作	モード1
プレ剥離処理	しない
バックフィード速度	標準
用紙測定	しない
文字コード	PC-850
0の字体	“0”スラッシュ無し
制御CODE	自動判別
剥離待ちSTATUS	無効
USB経由STATUS	無効
[FEED] キー	フィード
漢字特殊コード	TYPE1
ユーロコード	B0 (0xb0)
自動断線チェック	無効
WEBプリンタ	無効
リボンニアエンド検出	無効
用紙/リボン終了	即時停止
MaxiCode仕様	TYPE1
XML仕様設定	標準
印加制御（熱転写）	標準
印加制御（感熱）	標準
省電力移行時間	15分

項目	初期値
ベーシックインタプリタ設定	無効
ベーシックインタプリタトレース設定	無効
カットモード	TYPE1
ラベル複数枚取り設定	無効
ラベル走行距離警告設定	3200 km
総ラベル走行距離警告設定	3200 km
発行制御設定	
センサー	コマンド優先
モード	コマンド優先
印字速度	コマンド優先
リボン	コマンド優先
印字方向	コマンド優先
自動ステータス応答	コマンド優先
表示	
LCD表示言語	日本語
LCD詳細設定 機種名	表示
LCD詳細設定 印刷枚数	表示
LCD詳細設定 IPアドレス	表示
コントラスト調整	40
システムモードパスワード	初期化しない
パスワード値	初期化しない
保存エリア	
TrueType Font登録エリアサイズ	初期化しない
外字登録エリアサイズ	初期化しない
ベーシックファイル保存エリアサイズ	初期化しない
PCコマンド登録エリアサイズ	初期化しない
OTF登録エリア残りサイズ	初期化しない
USB	
USBシリアル番号	無効
RS-232C	
通信速度	9600 bps
データ長	8 bits
ストップビット	1 bit
パリティ	偶数
フロー制御	XON+READY AUTO
LAN/WLAN	
LAN/WLAN切替	自動
SNMP	有効
IPアドレス	初期化しない
サブネットマスク	初期化しない
ゲートウェイIPアドレス	初期化しない
ソケットポート	初期化しない
ポート番号	初期化しない

項目	初期値
DHCP	ON
DHCPクライアントID	初期化しない
DHCPホスト名	初期化しない
無線LAN：周波数設定	DUAL BAND
無線LAN：接続設定	INFRASTRUCTURE
無線LAN：ESS ID	TOSHIBATEC
無線LAN：暗号化	無効
無線LAN：WPA認証方式	無効
無線LAN：認証方式	OPEN
無線LAN：認証方式	無効
無線LAN：暗号化キー	1
無線LAN：接続チャンネル設定	APモード
LPR	有効
BLUETOOTH	
動作設定	有効
テストモード	しない
デバイスニックネーム	TOSHIBA TEC BT
デバイスアドレス	初期化しない
検索設定	検索可能
接続間隔	2048
接続ウィンドウ	36
セキュリティレベル	SSP
自動再接続設定	無効
SSP認証種別	初期化しない
認証キー確認	初期化しない
RFID	
モジュールタイプ	なし
タグタイプ	なし
チャンネル	自動
調整リトライ	+00 mm
発行リトライ枚数	3枚
読取りリトライ回数	5回
読取りリトライ時間	4.0秒
書込みリトライ回数	5回
書込みリトライ時間	2.0秒
無線出力レベル	18
モジュールQ値	0
AGCスレッシュホールド	0
書込みAGCしきい値	0
書込みAGCしきい値リトライ下限値	0
エラータグ検出	初期化しない
マルチワード書込	無効

項目	初期値
キャリブレーションモード	無効
キャリブレーション検出位置	+000.0 mm
書込み成功ラベル発行回数	初期化しない
書込み失敗ラベル発行回数	初期化しない

メンテナンスカウンタ印字以外の項目の初期値

項目	初期値
発行条件確認	
センサー	透過センサー
モード	連続
印字速度	4 ips
リボン	無し
印字方向	尻出し
用紙ピッチ	76.0 mm
有効印字長	BV410T-G (203 dpi) : 74.1 mm BV410T-T (300 dpi) : 74.2 mm
印字幅	BV410T-G (203 dpi) : 104.0 mm BV410T-T (300 dpi) : 105.7 mm
用紙幅	初期化しない
プリンタ設定ツールでのみ設定可能な項目	
エラー後の再印刷	有効
簡易レシートモード	無効
ボトムマージン	2

■ INTERFACE

インターフェース関連のパラメータ設定を行います。

□ INTERFACEメニュー一覧

メニュー	サブメニュー	パラメータ
INTERFACE	有線LAN/無線LAN	有線LAN/無線LAN
		基本情報
		IPアドレス
		サブネットマスク
		ゲートウェイ
		DHCP
		DHCPクライアントID
		DHCPホスト名
		ソケットポート
		ポート番号
		LPR
		無線LAN
		SNMP
		WEBプリンタ
	USB	USBシリアル番号
		USB経由STATUS
	RS-232C	通信速度
		データ長
		ストップビット
		パリティ
		フロー制御
	BLUETOOTH	BLUETOOTH
		テストモード
		検索設定
		セキュリティレベル
		接続間隔
		接続ウィンドウ
		自動再接続
		SSP認証種別

□ INTERFACE設定操作例

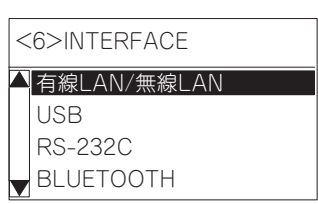
1 [システムモード] 画面を表示します。

📖 P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [INTERFACE] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



□ 有線LAN/無線LAN設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
有線LAN/無線LAN	<ul style="list-style-type: none"> 無効 有効 (<u>自動</u>) <p>注意 無線LANが装着されている場合、有線LANは動作しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効 (有線LAN) 有効 (無線LAN)
基本情報	ネットワーク設定に関する以下の情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス ソケットポート有効/無効 ソケットポート番号
IPアドレス	IPアドレスを表示/設定します。 (初期値： <u>192.168.010.020</u>)
サブネットマスク	サブネットマスクを表示/設定します。 (初期値： <u>255.255.255.000</u>)
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレスを表示/設定します。 (初期値： <u>000.000.000.000</u>)
DHCP	<ul style="list-style-type: none"> 無効 有効
DHCPクライアントID	DHCPクライアントIDを16進数で入力します。 00 ~ 63 (64バイト)
DHCPホスト名	DHCPホスト名を16進数で入力します。 00 ~ 31 (32バイト)

サブメニュー	パラメータ/機能/用途	
ソケットポート	<ul style="list-style-type: none"> • 無効 • <u>有効</u> 	
ポート番号	ソケットポート番号を表示/設定します。 00000 ~ 65535 (初期値: 09100)	
LPR	<ul style="list-style-type: none"> • 無効 • <u>有効</u> 	
無線LAN	無線LANに関する以下の情報を設定します。	
	<ul style="list-style-type: none"> • バンド選択 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>DUAL BAND</u> • 2.4 GHz • 5 GHz
	<ul style="list-style-type: none"> • 接続モード 	<ul style="list-style-type: none"> • AP MODE • <u>INFRASTRUCTURE</u>
<ul style="list-style-type: none"> • ESSID 	ESSIDを16進数で入力します。 00 ~ 31 (32バイト)	
SNMP *	<ul style="list-style-type: none"> • 無効 • <u>有効</u> 	
WEBプリンタ	<ul style="list-style-type: none"> • <u>無効</u> WEBプリンタ機能無し • 有効 WEBプリンタ機能あり 	

*コミュニティ名を変更することをお勧めします。

USB

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
USBシリアル番号	<ul style="list-style-type: none"> • <u>無効</u> • 有効
USB経由STATUS	<ul style="list-style-type: none"> • <u>無効</u> 応答無し • 有効 応答あり <p>補 足 このパラメータの設定にかかわらず、発行終了の自動応答は返します。</p>

RS-232C設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
通信速度	<ul style="list-style-type: none"> • 2400 bps • 4800 bps • <u>9600 bps</u> • 19200 bps • 38400 bps • 115200 bps
データ長	<ul style="list-style-type: none"> • <u>8 bits</u> • 7 bits
ストップビット	<ul style="list-style-type: none"> • <u>1 bit</u> • 2 bits

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
パリティ	<ul style="list-style-type: none"> 無し <u>偶数</u> 奇数
フロー制御	<ul style="list-style-type: none"> <u>XON+READY AUTO</u> (電源ON時XON、電源OFF時XOFF出力あり) XON+XOFF AUTO (電源ON時XON、電源OFF時XOFF出力あり) READY/BUSY RTS (電源ON時XON、電源OFF時XOFF出力無し) XON+XOFF (電源ON時XON、電源OFF時XOFF出力無し) READY/BUSY (電源ON時XON、電源OFF時XOFF出力無し)

BLUETOOTH設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
BLUETOOTH	<ul style="list-style-type: none"> 有効 <u>無効</u>
テストモード	<ul style="list-style-type: none"> <u>しない</u> する
検索設定	<ul style="list-style-type: none"> <u>検索可能</u> 検索不可 60秒
セキュリティレベル	<ul style="list-style-type: none"> <u>SSP</u> LINK OFF
接続間隔	18 ~ 4096秒 (初期値: 2048)
接続ウィンドウ	18 ~ 4096秒 (初期値: 36)
自動再接続	<ul style="list-style-type: none"> <u>無効</u> 有効
SSP認証種別	<ul style="list-style-type: none"> <u>確認しない</u>
	<ul style="list-style-type: none"> 認証キー確認 <ul style="list-style-type: none"> 表示無し 表示のみ 確認あり

RFID設定

オプションのRFIDモジュールを装着したとき、RFIDタグを発行するための設定をします。

注意

- 使用するタグ（IC、インレイ形状/サイズ）性能、温度・湿度のほか、外部要因（ノイズ）等、すべての使用環境・条件において100%のエンコードを保証することはできません。必ず実際に使用する環境での事前確認を実施してください。エンコードに失敗した場合、横線が印字されます。
- RFID発行において、50 mm以上のバックフィードを伴う動作は、紙送りエラーやリボンエラーの原因となる可能性があり、保証外です。書き込み位置への移動距離は50 mm未満になるように設定してください。

RFID設定メニュー一覧

メニュー	サブメニュー	パラメータ
RFID設定	テスト	ID読取り
	モジュール	タイプ
		使用国/地域
		タグ
		チャンネル
	リトライ	再発行時の位置
		リトライ枚数
		読取りリトライ
		書込みリトライ
	UHF設定	出力レベル
		Q値
		タグ性能判定
		書込み性能しきい値
		書込み性能下限
		測定モード
		測定位置
	その他	タグ検査
		マルチワード書込
	電波環境チェック	

RFID設定操作例

1 [システムモード] 画面を表示します。

☞ P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [RFID] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

システムモード	V1.0
▲<5>RAMクリア	
<6>INTERFACE	
■<7>RFID設定 [BV410T]	
▼<10>工場出荷調整用	

3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



□ テスト

ID読み取り試験モードへ移行し、RFIDタグのデータを読み取ります。

1 [システムモード] 画面を表示します。

📖 P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [RFID設定] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

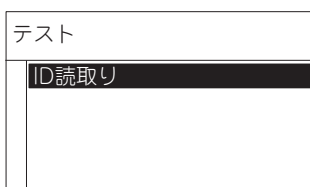


3 RFIDタグをプリンタにセットします。

4 [テスト] を選択し、[PAUSE] キーを押します。



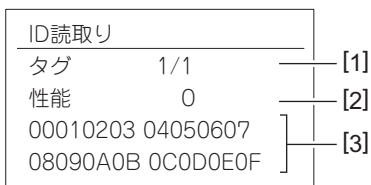
5 [ID読み取り] を選択し、[PAUSE] キーを押します。



6 読み取ったデータを表示します。

以降、[PAUSE] キーを押すたびに読み取り試験を行い、読み取ったデータを表示します。

表示例：



1. 何枚目のタグの読み取り結果が読み取ったタグの枚数
2. 性能（AGC）（10進数）
3. 読み取ったRFIDタグのEPCエリアのEPCコード（16進数、16桁×2行）

エラーメッセージ

読み取れなかった場合は、エラーメッセージを表示します。

エラーメッセージ	エラー内容
モジュールタイプ エラー	モジュール設定無し、または通信不可。
使用国／地域設定 エラー	使用国／地域設定無し。
読み取りなし RFID設定からベルを確認して下さい。	読み取ったタグのタイプが設定と異なる。
キャリアセンス未対応	利用不可。
RFID通信エラー	応答無し。
読み取りなし タグをセットして下さい。	タイムアウトした。
その他のエラー	その他のエラーが発生した。

補 足

- 読み取りテストを行う前に、使用するRFIDタグ種別を設定してください。
RFIDタグタイプ設定で指定した種別のタグが読み取り対象となります。読み取りを行うタグの種別とRFIDタグタイプ設定のタグ種別が一致しない場合、RFIDタグの読み取りはエラーになります。
- 16バイト以上のデータを読み取った場合は、先頭の16バイトのみ表示します。また、データ量が16バイト未満の場合、空きスペースは空欄で表示します。
- ICチップの間隔が狭い（ショートピッチ）RFIDタグを一度に複数枚読み取った場合、[FEED] / [RESTART] キーを押すと各タグの読み取りデータを表示します。

□ モジュール

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
タイプ	<ul style="list-style-type: none">• <u>NONE</u> : RFIDモジュール無し• UHF band (U4) : BV704T-RFID-U4-S <p>補 足 モジュール設定の変更は、電源をOFF/ON後に有効となります。</p>
使用国／地域	設定できません。使用しないでください。
タグ	使用するタグタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• <u>NONE</u> (設定無し)• EPC C1 Gen2 <p>補 足 RFIDタグを発行する場合は、[EPC C1 Gen2] を選択してください。</p>

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
チャンネル	<p>RFIDタグへの書込みをするチャンネルを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>自動</u> • 2CH：921.0 MHz • 3CH：921.2 MHz • 4CH：921.4 MHz • 5CH：921.6 MHz • 6CH：921.8 MHz • 7CH：922.0 MHz • 8CH：922.2 MHz <p>2CH～8CHに設定した場合、選択したチャンネルを固定して使用します。 [自動]に設定した場合は、使用可能なチャンネルを下記の順で検索し、使用可能であればそのチャンネルで電波を設定します。 2CH → 8CH → 6CH → 4CH → 3CH → 7CH → 5CH → 2CH</p>

リトライ

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
再発行時の位置	<p>RFIDタグへの書込みが失敗した場合、ここで設定した距離だけ正転/逆転フィードを行い、その後RFID書込みの再試行（リトライ）を行います。 -3 mm以下または+3 mm以上に設定されている場合のみ有効となります。 -99 mm ~ +99 mm（1 mm単位。初期値：<u>0 mm</u>）</p> <p>補 足 -：正転、+：逆転</p>
リトライ枚数	<p>RFIDタグへの書込みが失敗したときに再試行する枚数を設定します。 書込みを失敗したラベルにエラーパターン（横線）を印字した後、ここで設定した枚数分再試行を行います。それでも成功しなかったときは、RFID書込みエラーとなり本機は停止します。 <u>0</u> ~ 255（枚）（初期値：<u>3枚</u>）</p>

サブメニュー	パラメータ/機能/用途	
読取りリトライ	• 読取りリトライ回数	RFIDタグの読取りを行うときに再試行する回数を設定します。 RFIDタグにデータを書き込む場合にもまず読取りを行います。このときのリトライ回数も、ここで設定したパラメータを使用します。 0 ~ 255 (回) (初期値: 5回) 補足 この回数分のリトライが完了するよりも先に読取りリトライの制限時間が経過してしまった場合は、その時点でリトライを終了します。
	• 読取りリトライ時間	RFIDタグへの書き込みが失敗したときに再試行する制限時間を設定します。 RFIDタグにデータを書き込む場合にもまず読取りを行います。このときのリトライ時間も、ここで設定したパラメータを使用します。 0.0 ~ 9.9 (秒) (0.1秒単位。初期値: 4.0秒) 補足 この制限時間よりも先に、設定した読取りリトライ回数分再試行を行った場合は、その時点でリトライを終了します。
書き込みリトライ	• 書き込みリトライ回数	RFIDタグの書き込みを行うときに再試行する回数を設定します。 0 ~ 255 (回) (初期値: 5回) 補足 この回数分のリトライが完了するよりも先に書き込みリトライの制限時間が経過してしまった場合は、その時点でリトライを終了します。
	• 書き込みリトライ時間	RFIDタグへの書き込みが失敗したときに再試行する制限時間を設定します。 0.0 ~ 9.9 (秒) (0.1秒単位。初期値: 2.0秒) 補足 この制限時間よりも先に、設定した書き込みリトライ回数分再試行を行った場合は、その時点でリトライを終了します。

UHF設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。


サブメニュー	パラメータ/機能/用途
出力レベル	UHF band (U4) 選択時に、無線出力レベルを設定します。 0 ~ 18 (初期値: 18) 補足 出力の適正値は、使用するRFIDタグにより異なります。通常、この設定を変える必要はありませんが、タグ種別によってこの値を変えることにより、読み書き率が向上する場合があります。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
Q値	<p>通常、この設定を初期値から変更する必要はありませんが、本機内部で複数読めてしまうRFIDタグを使用する場合、Q値が0になっているとお互いのタグが干渉し、書き込めない状態となります。このようなときは、Q値を1以上に設定してください。(推奨値=2)</p> <p>0～15 (1刻み) (初期値：0)</p> <p>補足</p> <p>アンテナの真上にあるRFIDタグを選択して書き込みができるように、書き込み性能しきい値および書き込み性能下限値を設定してください。</p>
タグ性能判定 (AGCスレッシュホールド設定)	<p>RFIDタグの利得を取得し、その利得値が設定したAGCスレッシュホールドより低い場合、たとえRFIDタグへの書き込みが成立しても、そのRFIDタグをエラータグとして処理します。</p> <p>0～15 (1刻み) (初期値：0)</p> <p>補足</p> <p>0に設定した場合は、すべてのRFIDタグに書き込み可能です。たとえば8に設定した場合、利得が7以下のRFIDタグはエラーとし、8以上のRFIDタグにのみ書き込みが可能となります。また、適正なAGCスレッシュホールド設定値は、RFIDタグの種類により異なります。</p>
書き込み性能しきい値	<p>通常、この設定を初期値から変更する必要はありませんが、本機内部で複数読めてしまうRFIDタグを使用する場合、Q値を1以上に設定すると共に、このパラメータで書き込み前判定用のしきい値を設定します。本機は、ここで設定したしきい値より小さい利得値のRFIDタグに対する書き込み処理は行いません。このパラメータでしきい値を設定すると、利得値の高いRFIDタグ (=アンテナ上またはアンテナに近いRFIDタグ) への書き込みができます。たとえば、アンテナ上のRFIDタグの利得値が14で、アンテナ上に無いRFIDタグの利得値が7のとき、しきい値を11に設定する (8～14の間の数値を設定) と、アンテナ上のRFIDタグには書き込みを行いますが、アンテナ上に無いRFIDタグには書き込みを行いません。この値を0に設定すると、RFIDタグの利得値にかかわらず書き込み処理を実行します。</p> <p>0～15 (1刻み) (初期値：0)</p> <p>補足</p> <p>このパラメータとタグ性能判定 (AGCスレッシュホールド設定) パラメータとの違いは、タグ性能判定が書き込みを行った後にRFIDタグの利得値を評価するのに対し、書き込み性能しきい値設定は、まずRFIDタグを検出した時点で利得値を評価し、設定を超えなかった場合は書き込み処理自体を実施しないことです。</p>

サブメニュー	パラメータ/機能/用途	
書込み性能下限	<p>通常、この設定を初期値から変更する必要はありませんが、本機内部で複数読めてしまうRFIDタグを使用する場合で、書込み性能しきい値を使用するときに設定します。</p> <p>本機は、書込み性能しきい値設定より高い利得値を持つRFIDタグを検出できなかったとき、再度ここで指定した下限値以上のRFIDタグを検出し、その中で一番高い利得値を持つRFIDタグの利得値を新たなしきい値として使用し、書込み処理のリトライを行います。</p> <p>0 ~ 15 (初期値：0)</p> <p>たとえば、書込みしきい値設定が11、書込み性能下限設定が9で、検出できたRFIDタグの利得値が10だった場合、一度目の書込み処理で検出できた利得値が書込みしきい値（11）以上でないため書込みができませんが、書込み性能下限設定（9）よりも利得値の方が大きいため、書込みしきい値を10として書込みリトライを実行します。</p> <p>利得値は毎回同じとは限りませんが、リトライ時の利得値が10以上のときは、書込みOKとなります。</p> <p>書込みしきい値設定が11、書込み性能下限設定が9で、検出できたRFIDタグの利得値が8だった場合、一度目の書込み処理で検出できた利得値が書込みしきい値（11）以上でないため書込みができません。さらに、書込み性能下限設定（9）よりも利得値の方が小さいため、9を新たなしきい値として再度書込みのリトライを実行します。</p> <p>利得値は毎回同じとは限りませんが、リトライ時の利得値が8以下のときは、書込みNGとなります。</p> <p>書込みしきい値設定と書込み性能下限設定を同じ値に設定すると、同じ書込みしきい値でリトライを続けることとなります。</p> <p>適正な設定値は、RFIDタグの種類により異なります。</p>	
測定モード	<ul style="list-style-type: none"> • 無効： • 有効： 	<p>[有効] を選択した場合、[測定位置] パラメータで設定された量のフィードを行ってからRFIDタグへの書込み/読取りを実行します。また、フィード量微調値が設定されている場合は、フィード量にその値が反映されます。</p> <p>[無効] を選択した場合、プリンタコマンド@003で指定された量のフィードを行ってからRFIDタグへの書込み/読取りを実行します。</p>
測定位置	<p>[測定モード] パラメータで [有効] を選択した場合のみ、この設定が有効になります。</p> <p>RFIDタグへの最適な書込み/読取り位置へ移動する量を指定します。フィード量微調値が設定されていない状態で測定したときのフィード量を設定します。</p> <p>-99 mm ~ +99 mm (0.1 mm単位。初期値：000.0 mm)</p> <p>補 足</p> <p>-：正転、+：逆転</p>	

□ その他


各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途
タグ検査	<p>RFIDタグ書込み前のエラータグ検出機能の有無を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>無効</u>： エラータグ検出無効。タグ書込み前にタグの読み取り確認を行いますが、その先頭のデータに関係なく書込みを行います。 • 有効 (ID)： エラータグ検出有効。タグ書込み前にタグを読み取り (GEN2タグの場合はEPCエリア)、その先頭のデータが「A5A5」になっている場合のみ書込みを行います。 • 有効 (パスワード)： エラータグ検出有効。GEN2タグの場合のみ有効です。タグ書込み前にタグのアクセスパスワードエリアを読み取り、そのデータが設定されたアクセスパスワードのデータと一致する場合のみ書込みを行います。 <p style="text-align: center;">補 足</p> <p>詳細は、以下を参照してください。  P.138 「RFIDエラータグ検出設定保護パスワードの設定」</p>
マルチワード書込	<p>[無効] にすると、データを1ワード (2バイト) 単位でRFIDタグへ書き込みます。 [有効] にすると、2ワード (4バイト) 単位で書き込むためデータ書込み時間が短縮されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>無効</u>： 機能無し • 有効 (ID)： 機能あり <p style="text-align: center;">補 足</p> <p>ご使用のRFIDタグがマルチワード書込み (ブロックライト) に対応していない場合は、[無効] を選択してください。</p>

RFIDエラータグ検出設定保護パスワードの設定

タグ検査設定を誤って変更しないように、RFIDエラータグ検出設定保護パスワードを設定できます。
[タグ検査設定] パラメータを [有効 (パスワード)] に設定している場合、保護パスワード入力画面が表示されます。

- 1 デフォルトのパスワード「0000」、または設定した4桁のパスワードを入力し、[PAUSE] キーを押します。



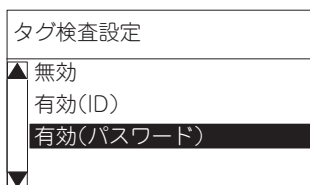
保護パスワード入力

0 0 0 0

補足

保護パスワードが正しくない場合、エラーメッセージを表示して上位画面に戻ります。
保護パスワードが正しい場合、タグ検査設定画面を表示します。

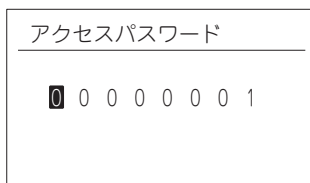
- 2 [有効 (パスワード)] を選択し、[PAUSE] キーを押します。
[無効] または [有効 (ID)] 選択時は、保護パスワード設定を無効にして上位画面に戻ります。



タグ検査設定

▲ 無効
有効(ID)
有効(パスワード)
▼

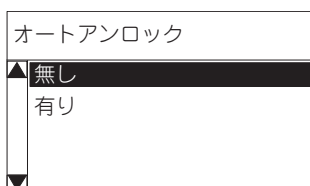
- 3 8桁のアクセスパスワードを入力し、[PAUSE] キーを押します。



アクセスパスワード

0 0 0 0 0 0 0 1

- 4 オートアンロック機能の有無を選択し、[PAUSE] キーを押します。

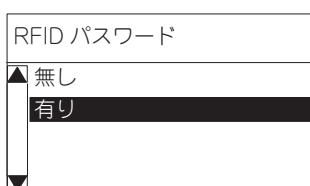


オートアンロック

▲ 無し
有り
▼

- 5 保護パスワードの設定有無を選択し、[PAUSE] キーを押します。

- ・ 無し：メニューを終了し、上位画面に移動します。
- ・ 有り：保護パスワード入力画面を表示します。



RFID パスワード

▲ 無し
有り
▼

6 4桁の保護パスワードを設定し、[PAUSE] キーを押します。

メニューを終了し、上位画面に戻ります。



補足

ここで設定したパスワードは、次回からタグ検査設定パラメータにアクセスするために必要です。忘れないように必要に応じて記録しておいてください。

□ 電波環境チェック

サブメニュー	パラメータ/機能/用途															
電波環境チェック	<p>キャリアセンスモードに移行し、電波環境のチェックを行います。実行してから5秒間に周囲の電波を各チャンネルごとに約30回取得します。</p> <p>表示例：</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="3">電波環境チェック</th> </tr> <tr> <th>CH</th> <th>空き割合</th> <th>強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>0%</td> <td>0000</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0%</td> <td>0000</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0%</td> <td>0000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">[1] [2] [3]</p> <ol style="list-style-type: none"> 取得したチャンネル番号 約30回のキャリアセンスのうち、該当チャンネルが使用可能であると判定された確率。100%のときは、そのチャンネルを使用している他のデバイスが存在しないことを示します。 電波強度。この数字が大きいほど、近くに強力な発信源が存在することを示します。 <ul style="list-style-type: none"> [FEED] / [RESTART] キーで画面スクロールし、1CH ~ 8CHの情報が表示されます。 [PAUSE] キーを押すと再度電波環境チェック処理を実行します。 [FEED] キーと [PAUSE] キーを同時に押すと終了します。 	電波環境チェック			CH	空き割合	強度	2	0%	0000	3	0%	0000	4	0%	0000
電波環境チェック																
CH	空き割合	強度														
2	0%	0000														
3	0%	0000														
4	0%	0000														

■ LCD表示設定

液晶表示器 (LCD) に表示する言語や [オンライン] 画面の表示項目およびコントラストを設定します。

□ LCD表示設定メニュー一覧

メニュー	サブメニュー
LCD表示設定	LCD言語
	LCD表示項目
	コントラスト調整

□ LCD表示設定操作例

1 [システムモード] 画面を表示します。

📖 P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [LCD表示設定] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

システムモード	V1.0
▲	<11>BASIC設定
	<12>XML
■	<13>LCD表示設定
▼	<14>パスワード設定

3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。

<13>LCD 表示設定
▲
LCD言語
LCD表示項目
コントラスト調整
▼

□ LCD表示の設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。

サブメニュー	パラメータ/機能/用途						
LCD言語	<ul style="list-style-type: none"> • 英語 • ドイツ語 • フランス語 • オランダ語 • スペイン語 • <u>日本語</u> • イタリア語 • ポルトガル語 • 中国語 • 韓国語 • トルコ語 • ポーランド語 • ロシア語 • チェコ語 						
LCD表示項目	以下の項目の、LCD表示/非表示を選択します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">• 機種名</td> <td style="width: 50%;">• 非表示 • <u>表示</u></td> </tr> <tr> <td>• 印刷枚数</td> <td>• 非表示 • <u>表示</u></td> </tr> <tr> <td>• IPアドレス</td> <td>• 非表示 • <u>表示</u></td> </tr> </table>	• 機種名	• 非表示 • <u>表示</u>	• 印刷枚数	• 非表示 • <u>表示</u>	• IPアドレス	• 非表示 • <u>表示</u>
• 機種名	• 非表示 • <u>表示</u>						
• 印刷枚数	• 非表示 • <u>表示</u>						
• IPアドレス	• 非表示 • <u>表示</u>						
コントラスト調整	24 ~ 50 (2刻み) (初期値: 40) 数値が小さいとコントラストが低くなり、大きいと高くなります。						

■ パスワード設定

システムモードとユーザーモードにアクセスするためのシステムパスワードを設定できます。システムパスワードを有効にすると、次回システムモードとユーザーモード起動時にパスワード入力画面を表示します。

□ パスワード設定操作例

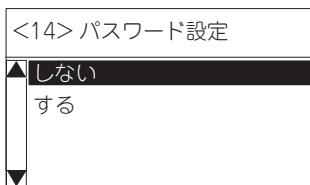
1 [システムモード] 画面を表示します。

P.94 「システムモードへの移行方法」

2 [パスワード設定] メニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



3 サブメニューを選択し、[PAUSE] キーを押します。



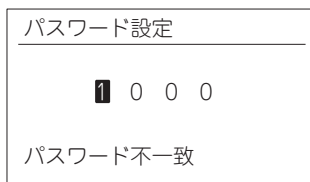
□ パスワードの設定

各パラメータの初期値には下線が付いています。

メニュー	サブメニュー	パラメータ
パスワード設定	・ <u>しない</u>	
	・ する	<p>システムモードとユーザーモード起動時のパスワードを設定します。 [する] を選択すると、[パスワード設定] 画面が表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">パスワードエラー 電源を入れなおしてください</p> <p style="text-align: center;">ヘルプ [P]</p> </div> <p>入力範囲：0000 ～ FFFF（初期値：1234） 4桁のパスワードをひと桁ずつ16進数で入力します。 [FEED] / [RESTART] キーで値を設定し、[PAUSE] キーで桁を移動します。</p>

注意

- 間違ったパスワードを入力した場合：
画面に「パスワード不一致」と表示されます。



-
- 3回連続して間違ったパスワードを入力した場合：
プリンタがロックします。電源を入れなおしてください。

パスワード設定
1 0 0 0

日常のお手入れ

本機の清掃	144
カバー	144
印字ヘッド	145
用紙検出センサー	145
プラテン	146
用紙収納部	146
カッター (オプション)	147
剥離モジュール (オプション)	147

本機の清掃

いつもきれいな印字が得られるように、定期的（用紙交換ごと）に本機の清掃を行ってください。特に印字ヘッドやプラテンには汚れが付きやすいので、以下の手順で清掃してください。

⚠ 警告

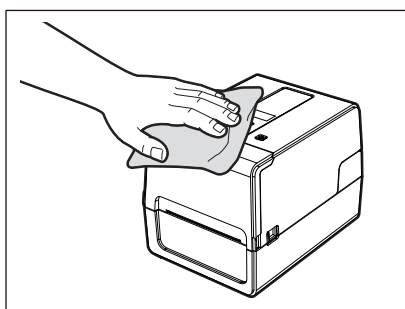
水を直接かけたり、多量に水分を含んだ布で清掃しないこと
内部に水が入ると、火災・感電の恐れがあります。

⚠ 注意

- 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜くこと
電源がONの状態ですら清掃すると、火災・感電の原因となることがあります。
- シンナーやベンジン、可燃性ガスを使用したクリーナーなどで本機を清掃しないこと
火災の原因となることがあります。
- 印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。

■ カバー

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 カバーの汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。
特に汚れが目立つ部分は、少量の水を含ませた柔らかい布で拭き取ります。



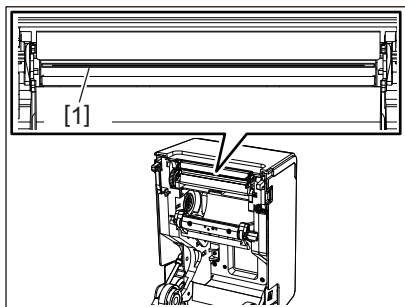
注意

シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。カバーの変色やプラスチック部品の破損の原因となります。

■ 印字ヘッド

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 トップカバーを開きます。
- 3 印字ヘッド（網掛け部分）の汚れを清掃します。

印字ヘッドの発熱部 [1]（網掛け部分）の汚れは、別売りのヘッドクリーナーペン、市販の綿棒または少量の無水エタノールを含ませた柔らかい布で拭き取ります。



補足

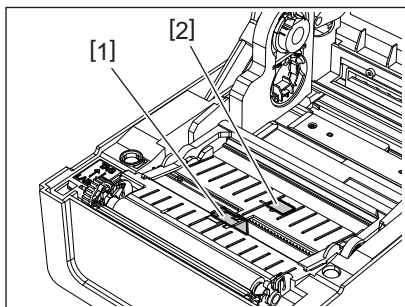
別売りのヘッドクリーナーペンはお買い上げの販売店へご注文ください。
 P.173 「保障とアフターサービス（必ずお読みください）」

注意

- 印字ヘッドを鋭利なもので傷つけないでください。印字不良や故障の原因となります。
- 印字ヘッドの発熱部に直接手を触れないでください。静電気による破損や腐食の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。印字不良や故障の原因となります。

■ 用紙検出センサー

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 トップカバーを開き、用紙を取り出します。
- 3 少量の無水エタノールを含ませた柔らかい布または綿棒で反射センサー [1] を拭きます。紙粉やほこりは乾いた柔らかい布で拭き取ります。



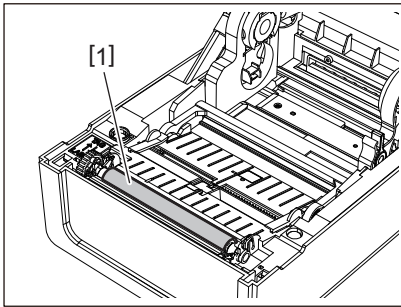
- 4 透過センサー（下）[2] の紙粉やほこりは、市販の清掃ハケで取り除きます。

注意

- センサーを鋭利なもので傷つけないでください。印字不良や故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。印字不良や故障の原因となります。

■ プラテン

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 トップカバーを全開にします。
- 3 プラテン [1] の汚れは、少量の無水エタノールを含ませた柔らかい布で拭き取ってください。清掃は、用紙1巻ごとに実施してください。

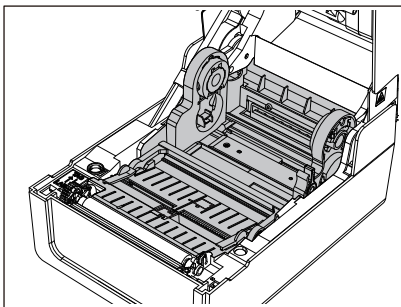


注意

- プラテンを鋭利なもので傷つけないでください。印字不良や故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。印字不良や故障の原因となります。

■ 用紙収納部

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 トップカバーを開き、用紙を取り出します。
- 3 用紙収納部の紙粉やほこりは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。汚れが落ちない場合は、水で薄めた中性洗剤で湿らせた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。清掃後は、水で濡らして固く絞った布で中性洗剤を完全に拭き取ってください。清掃は、用紙1巻ごとに実施してください。



注意

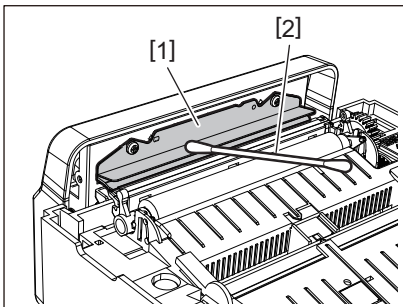
シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。用紙収納部の変色・変質の原因となります。

■ カッター（オプション）

⚠ 注意

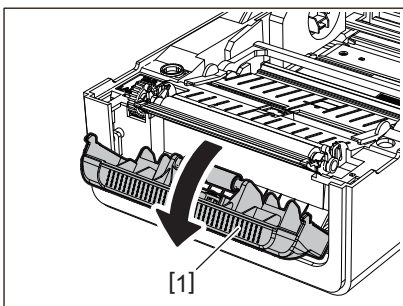
カッターの刃に直接触れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 トップカバーを開き、用紙を取り出します。
- 3 カッターガイド [1] を、無水エタノールで湿らせた柔らかい布または綿棒 [2] で拭きます。

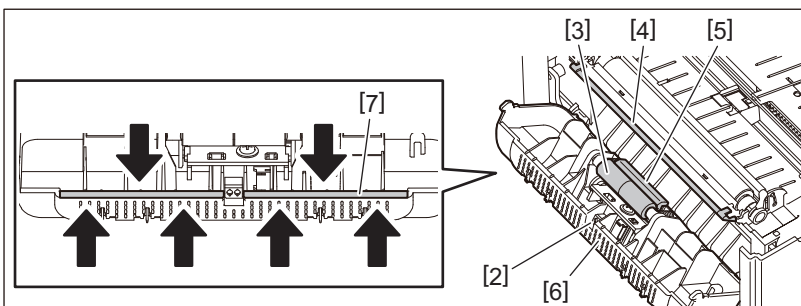


■ 剥離モジュール（オプション）

- 1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 トップカバーを開き、剥離ユニット [1] を開けます。



- 3 剥離センサー [2] や用紙排出口周辺のほこりや汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。
- 4 剥離フィードローラー [3] の汚れ、剥離板 [4]、ローラー下の可動部品の表面 [5]、剥離ユニットの天面 [6] やふち [7] に付いた糊は、無水エタノールで湿らせた柔らかい布で拭き取ります。



注意

- 剥離フィードローラーや剥離センサーを鋭利なもので傷つけないでください。発行不良や故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃は、用紙1巻ごとに実施してください。

困ったときは

困ったときは.....	150
エラーメッセージ (BV410T).....	150
正しく動作しないとき.....	155
用紙がつまったとき.....	157
リボンが途中で切れたとき.....	159
リボンの巻きが乱れたとき.....	160

困ったときは

ご使用中に不具合が生じたときは、次の点を調べてください。
万一、本機の機能が回復しない場合は、電源スイッチをOFFにしてコンセントから電源プラグを抜き、お買い上げの販売店またはサービス担当にご相談ください。

■ エラーメッセージ (BV410T)

エラーメッセージが表示されたときは、その内容に従って処置してください。
エラー原因に対する処置を行ってから [RESTART] キーを押すと、エラーは解除されます

表示	原因	処理
紙送りエラー	用紙が正しくセットされていない。	用紙を正しくセットしてください。 ☞ P.33 「用紙の取り付け」
	発行中に紙づまりが発生した。	つまっている用紙を取り除き、用紙をセットしなおして [RESTART] キーを押してください。 ☞ P.157 「用紙がつまったとき」
	用紙が正しく紙送りされていない。	用紙をセットしなおし、[RESTART] キーを押すと続きが印字されます。 ☞ P.33 「用紙の取り付け」
	プログラムで指定している用紙と違うサイズの用紙をセットしている。	指定しているサイズの用紙をセットし、[RESTART] キーを押してください。
	反射センサーが黒マークを検出していない。	反射センサーの位置調整を行ってください。 ☞ P.55 「反射センサー（可動）の位置調整」 位置が正しいときは、センサーレベルの調整またはスレッシュホールドの設定を行ってください。 ☞ P.113 「センサー」 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
	透過センサーがラベル間のすき間を検出していない。	センサーレベルの調整またはスレッシュホールドの設定を行ってください。 ☞ P.113 「センサー」 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
	プログラムのセンサー指定と違う種類の用紙をセットしている。	指定しているセンサーに適した用紙をセットし、[RESTART] キーを押してください。
	サイズやセンサー指定の異なる用紙をセットして、[FEED] キーを操作した。	指定しているサイズやセンサーに適した用紙をセットし、[RESTART] キーを押してください。
	黒マークとラベル間ギャップの両方がある用紙を使用し、自動用紙測定を、[用紙測定] の設定が [有効 両方] または [有効 両方+逆転] で行った。	黒マークとラベル間ギャップの両方がある用紙を使用して自動用紙測定を行う場合は、[用紙測定] の設定を、[有効 反射] または [有効 透過+逆転] のいずれかに指定してください。 ☞ P.72 「パラメータ設定操作」

表示	原因	処理
紙がありません	用紙を使い切った。	新しい用紙をセットし、[RESTART]キーを押すと、続きから印字されます。 📖 P.33 「用紙の取り付け」
	用紙がセットされていない。	用紙を正しくセットしてください。 📖 P.33 「用紙の取り付け」
	用紙検出センサーの検出レベルが用紙と合っていない。	使用する用紙を使ってセンサー調整を行ってください。 📖 P.113 「センサー」
リボンエラー	リボンが正しくセットされていない。	リボンを正しくセットしてください。 📖 P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」
	リボンが弛んでいる。	リボンスプーラーを上方向に回して、リボンの弛みを取ってください。 📖 P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」
	リボンが途中で切れた。	リボンを貼り合わせるか、新しいリボンに交換してください。 📖 P.159 「リボンが途中で切れたとき」 📖 P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」
	リボンが終了した。	新しいリボンをセットし、[RESTART]キーを押すと続きが印字されます。 📖 P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」
	リボンが内部でつまった。	リボンをセットしなおし、[RESTART]キーを押すと続きが印字されます。 📖 P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」
	リボン駆動部のセンサーが故障している。	電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
ヘッドオープン	発行または紙送り中に、トップカバーやリボンカバーが開いた。	トップカバーやリボンカバーを確実に閉めてください。
サーマルヘッドエラー	印字ヘッドに断線エラーが発生した。または、印字ヘッドドライバにエラーが発生した。	電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
ヘッド異常加熱	印字ヘッドの温度が上がりすぎた。	電源スイッチをOFFにし、温度が下がるまでしばらくお待ちください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
通信エラー	RS-232C通信中に、パリティエラーやフレーミングエラーが発生した。	接続しているコンピュータ側とプリンタ側の通信設定を合わせてください。
メモリ書込みエラー	登録用メモリ（USBメモリ、CPUボード上のフラッシュROM）への書込みエラーが発生した。	電源スイッチをOFF/ONし、再度書込みを行ってください。 登録するコマンドの内容を確認してください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。

表示	原因	処理
フォーマットエラー	登録用メモリ（USBメモリ、CPUボード上のフラッシュROM）のフォーマットにエラーが発生した。	電源スイッチをOFF/ONし、再度フォーマットを行ってください。 登録するコマンドの内容を確認してください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
メモリアーバー	登録用メモリ（USBメモリ、CPUボード上のフラッシュROM）の空き容量不足のため、登録できない。	電源スイッチをOFF/ONしてください。 メモリの空き容量と、登録するデータ容量を確認してください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
パスワードエラー	パスワードの入力を3回連続で間違えた。	電源スイッチをOFF/ONしてください。
電源異常	瞬時停電が発生した。	電源スイッチをOFF/ONしてください。
カッターエラー	カッター部で紙づまりが発生した。	つまっている用紙を取り除き、用紙をセットしなおして [RESTART] キーを押すと続きから印字されます。 ☞ P.157 「用紙がつまったとき」
	カッターモジュールカバーが開いている。	カッターモジュールカバーを確実に閉めてください。
	カッターの故障により、カッターがホームポジションから動かない。	サービス担当に連絡してください。
内部シリアルエラー	内部シリアルインターフェースでハードエラーが発生した。	電源スイッチをOFF/ONしてください。
システムエラー ## (##：2桁の数字)	以下のような動作が行われた。 <ul style="list-style-type: none"> • 奇数アドレスからの命令フェッチ • ワードデータにワードデータ境界以外からアクセス • ロングワードデータにロングワードデータ境界以外からアクセス • ユーザーモードで論理空間の80000000H～FFFFFFFFHの領域にアクセス • 遅延スロット内/外にある未定義命令をデコード • 遅延スロット内を書き換える命令をデコード 	電源スイッチをOFF/ONしてください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。
コマンドエラー	最大42文字の英数記号が表示されたときは、コマンドエラーが発生している。	電源スイッチをOFF/ONしてから、正しいコマンドを送りなおしてください。 ☞ P.154 「コマンドエラー」
RFIDエラー	RFIDモジュールとの通信ができない。	電源スイッチをOFF/ONしてください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。

表示	原因	処理
RFID書込みエラー	RFID書込みに一定回数連続して失敗した。	<p>[RESTART] キーを押すと、次のラベルのRFID書込みを行います。 再発する場合は、電源をOFFして次の確認・調査を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RFIDタグと本機のRFIDアンテナの位置関係を確認し、書込みできない位置にある場合、発行ソフトウェア側にてRFID発行前書込みフィード量設定コマンドを使用して調整してください。 • RFIDキットが対応しているRFIDタグを使用していることを確認してください。 • RFID書込みリトライ回数/時間を増やしてください。 • RFID書込みリトライ位置微調値を±3 mm以上に設定し、リトライを有効にしてください。 • RFIDラベルを交換してください。 <p>上記を行ってもエラーになる場合は、RFIDモジュールの故障の可能性があります。電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。</p>
その他のエラーメッセージ	ハードウェアまたはソフトウェアに不具合が発生している。	電源スイッチをOFF/ONしてください。 再発する場合は電源をOFFにし、サービス担当に連絡してください。

□ コマンドエラー

コンピュータから送られたコマンドにエラーがあった場合、エラーのあったコマンドのコマンドコードから42バイト分を3～4行目に表示します。ただし、[LF]、[NUL] および42バイトを超えた部分は表示しません。

コマンドエラー表示例

```
(残枚数) 0
コマンドエラー
{D1544,1042,1524}{C
I}{PC000;0025,B=AC
^ルア▶
```

例1:

```
コマンドエラー
PC001;0A00,0300,2,2,A
,00,B
```

```
[ESC]PC001;0A00,0300,2,2,A,00,B[LF][NUL]
└── [1]
```

1. コマンドエラー

例2:

```
コマンドエラー
T20G30
```

```
[ESC]T20G30[LF][NUL]
└── [1]
```

1. コマンドエラー

例3:

```
コマンドエラー
PC002;0100,0300,15,15,
A,00,00,J0101,+00000
```

```
[ESC]PC002;0100,0300,15,15,A,00,00,J0101,+000000000A,Z10,P1[LF][NUL]
└── [1]
```

1. コマンドエラー

補足

コマンドエラーを表示するとき、20H～7FH、A0H～DFH以外のコードは“?”(3FH)として表示します。

■ 正しく動作しないとき

現象	原因	処理
電源をONにしても電源が入らない。	ACアダプタが本機から抜けている。	ACアダプタを電源ジャックに確実に差し込んでください。 ☞ P.19 「ACアダプタ/電源コードを接続する」
	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに根元まで確実に差し込んでください。 ☞ P.19 「ACアダプタ/電源コードを接続する」
	停電またはコンセントまで電気が来ていない。	他の電気器具で電気が来ているか確認してください。電気が来ていない場合は、最寄りの電力会社にご相談ください。
	建物のヒューズやブレーカーが切れている。	ヒューズやブレーカーを点検してください。
用紙が発行されない。	用紙が正しくセットされていない。	用紙を正しくセットしてください。 ☞ P.33 「用紙の取り付け」
	トップカバーが確実に閉まっていない。	トップカバーを確実に閉めてください。
	通信ケーブルが抜けている。	本機側およびコンピュータ側の接続状態を確認し、通信ケーブルを確実に接続してください。 ☞ P.21 「コンピュータと接続する」
	用紙検出センサーが汚れている。	用紙検出センサーを清掃してください。 ☞ P.145 「用紙検出センサー」
用紙に印字されない。	感熱印字方式を選択しているのに、感熱用紙がセットされていない。	感熱用紙をセットしてください。 ☞ P.33 「用紙の取り付け」
	用紙が正しくセットされていない。	用紙を正しくセットしてください。 ☞ P.33 「用紙の取り付け」
	コンピュータから印字データが送られていない。	印字データを送信してください。
印字がかすれる。	当社認定の用紙を使用していない。	当社認定の用紙に交換してください。 ☞ P.166 「用紙の仕様」
	印字ヘッドが汚れている。	印字ヘッドを清掃してください。 ☞ P.145 「印字ヘッド」
	印字ヘッドの濃度設定が低い。	濃度微調パラメータで濃度を高く設定してください。 ☞ P.72 「パラメータ設定操作」
	印字内容によっては、印字速度が速すぎる。	罫線印字・反転文字を最高速度で印字した場合にかすれる場合は、印字速度を落としてください。 ☞ P.89 「発行制御設定」
	トップカバーを閉めたまま本機を長期間使用しなかったため、印字ヘッドとプラテンに挟まれた箇所の用紙が変形した。	週末、長期休暇等で長時間使用しない場合はトップカバーを開放してください。

現象	原因	処理
印字が欠ける。	印字ヘッドが汚れている。	印字ヘッドを清掃してください。 ☞ P.145 「印字ヘッド」
	印字ヘッドの発熱体の一部が断線している。	電源をOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いて、サービス担当に連絡してください。
	印字率・印字濃度が高いときに、用紙が印字ヘッドに貼り付いた。	印字条件を変更することで、貼り付きを抑えることができます。 <ul style="list-style-type: none"> 一度に印字するドット数を減らす。 印字濃度をマイナス微調する。 印字速度設定を速くする。
印字が伸び縮みする。	内巻きロール紙、外置き用紙ホルダーを使用したロール紙またはファンフォールド紙に、用紙ダンパー（下）がロックされた状態で印字している。	用紙ダンパー（下）のロックを解除してください。 ☞ P.34 「用紙の取り付け手順」
印字したシリアルバーコード（ラダーバーコード）、2次元バーコードの読み取りが悪い。	印字条件によっては、印字品質が低下し、読み取りが悪くなる場合がある。	印字条件を変更することで、印字品質を向上できます。 <ul style="list-style-type: none"> 印字濃度を下げる。 印字速度設定を遅くする。 セルサイズ（モジュールサイズ）を大きくする。 印字開始位置から10 mm以上離れた位置にバーコードを配置する。
リボンのカスが付く。	シリアルバーコード等、部分的に印字率の高い印字が連続したときに、印字ヘッドの蓄熱によって用紙にリボンのカスが付いた。	印字条件を変更することで、リボンのカスの付着を抑えることができます。 <ul style="list-style-type: none"> 印字パターンを変更する。 印字濃度をマイナス微調する。 印字速度設定を遅くする。
用紙発行直後に紙送りエラーが発生する。	トップカバーを閉めたまま本機を長期間使用しなかったため、印字ヘッドとプラテンに挟まれた箇所の用紙が変形した。	長期間使用しない場合はトップカバーを開放してください。
ラベルがはがれない。 （剥離モジュール装着時）	当社認定の用紙を使用していない。	当社認定の用紙に交換してください。 ☞ P.166 「用紙の仕様」
	用紙が正しくセットされていない。	用紙を正しくセットしてください。 ☞ P.33 「用紙の取り付け」
ラベルを取っても次のラベルが発行されない。 （剥離モジュール装着時）	剥離後の台紙が弛んでいる。	[PAUSE] キーを押して発行を一時停止してから、台紙を引っ張って弛みを取り、[RESTART] キーを押して印字を再開してください。 ☞ P.41 「剥離モジュール装着時の用紙取り付け手順」
ラベルの角が折れる。 （剥離モジュール装着時）	特定の条件下で、印字動作中にラベルがはがれやすくなり、ラベルの角が折れた。	用紙ダンパー（下）をロックした状態で使用してください。 ☞ P.34 「用紙の取り付け手順」
きれいにカットされない。 （カッターモジュール装着時）	カッターの刃が汚れている。	カッターの刃を清掃してください。 ☞ P.147 「カッター（オプション）」
	カッターの刃が寿命に達した。	電源をOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いて、サービス担当に連絡してください。

現象	原因	処理
リボンにシワが寄る。	使用するリボンの幅に対し、左右どちらかに印字内容が片寄っている。	トップカバーを開け、リボン巻き取りダイヤルを上方向に回して、シワがなくなる位置までリボンを送ってください。 印字内容が左右どちらかに片寄らないように印字フォーマットの配置を見直してください。
	印字率が高い部分でリボンの収縮が発生した。	プリンタ設定ツールから「高信頼モード」を有効に設定することで、リボンのシワを抑えることができます。ただし、スループットは低下します。
印字動作中に瞬間的に動作が停止後、印刷が再開される。	濃度が高い印字が連続したときに、機体の性能維持のために一時的に動作を停止した。	故障ではありません。そのままお使いください。
印字動作中に数秒間動作が停止後、印刷が再開される。	印字ヘッドの温度が規定値より上がったときに、機体の性能維持のために一時的に動作を停止した。	故障ではありません。そのままお使いください。
無線LAN接続できない。	有線LAN/無線LAN設定が正しく設定されていない。	設定が正しいか確認してください。 ☞ P.127 「有線LAN/無線LAN設定」 それでも問題が解決しない場合は、サービス担当に連絡してください。
	無線LANアクセスポイントに接続できない。	アクセスポイントの設定は、お使いの無線LANアクセスポイントの取扱説明書を確認してください。
電源ON直後に無線LAN通信エラーが発生する。	電源ON直後には無線LANでの通信ができません。	電源ON後、ONLINEランプが点灯して10秒以上経過してから通信を開始してください。

■ 用紙がつまったとき

本機の内部で用紙がつまったときは、次の手順に従って取り除いてください。

⚠ 警告

電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜くこと
電源がONの状態ですら、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

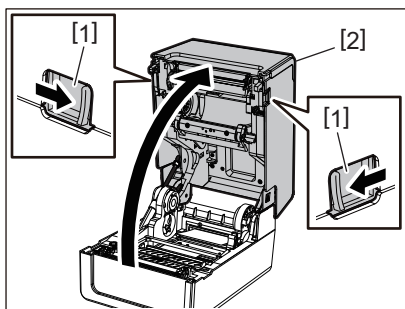
印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。

注意

- 印字ヘッドやプラテンを鋭利なもので傷つけないでください。印字不良や故障の原因になります。
- 印字ヘッドの発熱部に直接手を触れないでください。静電気により、印字ヘッドが破損することがあります。

1 電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜きます。

- 2** 左右のトップカバー開放レバー [1] を矢印の方向に引きながら、トップカバー [2] を全開にします。

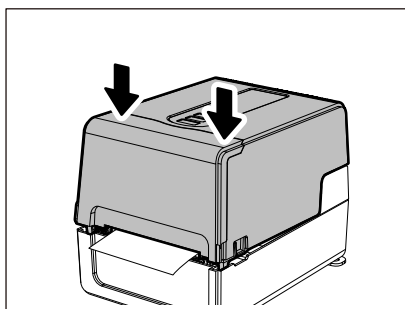


- 3** つまっている用紙を取り除きます。

- 4** 用紙を正しくセットしなおします。

☞ P.33 「用紙の取り付け」

- 5** トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。



- 6** 電源をONにして印字を再開します。

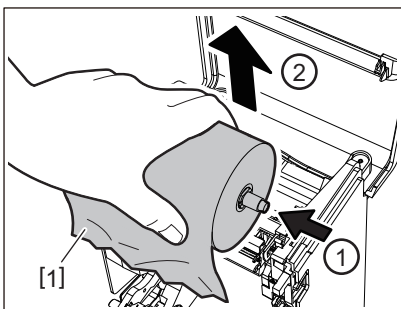
■ リボンが途中で切れたとき

リボンが途中で切れたときは、次の手順で貼り合わせてください。(応急処置)
新しいリボンがあるときは、リボンを交換してください。
☞ P.50 「リボンの取り付け (熱転写方式で印字する場合)」

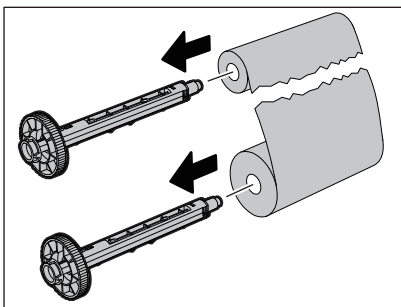
⚠ 注意

- リボンカバーは後方へ倒すように全開にすること
中途半端な状態にしておくとなし、勝手に閉まり、けがの原因となることがあります。
- 印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。

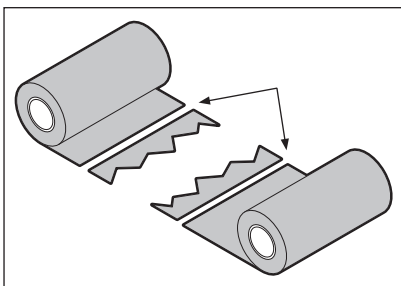
- 1 トップカバーおよびリボンカバーを開け、切れたリボン [1] をリボンスプーラーごと取り外します。



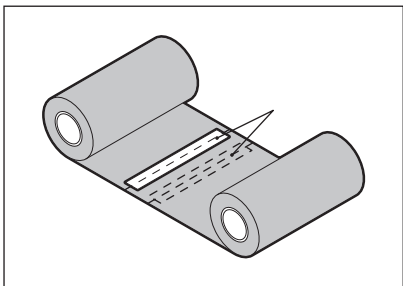
- 2 リボンの紙管からリボンスプーラーを取り外します。



- 3 切れた部分をきれいに切りそろえます。



- 4 左右がずれないようにリボンを重ね合わせ、合わせ目をセロハンテープでしっかり留めます。



- 5 巻き取り側（使用済み側）のロールにリボンを2～3周ほど巻き取ります。

- 6 リボンを正しくセットしなおします。

☞ P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」

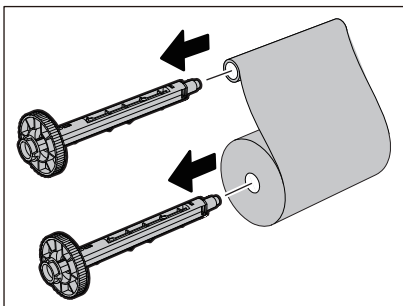
■ リボンの巻きが乱れたとき

リボンの保管状態が悪かったり、リボンのセット時にリボンを落として巻きが乱れたときは、次の手順で巻き戻してください。（応急処置）

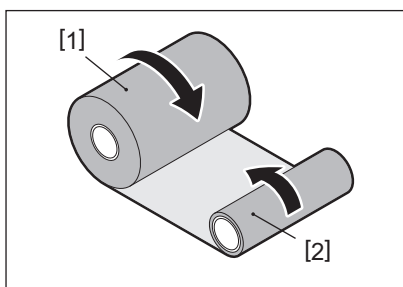
新しいリボンがあるときは、リボンを交換してください。

☞ P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」

- 1 リボンの紙管からリボンスプーラーを取り外します。



- 2 2人で供給側（未使用側）のリボン [1] と巻き取り側（使用済み）のリボン [2] を持ち、リボンを張った状態で左右がずれないように巻き戻します。



注意

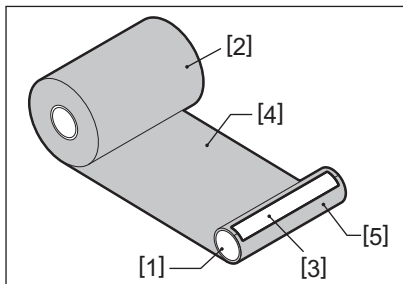
リボンを強く引っ張らないでください。必要以上に強く引っ張ると、リボンが切れます。

- 3 上手に巻き戻せないときは、使用済みのリボンを切断します。

巻き取り側の紙管から使用済みのリボンを取り除きます。

4 巻き取り側の紙管 [1] に供給側（未使用側）のリボン [2] をセロハンテープ [3] でしっかり貼り付けます。

リボンには裏 [4] と表（インク面） [5] がありますので、注意して取り付けてください。



注意

リボンは巻き取り側の紙管 [1] と水平になるよう貼り付けてください。斜めに貼り付けると、リボンにシワが発生する原因となります。

5 巻き取り側の紙管にリボンを2~3周ほど巻き取ります。

6 リボンを正しくセットしなおします。

📖 P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」

付録

仕様	164
本機の仕様.....	164
用紙の仕様.....	166
RFIDタグ紙の仕様.....	168
リボンの仕様.....	171
保障とアフターサービス（必ずお読みください）	173
サービスステーション所在地一覧	175
消耗品の交換方法	176
用紙.....	176
リボン.....	178

仕様

■ 本機の仕様

項目		仕様
型式		BV410T-GS02-S BV410T-TS02-S BV410T-GC02-S BV410T-TC02-S
定格電源		AC100 V±10 % 50/60 Hz (ACアダプタ使用)
電源電圧		DC+24 V 3.6 A (ACアダプタ使用)
消費電力		印字中：65 W (印字率15 %斜線時)、 待機中：3.5 W (オプション無し時)
使用温度範囲		5 ~ 40 °C 10 ~ 40 °C (剥離モジュール使用時)
使用湿度範囲		25 ~ 85 % (ただし、結露しないこと)
印字方式		熱転写方式 (リボン転写) / 感熱方式 (熱直接発色)
印字ヘッド密度		BV410T-GS02-S、BV410T-GC02-S：8ドット/mm (203 dpi) BV410T-TS02-S、BV410T-TC02-S：11.8ドット/mm (300 dpi)
印字速度 *1	203 dpi	連続・カット発行 50.8 mm (2") /秒、76.2 mm (3") /秒、101.6 mm (4") /秒、127 mm (5") /秒、 152.4 mm (6") /秒、177.8 mm (7") /秒 剥離発行 *2 50.8 mm (2") /秒、76.2 mm (3") /秒、101.6 mm (4") /秒
	300 dpi	連続・カット発行 50.8 mm (2") /秒、76.2 mm (3") /秒、101.6 mm (4") /秒、127 mm (5") /秒 剥離発行 *2 50.8 mm (2") /秒、76.2 mm (3") /秒、101.6 mm (4") /秒
発行モード		連続発行/カット発行 (フルカット、パーシャルカット) /剥離発行
LCD		128x64 ドットグラフィックLCD 最大21桁x5行
表示文字種		英字、漢字、数字、ひらがな、カタカナ、記号
表示言語		英語、ドイツ語、フランス語、オランダ語、スペイン語、日本語 (初期設定時)、イタリア語、ポルトガル語、中国語簡体字、韓国語、トルコ語、ポーランド語、ロシア語、チェコ語
有効印字幅	203 dpi	最大108 mm
	300 dpi	最大105.7 mm
印字可能文字	英/数/カナ	タイムスローマン、ヘルベチカ、プレゼンテーション、レターゴシック、プレステージエリート、クーリエ、OCR-A、OCR-B、ゴシック725ブラック
	漢字	16x16、24x24、32x32、48x48 (角ゴシック) 24x24、32x32 (明朝)
	外字	16x16、24x24、32x32、48x48ドット：各1種、フリーサイズ：40種
	その他	アウトラインフォント (英数字)：5種、価格フォント：3種、NotoSansFont
印字可能バーコード		JAN8/13、EAN8/13、EAN8/13 add on 2&5、UPC-A/E、UPC-A/E add on 2&5、Interleaved 2 of 5、NW-7、CODE39/93*3/128*3、EAN128、MSI、インダストリアル2of5、RM4SCC、KIX code、GS1 Databar、USPS Intelligent mail barcode、カスタマーバーコード、POSTNET、MATRIX 2 of 5 for NEC
印字可能2次元コード		QRコード、Micro QRコード、セキュリティ QRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、MicroPDF417、GS1 Data Matrix、GS1 QR code、Aztecコード、CP code

項目	仕様
インターフェース	USBポート ×1 (2.0準拠/ハイスピード対応) LANポート ×1 (10BASE-T/100BASE-TX準拠) USBホスト ×1 (USB V2.0準拠/ハイスピード対応) Bluetooth (オプション) ×1 (V5.2 (BR/EDR)) 無線LAN (オプション) ×1 (IEEE802.11a/b/g/n準拠) RS-232Cインターフェース (オプション) ×1
外形寸法 (W) x (D) x (H)	BV410T-GS02-S、BV410T-TS02-S : 200.0 mm × 267.0 mm × 198.3 mm BV410T-GC02-S、BV410T-TC02-S : 200.0 mm × 294.6 mm × 198.3 mm
質量	BV410T-GS02-S、BV410T-TS02-S : 約2.9 kg BV410T-GC02-S、BV410T-TC02-S : 約3.3 kg
オプション (別売り)	フルカッターモジュール (BV214T-F-S) (フルカッター標準モデル BV410T-GC02-S、BV410T-TC02-Sには使用できません。) パーシャルカッターモジュール (BV214T-P-S) ラベルカッターモジュール (BV214T-LC-S) 剥離モジュール (BV914T-H-QM-S) 外置き用紙ホルダー (BV904-PH-QM-S) シリアルインターフェースボード (BV700-RS-QM-S) 無線LANモジュール (BV700-WLAN-QM-S) Bluetooth 5.0モジュール (BV700T-BLTH-QM-S) ACアダプタカバー (BV914T-AC-QM-S) UHF帯RFID R/Wキット (BV704T-RFID-U4-S)

- *1 ご使用のサプライの組み合わせにより印字速度に制限がある場合があります。
- *2 剥離発行時の印字速度は101.6 mm (4") /秒までとなります。
- *3 CODE93およびCODE128のシリアルバーコードを印字する場合、印字開始位置から10 mm以上離れた位置にバーコードを配置してください。10 mm以上離して配置しないと、読み取り不良となる可能性があります。

補 足

本機の仕様は改良のため、将来予告無しに変更することがあります。

■ 用紙の仕様

用紙には、熱直接発色タイプのラベル、タグおよびレシートがあります。

用紙は当社認定の純正品をご使用ください。

用紙のご用命および用紙の作成につきましては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

(単位：mm)

項目		発行モード		
		連続発行/手切り発行	剥離発行	カット発行
用紙ピッチ	ラベル	10.0 ~ 999.9	25.4 ~ 152.4	25.4 ~ 999.9
	タグ	10.0 ~ 999.9	—	25.4 ~ 999.9
	連続ラベル	10.0 ~ 999.9	—	25.4 ~ 999.9
用紙長	ラベル	8.0 ~ 997.9	23.4 ~ 150.4	22.4 ~ 996.9
	連続ラベル	10.0 ~ 999.9	—	25.4 ~ 999.9
台紙幅・タグ幅・連続ラベル幅		感熱紙：25.4 (15.0：リストバンドのみ) ~ 118.0 ^{*1} 転写紙：25.4 ~ 105.0		
ラベル幅		感熱ラベル：22.4 ~ 115.0 ^{*1} 転写ラベル：22.4 ~ 102.0 連続ラベル：22.4 ~ 118.0 ^{*1}		
ギャップ/黒マーク長		2.0 ~ 10.0	2.0 ~ 10.0	3.0 ~ 10.0
有効最大印字幅		BV410T-GC02-S/BV410T-GS02-S：108.0 BV410T-TC02-S/BV410T-TS02-S：105.7		
有効印字長	ラベル	6.0 ~ 995.9	21.4 ~ 148.4	20.4 ~ 994.9
	タグ	6.0 ~ 995.9	—	20.4 ~ 994.9
	連続ラベル	8.0 ~ 997.9	—	23.4 ~ 997.9
スローアップ/ダウン区間		1.0 mm		
用紙厚さ		0.06 ~ 0.30、0.23、0.40、0.42 ^{*2}		
最大ロール径		Ø127.0、Ø214.0 ^{*3}		
紙管の内径		Ø25.4±1 (1")、Ø38.1±1 (1.5")、Ø42.0±1 (1.65")、Ø76.2 (3") ^{*3}		
巻き方向		<ul style="list-style-type: none"> • 外巻き • 内巻き - 連続発行/手切り発行/剥離発行時 紙管内径：Ø38.1、Ø42.0、Ø76.2^{*3} - カット発行時 紙管内径：Ø42.0、Ø76.2^{*3} 		

*1 カット発行時に外巻き用紙を使用する場合は、幅が110 mm以下の用紙を使用することを推奨します。外巻き用紙は、巻きぐせにより、用紙の先端がカッター刃に当たる可能性があります。

*2 0.23 mm、0.42 mmはリストバンドのみ。0.40 mmはRFIDタグ。ただしRFIDチップ高さを除く。

*3 外巻き用紙ホルダー使用時。

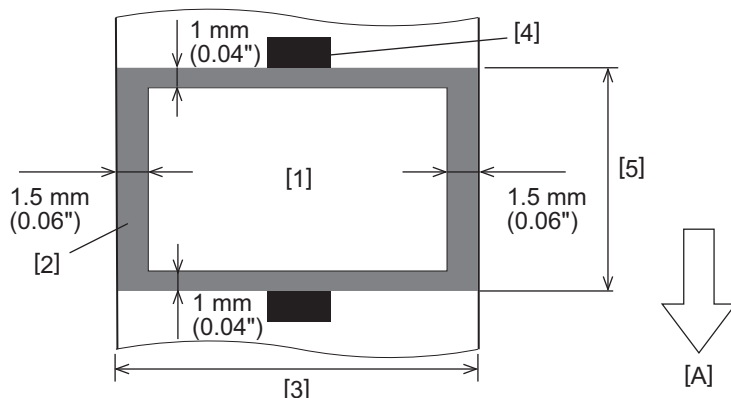
注意

- 用紙先端付近は、印字条件により印字品質に影響が出る場合がありますので、印字フォーマット作成時にご確認ください。バーコード等の印字位置は用紙先端より3 mm以上離すことを推奨します。
- 幅の狭い用紙を使用した場合、用紙のエッジで印字ヘッドの保護膜が削れ、印字ヘッドの断線が発生することがあります。
- 用紙の最後尾がテープや糊で紙管に留められている場合、テープや糊がはがれる瞬間に用紙の負荷が変動し、搬送ムラが発生することで印字に影響することがあります。特に、このときに印字したバーコードや二次元コードが読取り不可となる可能性があるため、そのラベルをご使用前に必ずお客様による確認をお願いします。

ラベルの場合は、最終ラベルから台紙を約200 mm残して紙管に貼り付けることで、印字への影響を回避できます。ただし、最終ラベルを印字後、台紙部分で用紙無しエラーが発生する代わりに紙送りエラーが発生します。

用紙ピッチが37 mm以下のラベルの場合、上記のように最終ラベルに台紙を残さない状態でも、用紙無しエラーにすることはできますが、台紙終端から約180 mm手前のラベル印字に搬送ムラによる印字への影響が発生する場合があります。

- 用紙の最後尾のテープの状態によっては、はがれたテープがセンサーにかかり、用紙無しエラーではなく紙送りエラーが発生する場合があります。
- ラベル使用時に「自動正転待機」を有効にすると、最終ラベル発行後、用紙のラベルギャップが剥離台先端まで送り出されるので、ラベルの手切りが容易になります。ただし、ラベルを手切りしないまま次の発行を行うと、バックフィード時にラベルがはがれ、紙づまりが発生することがあります。
- RFIDラベルは連続発行で使用してください。RFIDラベルのピッチによっては、逆転を伴う発行（「自動正転待機」を有効にした状態でのカット発行、剥離発行、連続発行）時に紙づまりが発生することがあります。
- 下図のグレーの部分は印字保証外エリアです。また、この部分に印字すると印字保証エリアの印字品質が損なわれる場合があります。



1. 印字保証エリア
 2. 印字保証外エリア
 3. ラベル上紙/タグの幅
 4. 検出部
 5. ラベル上紙/タグの長さ
- A: 用紙送り方向

- 剥離モジュール装着時は、ミシン目を入れた用紙を使用できません。
- ミシン目を入れた用紙を使用する場合は、ミシン目の影響で、搬送不良（折れ、貫き部出っ張り）、センサー検出不良（貫き部での光軸乱れ）が発生する場合があります。
- カッター使用時は、搬送不具合予防のためミシン目の後ろをカットしてください。ミシン目を避け確実にカットできる位置まで、「カット位置微調」で調整してください。
- ミシン目を入れたラベル用紙を使用する場合は、お買い上げの販売店に詳細をお問い合わせください。

■ RFIDタグ紙の仕様

RFIDタグ紙の仕様は、基本的に印刷用紙の仕様に準じています。異なる項目を以下の表に記載します。RFIDタグ紙のご用命はお買い上げの販売店にお問い合わせください。

(単位：mm)

項目	発行モード		
	連続発行	剥離発行	カット発行
用紙ピッチ	16.0 ～ 999.9	25.4 ～ 152.4	25.4 ～ 999.9
用紙長	13.0 ～ 997.9	23.4 ～ 150.4	22.4 ～ 996.9
ギャップ/黒マーク長	2.0 ～ 10.0	2.0 ～ 10.0	3.0 ～ 10.0
有効印字長	ラベル	11.0 ～ 995.9	21.4 ～ 148.4
	タグ	11.0 ～ 995.9	—
紙管の内径	Ø38.1、Ø76.2		
巻き方向	外巻き		

□ RFIDタグ紙使用上の注意事項

1. エンコーディングの精度

使用するタグ（IC、インレイ形状/サイズ）性能、温度・湿度のほか、外部要因（ノイズ）等、すべての使用環境・条件において100%のエンコードを保証することはできませんので、必ず実際に使用する環境での事前確認を実施してください。エンコードに失敗した場合、横線が印字されます。

2. RFIDタグ紙の保管

読取り/書込み性能に影響が出るため、プリンタの近くにRFIDタグ紙を保管しないでください。

3. ロール形状のRFIDタグ紙

RFIDタグ紙をロール状にする場合、その巻き圧に注意してください。ラベルの糊、タグ、台紙にもよりますが、RFIDタグ紙は一般的に巻きぐせがつきやすいうえ、さらに内巻きの場合、紙づまりの原因になることがあります。特に理由が無い場合は、外巻きのRFIDタグ紙を使用することを推奨します。

4. センサー

透過あるいは反射センサーを有効にして発行する場合、RFIDタグが封入されている部分のアンテナパターン等により透過率/反射率が変化することがあります。このような場合、システムモードでセンサー調整およびスレッシュホールド設定を行ってください。

☞ P.113 「センサー」

☞ P.62 「スレッシュホールドの設定（プレ印刷用紙を使用する）」

5. カッター

RFIDタグ紙をカット発行する場合、RFIDタグのアンテナやICチップを切断しないように注意してください。

6. 静電気

湿度の低い環境等でRFIDタグ紙を発行する場合、紙またはリボンによって発生する静電気によりデータ書込み成功率が低下する場合がありますので注意してください。

7. 周囲温度

無線の性能は周囲温度によって変化するため、RFID設定を行ったときの周囲温度から温度が変化した場合は、RFIDタグへのデータ書込みが失敗する可能性があります。

8. 手切り/カット発行

手切りおよびカット発行時、RFIDタグ書込み位置へ逆転フィードで移動するときにRFIDタグ紙がプラテンから外れて発行が継続できない場合があります。

9. 剥離発行

RFIDラベルを剥離発行する場合、使用するラベルの糊、タグ、台紙で剥離性能が左右されるため、用紙によっては正常な剥離発行ができない場合があります。

10. ショートピッチ用紙使用時の注意

ピッチ（RFIDタグの配置間隔）の短い用紙を使用する場合、書き込むべきタグに対してデータを書き込んだつもりが、隣のタグに書き込んでしまうことがあります。タグの種類によってデータを書き込むことができる位置が異なるため、他のタグへの書き込みをしないよう、実際のタグを使って測定する必要があります。読取り/書込み位置の診断には、BCP RFIDアナライズツールを使用します。詳しくはお買い上げの販売店までお問い合わせください。

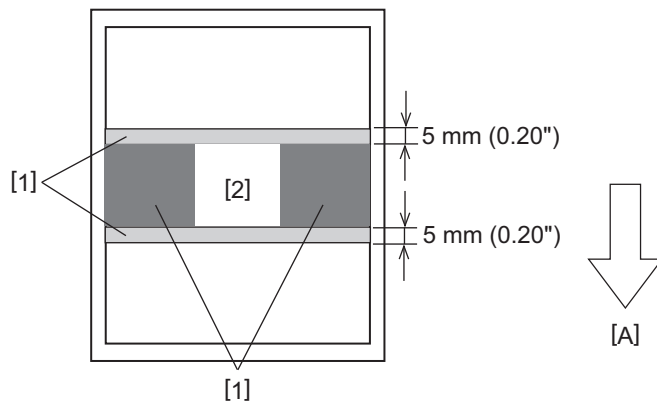
11. 不良RFIDタグ

RFIDタグ紙は、メーカーからの出荷時点で不良タグが混入していることがあります。不良率はタグの種類、RFIDタグ紙の製造方法等によって異なります。RFIDタグ紙のメーカーに対して、製造プロセスにおいて不良タグを排除していただくか、不良タグ上にマークを付ける等の方法で不良タグを識別できるようにしていただき、その識別方法を確認しておく必要があります。

12. RFIDタグ封入部分（チップ/アンテナ部）への印字

RFIDタグが封入されている部分の用紙表面には段差が生じるため、この部分に印刷をすると段差周辺の印字が途中で切れる場合があります。特に、RFIDタグ封入部の前後5 mmと両側では印字のかすれや途切れが発生しやすくなりますので、これらの領域は印字保証外となります。（下図参照）

* 印字のかすれや途切れの程度は、封入するRFIDタグ（チップ/アンテナ）の高さによって異なります。

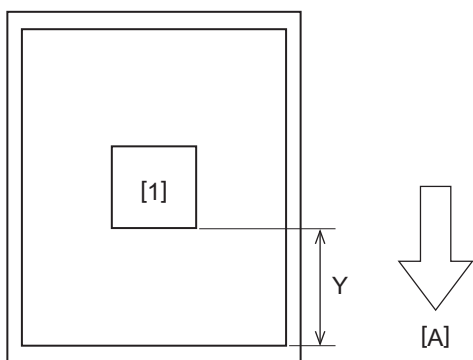


1. 印字保証外エリア
 2. RFIDタグ封入部
- A：用紙送り方向

13. RFIDタグ封入部分（チップ/アンテナ部）の配置に関する制約

- RFIDタグ封入部分（チップ/アンテナ部）は、原則として用紙先頭から50 mm以内に配置してください（下図 $Y \leq 50$ mm）。50 mmを超えて配置すると、RFIDタグ書込み位置からホームポジションへの移動に50 mm以上の逆転フィードが必要になり、プリンタが正常に逆転フィードできない可能性があります。

- 手切り発行やカット発行を行う場合、RFID タグ封入部分（チップ/アンテナ部）は、用紙先頭から 30 mm以上離して配置してください（下図 Y \geq 30 mm）。30 mm未満の場合、発行開始位置（ホームポジション）からRFIDタグ書込み位置へ移動する際に、逆転フィードの発生により、RFIDタグ紙がプラテンから外れて発行が継続できない場合があります。



1. RFIDタグ封入部
A：用紙送り方向

■ リボンの仕様

リボンは当社認定の純正品をご使用ください。
リボンのご用命は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

項目		仕様
リボン形状		スプール方式
リボン幅		40 ~ 110 mm 標準幅 Ø12.7 mm (0.5") 内径紙管：55、110 mm Ø25.4 mm (1.0") 内径紙管：60、83、110 mm
リボン幅公差		±1 mm
リボン巻上げ幅		リボン幅 -0/+1 mm
最大リボン長		Ø12.7 mm (0.5") 内径紙管：100 m ただし、リボン最大外径を超えないこと Ø25.4 mm (1.0") 内径紙管：300 m ただし、リボン最大外径を超えないこと
リボン最大外径		Ø12.7 mm (0.5") 内径紙管：Ø40 mm Ø25.4 mm (1.0") 内径紙管：Ø65 mm
背面処理		有
リボン紙管	材質	紙
	内径	Ø12.7 mm (0.5") -0/+0.5 mm (剥離モジュールを使用する場合は使用できません。) Ø25.4 mm (1.0") -0/+0.5 mm
	長さ	110 mm ±1 mm
リーダーテープ		ポリエステルフィルム (不透明) 150 mm ±5 mm以上
エンドテープ		無し
巻き方		外巻き

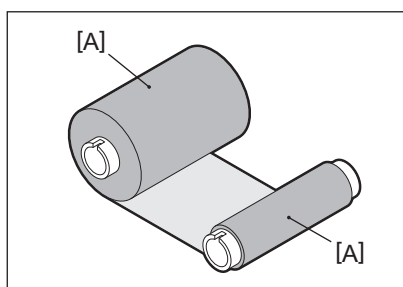
注意

- 用紙 (台紙) の幅に合ったリボンを使用してください。リボンの幅が狭すぎると印字可能な幅が狭くなります。逆に、リボンの幅が広すぎるとリボンにシワが寄る原因となります。以下に示すように、用紙 (台紙) の幅よりも5 mm以上広いリボンを使用してください。

用紙幅	25.4* ~ 50 mm	25.4* ~ 55 mm	56 ~ 78 mm	79 ~ 105 mm
リボン幅	55 mm	60 mm	83 mm	110 mm

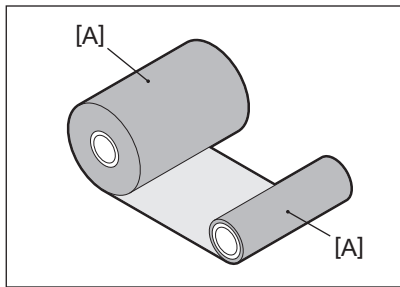
* リストバンド使用時の用紙幅は最小15 mm

- 切り欠き付きのある紙管も使用できます。
- 紙管幅よりリボン幅が狭いリボンの場合
 - リボンの中心を紙管の中心に合わせて、インク面 [A] を外側にして巻いてください。
 - リボンの中心と紙管中心の位置ずれは、±1 mm以内に収めてください。



- 紙管幅＝リボン幅のリボンの場合

- 紙管とリボンの幅を揃えて、インク面 [A] を外側にして巻いてください。



- トップカバーを閉めた状態で高温環境下に放置すると、使用するリボンの種類によっては、印字ヘッドの位置でリボンと当接している用紙にリボンのインクが転写して、黒線が出てしまうことがあります。
- リボンと用紙の組み合わせによっては、用紙先端付近（印字開始位置から5 mm以内）で印字した横罫線がかすれる場合があります。印字速度を落とすか、リボンの種類を変更して印刷することを推奨します。
- 剥離モジュールを使用する場合は、紙管内径が25.4 mmのリボンを使用してください。

□ オプション使用時の注意事項

⚠ 警告

各オプションを組み込む前にプリンタの電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください

電源がONの状態を組み込むと、火災・感電・けがの恐れがあります。また、プリンタ内部の電気回路保護のため、プリンタの電源OFF後1分以上経過してからケーブルの着脱を行ってください。

⚠ 注意

- カバー類で指や手を挟まないように注意してください
- 印字直後は、印字ヘッド、ステッピングモーターおよびその周辺部に手を触れないでください
やけどの原因となることがあります。
- カッターモジュールの取り付け・清掃時、カッターの刃に直接触れないでください
けがの原因となることがあります。

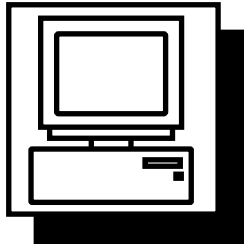
注意

- カッターを装着してラベル用紙をカット発行する場合、ギャップ部（台紙部）をカットしてください。ラベル自体をカットして発行することは避けてください。紙づまり、故障、カッターの寿命を短くする原因となります。
- カット発行時に内巻きの用紙を使用する場合は、ラベル間ギャップが3 mmの用紙を推奨します。ラベル間ギャップが広いと紙づまりが発生する可能性があります。
- カット位置が適切でない場合、[カット位置微調] により調整してください。
☞ P.80 「カット（または剥離）位置微調」
- カット発行時に用紙がプラテンに巻き込まれる場合は、パラメータ設定の [自動正転待機] を [有効] に変更してください。
☞ P.74 「自動正転待機」
- カット発行時に用紙がプラテンに巻き込まれる場合は、BCP Setting Toolを使用して [自動正転待機] を ONに設定してください。
- 静電気の発生しやすい用紙やリボンを使用すると、カッター排出口にラベルが貼り付くことがあります。このため、ラベルが排出される順番が入れ替わることがあります。
- 剥離モジュールを装着してラベル用紙を剥離発行する場合、ラベルや台紙の材質によっては正しくラベルを剥離できないことがあります。ラベルや台紙の材質の詳細については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 剥離発行したラベルは、自重により前方向に垂れ下がり、プリンタ前面や床面に貼り付くことがあります。150 mm以上のラベルを使用する場合は、床面に貼り付かないよう注意してください。
- パーシャルカットモードでは、有効印字範囲の前に32 mm長の余白が自動的に付加されます。
- 剥離モジュールを使用する場合は、紙管内径が25.4 mmのリボンを使用してください。



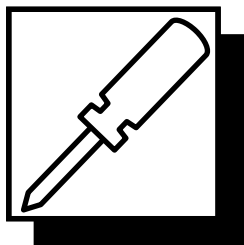
保証（保証書）について

保証書はお買い上げの販売店でお渡しいたします。必ず「お買い上げ日・保証期間・販売店名」などの記入をご確認の上、大切に保管してください。保証書に「お買い上げ日・保証期間・販売店名」など所定事項の記入が無いときは、直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間中は保証書の規定に従って無料修理いたします。保証期間が過ぎているときは、お買い上げの販売店にご相談ください。



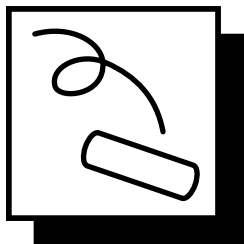
ユーザー登録について

このたびお買い上げいただきました製品に関するアフターサービスの提供は、サービスを担当するサービスステーションに登録されて実施されます。したがって、製品を受領されましたら、直ちにお買い上げの販売店に「ユーザー登録」の手続きを要請し、ご確認をお願いいたします。なお、安心してご利用いただけますように「保守サービス契約システム」をお勧めいたします。詳細は最寄りのサービスステーションにお問い合わせください。



修理サービスについて

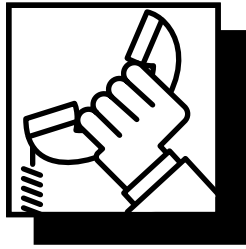
ご使用中に異常が生じたときは、直ちに使用をやめて電源プラグを抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。なお、ご相談される場合は製品の型式名、およびお買い上げ時期を忘れずにお知らせください。



消耗品について

消耗品は製品に合った当社純正品を、お買い上げの販売店にご注文ください。

- 用紙
- ヘッドクリーナーペン（図番：7KF01584100）
- ラッピングシート（図番：FMBC0080801）



お問い合わせ先について

修理訪問についての詳細は、お買い上げの販売店またはコールセンターにご相談ください。

修理のご相談など

電話番号はお間違えのないよう、十分ご確認のうえおかけください。



0570-033-477 (コールセンター)

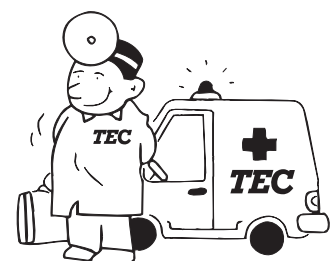
受付時間および修理対応時間: 祝日を除く月～金曜日 9:00～17:00

- ・ ナビダイヤルを利用しています。なお、通話料はお客さまのご負担となります。
(ナビダイヤルは、NTTコミュニケーションズ株式会社のサービスです。)
- ・ お問い合わせ内容の正確な把握と対応品質向上のため、通話内容を記録、録音させていただいております。

※ 記載の内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
最新の情報は当社ホームページをご確認ください。

便利メモ	お買い上げ日	年	月	日
	販売店名			
	電話番号	()	—	
	サービス担当名			
	電話番号	()	—	

お買い上げ日、販売店名、サービス担当名、電話番号などを記入しておくとう便利です。



サービスステーション所在地一覧

都道府県名	サービスステーション名	郵便番号	所在地
北海道	札幌SS	060-0908	北海道札幌市東区北8条東6丁目12-79
	旭川SS	070-0032	北海道旭川市2条通13丁目左3号 富士原ビル2F
	(北見駐在)	090-0051	北海道北見市高栄東町1-11-37 アクティブウエルズ21 2番街3号室
	帯広SS	080-0013	北海道帯広市西3条南28丁目17-9 雅ハイム1F
	(釧路駐在)	085-0057	北海道釧路市愛国西一丁目1番10号 小林ビル1F
	苫小牧SS	053-0005	北海道苫小牧市元中野町4-15-15
(函館駐在)	041-0812	北海道函館市昭和2-25-13	
青森県	青森SS	030-0113	青森県青森市第二問屋町1-8-2
	(八戸駐在)	031-0031	青森県八戸市番町3 NCビル
岩手県	一関SS	021-0882	岩手県一関市上大槻街1-45 耕装第一ビル
	盛岡SS	020-0866	岩手県盛岡市本宮3-32-1
宮城県	仙台SS	981-3121	宮城県仙台市泉区上谷刈6-10-22
秋田県	秋田SS	010-0951	秋田県秋田市山王6-9-25 山王SEビル1F
	(大館駐在)	017-0045	秋田県大館市大道2-1-35 あかね不動産ビル2F4号室
山形県	山形SS	990-0023	山形県山形市松波1-4-16
	(酒田駐在)	998-0842	山形県酒田市亀ヶ崎3-7-5
福島県	郡山SS	963-8047	福島県郡山市富田東5-423
	(いわき駐在)	973-8411	福島県いわき市小島町3-3-5 山一ビルNo2
茨城県	水戸SS	310-0852	茨城県水戸市笠原町600-27 SL笠原ビル
	土浦SS	300-0037	茨城県土浦市桜町4-3-18 土浦ブリックビル
	古河SS	306-0023	茨城県古河市本町1-10-12 エースビル
栃木県	宇都宮SS	321-0968	栃木県宇都宮市中今泉3-12-14
群馬県	高崎SS	370-0069	群馬県高崎市飯塚町458-2
埼玉県	さいたまSS	338-0001	埼玉県さいたま市中央区上落合5-20-30 3F
	川口SS	333-0816	埼玉県川口市差間3-17-15
	川越SS	350-1123	埼玉県川越市脇田本町30-2 醍醐ビル
	熊谷SS	360-0034	埼玉県熊谷市万平町1-33 三晴ビル
千葉県	千葉SS	263-0024	千葉県千葉市稲毛区穴川3-11-8 NTビル
	成田SS	286-0025	千葉県成田市東町157-12 クローバービル3F
	木更津SS	299-1154	千葉県君津市南久保2-14-4 富士ファーストビル1F
	船橋SS	273-0011	千葉県船橋市湊町1-1-1 朝日生命船橋湊町ビル1F
	柏SS	270-0135	千葉県流山市野々下3-755-5
	東京	城東SS	136-0071
城南SS	108-0075	東京都港区港南3-8-1 住友不動産品川港南ビル11F	
城西SS	169-0072	東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル4F	
多摩SS	190-0011	東京都立川市高松町3-1-5 新立ビル2F	
神奈川県	横浜SS	240-0005	神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134 横浜ビジネスパークウエストタワー4F
	川崎SS	212-0027	神奈川県川崎市幸区新塚越201 ルリエ新川崎5F
	相模原SS	252-0001	神奈川県座間市相模が丘1-34-20 Zstyle
	横浜北SS	225-0024	神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾1152-13 セジュール市ヶ尾
新潟県	湘南SS	254-0035	神奈川県平塚市宮の前1-2 エバース第7平塚ビル3F
	高崎SS	370-0069	群馬県高崎市飯塚町458-2
	新潟SS	950-0963	新潟県新潟市中央区南出来島1-9-1
富山県	長岡SS	940-2128	新潟県長岡市新産東町58
	(上越駐在)	943-0832	新潟県上越市本町4-2-25
富山県	富山SS	939-8204	富山県富山市根塚町1-3-10
石川県	金沢SS	920-0024	石川県金沢市西念1-17-9
福井県	福井SS	918-8239	福井県福井市成和2-708
山梨県	甲府SS	400-0828	山梨県甲府市青葉町20-7
長野県	松本SS	390-0827	長野県松本市出川3-9-8
	長野SS	381-0034	長野県長野市大字高田943-1

都道府県名	サービスステーション名	郵便番号	所在地
岐阜県	岐阜SS	500-8369	岐阜県岐阜市敷島町9-28-1
静岡県	静岡SS	422-8033	静岡県静岡市駿河区登呂6-5-47
	沼津SS	410-0059	静岡県沼津市若葉町10-22
	(伊豆駐在)	410-2392	静岡県伊豆の国市大仁570 東芝テック(株)内
	浜松SS	435-0043	静岡県浜松市中央区宮竹町171-1
愛知県	名古屋SS	460-0024	愛知県名古屋市中区正木3-5-17
	春日井SS	486-0826	愛知県春日井市貴船町148
	安城SS	446-0074	愛知県安城市井山町一本木6-4
豊橋SS	441-8031	愛知県豊橋市中郷町118-1 豊橋サウスビル5F	
三重県	津SS	514-0803	三重県津市柳山津興617
	四日市SS	510-0064	三重県四日市市新正4-15-15
滋賀県	滋賀SS	520-0047	滋賀県大津市浜大津1-1-3 朝日生命大津ビル3F
	(彦根駐在)	520-0082	滋賀県彦根市安清町11-12
京都府	京都SS	601-8443	京都府京都市南区西九条東御幸町13-1
	福知山SS	620-0054	京都府福知山市末広町5-10-1 双和産業ビル
大阪府	大阪北SS	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原5-6-11 3F
	大阪中央SS	550-0002	大阪府大阪市西区江戸堀2-6-33 江戸堀7の生命ビル9F
	枚方SS	573-0023	大阪府枚方市東田宮1-13-11
	堺SS	591-8023	大阪府堺市北区中百舌鳥町5-754
兵庫県	神戸SS	651-0086	兵庫県神戸市中央区磯上通4-1-6 KDX神戸ビル4F
	明石SS	673-0891	兵庫県明石市大石町1-2-37 YS明石ビル3F
(姫路駐在)	670-0955	兵庫県姫路市安田1-68-1 JK姫路南ビル3F	
奈良県	奈良SS	630-8115	奈良県奈良市大宮町4-465-10
和歌山県	和歌山SS	640-8341	和歌山県和歌山市黒田278-1
	(田辺駐在)	646-0021	和歌山県田辺市あけぼの45-17
鳥取県	鳥取SS	680-0034	鳥取県鳥取市元魚町2-105 アイシンビル
島根県	松江SS	690-0011	島根県松江市東津田町459-3
	(益田駐在)	698-0003	島根県益田市乙吉町イ342-1 益田第一ビル
岡山県	岡山SS	700-0936	岡山県岡山市北区富田503-6
広島県	広島第一SS	730-0047	広島県広島市中区平野町2-21 広電平野町ビル
	広島第二SS	730-0047	広島県広島市中区平野町2-21 広電平野町ビル
	福山SS	721-0973	広島県福山市南蔵王町6-15-45
山口県	山口SS	754-0001	山口県山口市小郡上郷3582-1
	(徳山駐在)	745-0806	山口県周南市桜木3-5-69
徳島県	徳島SS	770-8053	徳島県徳島市沖浜東3-67-2
香川県	高松SS	761-8054	香川県高松市東八幡町6-9
愛媛県	新居浜SS	792-0812	愛媛県新居市坂井町2-2-10
	松山SS	790-0065	愛媛県松山市宮西1-8-14 河塚ビル
(宇和島駐在)	798-0031	愛媛県宇和島市栄町港3-4-1 栄町港丸和ビル2F	
高知県	高知SS	780-0806	高知県高知市知寄町2-1-37
	(四万十駐在)	787-0033	高知県四万十市中村大橋通6-3-4
福岡県	福岡SS	812-0007	福岡県福岡市博多区東比恵2-9-23
北九州SS	803-8686	福岡県北九州市小倉北区下道津一丁目10-1	
佐賀県	佐賀SS	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田292-2
長崎県	長崎SS	851-2127	長崎県西彼杵郡長与町高田郷3055-4
熊本県	熊本SS	860-0834	熊本県熊本市南区江越1-16-28
大分県	大分SS	870-0876	大分県大分市大字三芳字庄の原1292-1
宮崎県	宮崎SS	880-0844	宮崎県宮崎市丸丸町232-2
鹿児島県	鹿児島SS	890-0068	鹿児島県鹿児島市東都元町11-29
沖縄県	那覇SS	901-0152	沖縄県那覇市小嶽3-12-13

6
付録

諸事情により所在地、電話番号などが変更になることがあります。ご了承ください。 2024年1月1日現在
最新の電話番号・住所等は東芝テックソリューションサービス(株)のホームページにてご確認願います。
<https://www.toshibatec-ttss.co.jp/ttss/>

消耗品の交換方法

■ 用紙

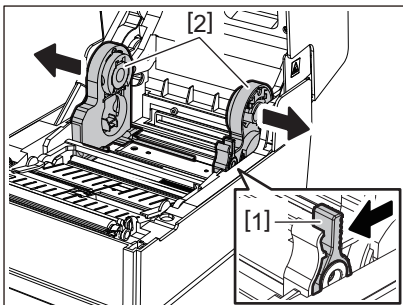
交換前の用紙と同じタイプで、同じ幅の用紙に交換するものとして説明します。
用紙は当社認定の純正品をご使用ください。

1 トップカバーを開きます。

⚠ 注意

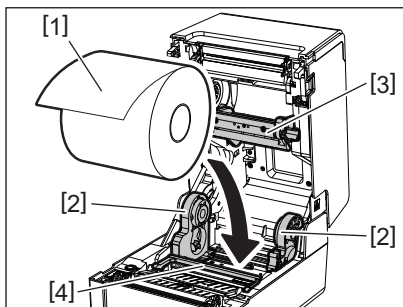
印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないこと
やけどの原因となることがあります。

2 ホルダー固定レバー [1] をつまみながら用紙ホルダー [2] を左右に広げます。



3 紙管または残っている用紙を取り外します。

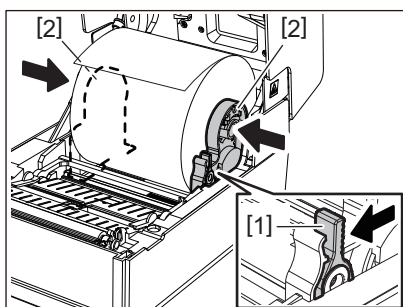
4 印字面が上になるように新しいロール紙 [1] を用紙ホルダー [2] の間に置きます。



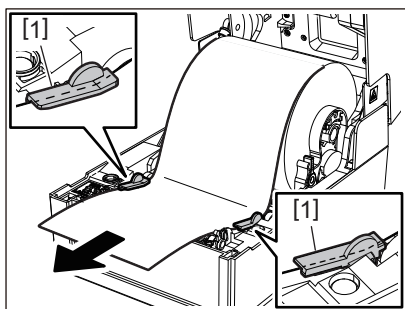
注意

- 用紙の巻き方向に注意してセットしてください。逆にセットすると印字されません。
- 用紙の先端は、ハサミでまっすぐに切りそろえてください。ラベルの場合は、ラベルの間の台紙部を切りそろえてください。
- 用紙をセットする際に、用紙ダンパー（上）[3] と用紙ダンパー（下）[4] を破損しないように気をつけてください。

5 ホルダー固定レバー [1] をつまみながら用紙ホルダー [2] を内側にスライドさせてロール紙をしっかりと固定します。紙管ホルダー [2] の凸部が、紙管に収まっていることを確認してください。



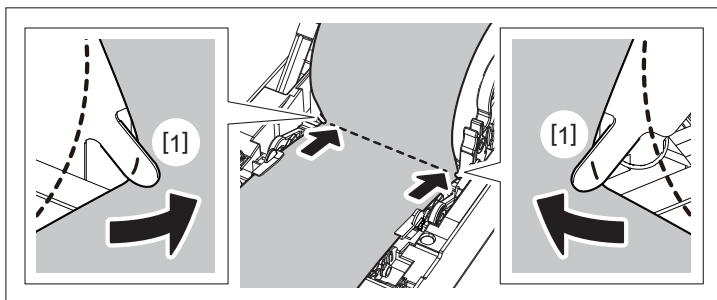
- 6 左右の用紙ガイド [1] に用紙を挟み、用紙の先端が用紙発行口より少し出る位置まで用紙を引き出します。



注意

用紙ガイド [1] が用紙を締め付けすぎないように注意してください。用紙を締め付けすぎると、用紙がたわみ、紙づまりや紙送り不良の原因になります。

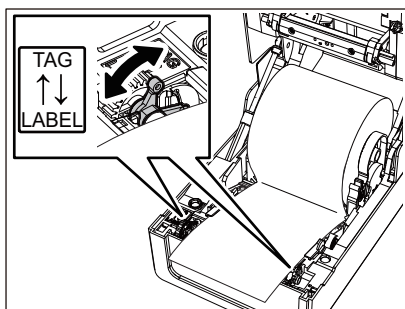
- 7 外巻き用紙の場合は、用紙の左右両端を指で押して、外巻き用紙フック [1] に用紙を通します。



注意

外巻き用紙フック [1] に用紙を通すときは、用紙にシワを入れたり、傷をつけたりしないように注意してください。シワや傷がある用紙を使用すると、印字不良の原因になります。

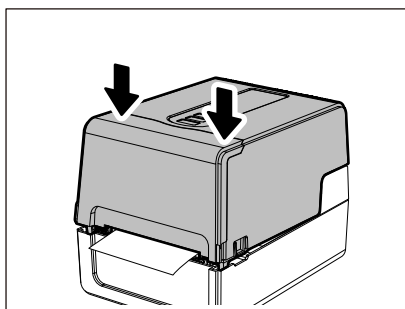
- 8 セットした用紙の種類に合わせて、プラテンホルダーの左右のレバーを倒します。(ラベル：手前側に倒す、タグ：奥側に倒す。)



注意

幅が50.8 mm未満のタグ紙を使用する場合は、「LABEL」側に合わせてください。

- 9 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押しして確実に閉めます。



用紙の取り付け方の詳細は、以下の参照先をご覧ください。
P.33 「用紙の取り付け」

■ リボン

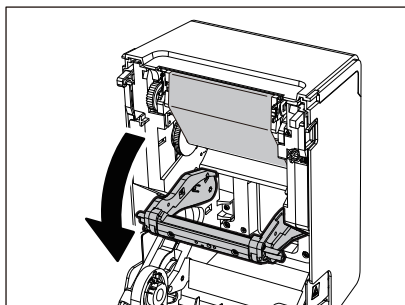
交換前のリボンと同じタイプで、同じ幅のリボンに交換するものとして説明します。
リボンは当社認定の純正品をご使用ください。

- 1 トップカバーを開きます。

⚠ 注意

印字直後は、印字ヘッドおよびその周辺部に手を触れないことやけどの原因となることがあります。

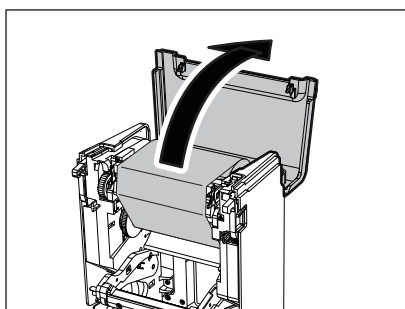
- 2 用紙ダンパー（上）を押し下げます。



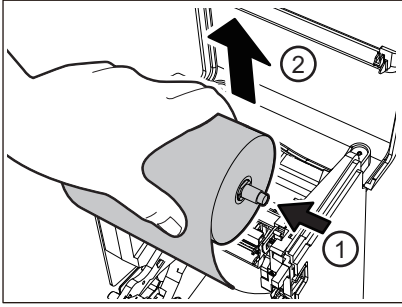
注意

用紙ダンパー（上）は軽く押し下げてください。用紙ダンパー（上）を強く握ったり引っ張ったりすると、故障の原因となります。

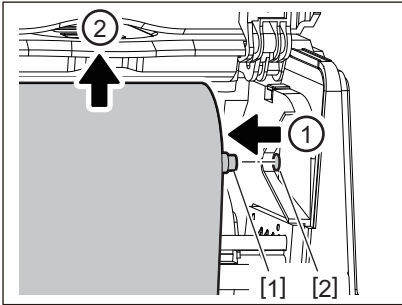
- 3 リボンカバーを開きます。



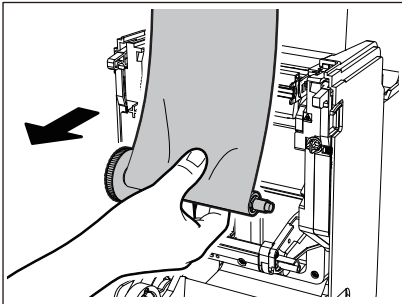
4 リボンの巻き取り側のロールをガイドから取り外します。



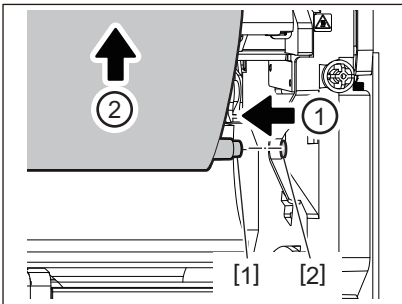
スプールを左に押し込んで、リボンスプラーの右側 [1] をガイド穴 [2] から外します。



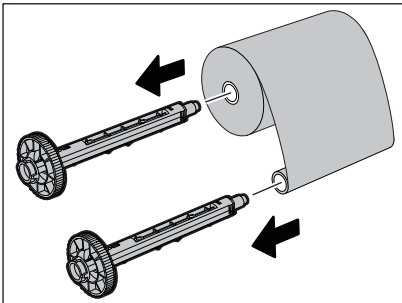
5 リボンの供給側のロールをガイドから取り外します。



スプールを左に押し込んで、リボンスプラーの右側 [1] をガイド穴 [2] から外します。

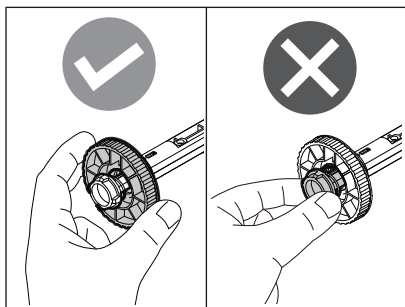


6 リボン [1] の紙管からリボンスプラー [2] を抜き取ります。

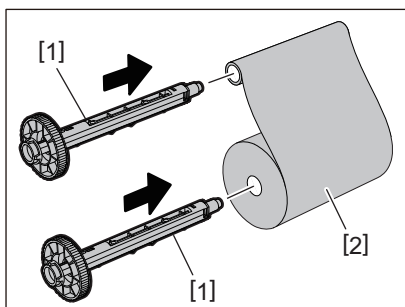


注意

リボンスプーラーを持つときは、緑色の部分を持ってください。先端の黒い突起部分を持って扱うと故障の原因となります。



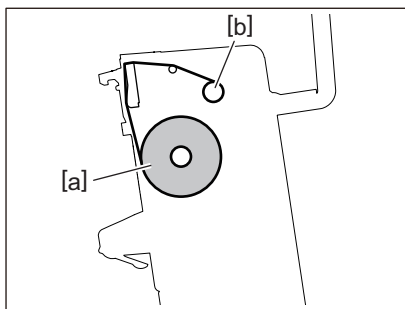
7 リボンスプーラー [1] を交換するリボン [2] の紙管に挿し込みます。



注意

供給側のロールの紙管と巻き取り側のロールの紙管の両方に、リボンスプーラーを挿し込みます。

8 リボンを下図のようになるように取り付けていきます。

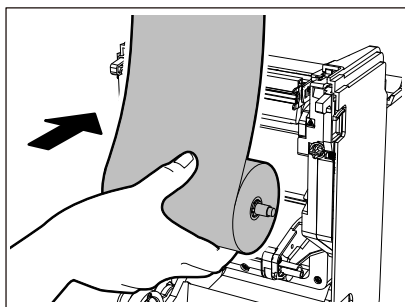


- [a] 供給側
- [b] 巻き取り側

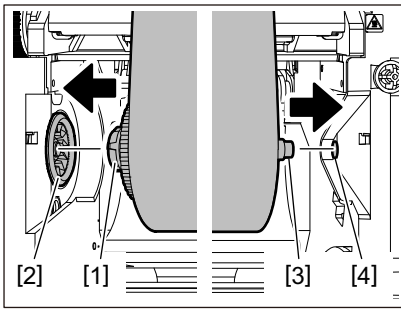
注意

リボンの表裏に注意してください。

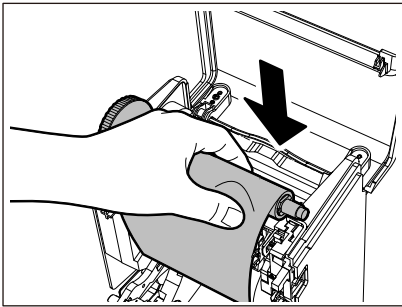
9 リボンの供給側のロールをガイドに取り付けます。



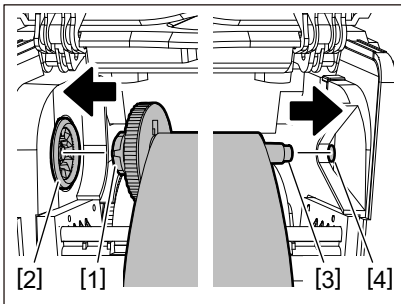
1. ロールに取り付けたリボンスプラーの左側 [1] を、ガイドホイール [2] に合わせます。
2. リボンスプラーの右側 [3] を、ガイド穴 [4] に挿入します。



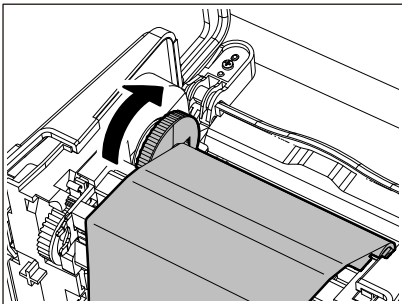
10 リボンの巻き取り側のロールをガイドに取り付けます。



1. ロールに取り付けたリボンスプラーの左側 [1] を、ガイドホイール [2] に合わせます。
2. リボンスプラーの右側 [3] を、ガイド穴 [4] に挿入します。

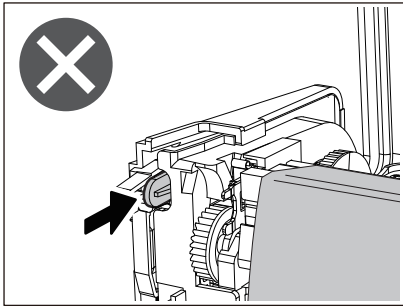


11 リボンスプラーを上方向に回して、リボンの弛みを取ります。

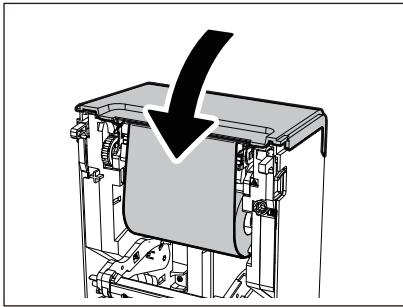


注意

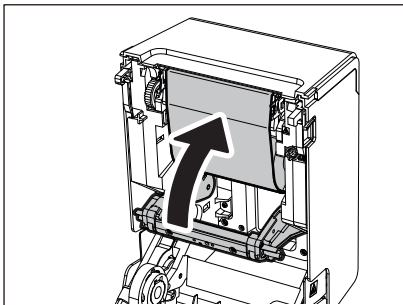
- リボンの弛みは印字品質低下の原因となります。リボンの弛みが取れた状態から、リボンスプーラーをさらに2周分回して、リボンの弛みを確実に取ってください。
- リボン取り付け時に手指で触れた部分の印字品質は劣る場合があるので、手指で触れた部分が印字ヘッド通過位置を越えるまでリボンスプーラーを回してください。
- 下図のレバーを押すと、リボンスプーラーの逆回転防止ロックが解除されるため、リボンが弛みます。リボン巻き取り後に誤ってレバーを押さないようご注意ください。



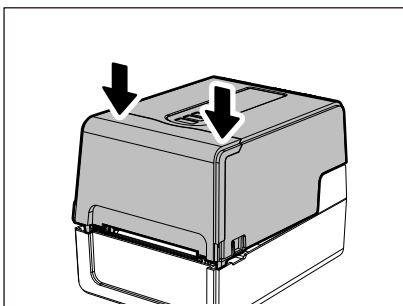
12 リボンカバーを「カチッ」と音がするまで閉めます。



13 用紙ダンパー（上）を上げます。



14 トップカバーを静かに下ろし、トップカバー前部を「カチッ」と音がするまで両手で押して確実に閉めます。



リボンの取り付け方の詳細は、以下の参照先をご覧ください。
P.50 「リボンの取り付け（熱転写方式で印字する場合）」

注意

リボン終了時にリボンエンド検出のタイミングによっては、印字が途切れて発行される場合があります。新しいリボンに交換した後に [RESTART] キーを押すと、エラーラベルから再発行します。

テック バーコードプリンタ

取扱説明書

BV410T-GS02-S

BV410T-TS02-S

BV410T-GC02-S

BV410T-TC02-S

東芝テック株式会社